

創立70周年記念誌

公益財団法人 静岡市体育協会

創立70周年記念誌



公益財団法人 静岡市体育協会

目　　次

挨拶文

○　公益財団法人静岡市体育協会会長　［挨拶］ …… 1

○　静岡市長　［祝辞］ …… 2

○　公益財団法人静岡市体育協会前副会長　［祝辞］ …… 3

思い出のアルバム …… 4

第１章　過去20年間の市協会の歩み

沿革 …… 10

第２章　加盟団体の活動

加盟団体一覧 …… 24

加盟団体寄稿文

1　静岡市弓道連盟 …… 25
2　静岡市剣道連盟 …… 28
3　静岡市山岳連盟 …… 31
4　静岡市クレー射撃協会 …… 35
5　静岡市サッカー協会 …… 37
6　静岡市柔道連盟 …… 39
7　静岡市水泳協会 …… 43
8　静岡市スキー協会 …… 44
9　静岡市相撲連盟 …… 47
10　静岡市卓球協会 …… 48
11　静岡市ソフトテニス協会 …… 50
12　静岡市テニス協会 …… 53
13　静岡市バスケットボール協会 …… 54
14　静岡市バレーボール協会 …… 57
15　静岡市野球連盟 …… 59
16　静岡市ラグビーフットボール協会 …… 61
17　静岡市陸上競技協会 …… 63
18　静岡市ソフトボール協会 …… 65
19　静岡市スケート協会 …… 67
20　静岡市自転車競技連盟 …… 69
21　静岡市体操協会 …… 71
22　静岡市パワーリフティング協会 …… 75
23　静岡ラジオ体操連盟 …… 77
24　静岡市空手道連盟 …… 79
25　静岡市バドミトン協会 …… 81
26　静岡市アーチェリー協会 …… 83
27　静岡市馬術連盟 …… 87
28　静岡市合気道連盟 …… 89
29　静岡市少林寺拳法協会 …… 91
30　静岡市ハンドボール協会 …… 93
31　静岡市ボウリング連盟 …… 95
32　静岡市なぎなた連盟 …… 96
33　静岡市ゴルフ連盟 …… 98
34　静岡市トランポリン協会 …… 99
35　静岡市ダンススポーツ連盟 …… 101
36　静岡市武術太極拳連盟 …… 103
37　静岡バルーンバレーボール協会 …… 105
38　静岡市グラウンド･ゴルフ協会 …… 108
39　静岡市フロアボール協会 …… 110
40　静岡市ライフル射撃協会 …… 112
41　NPO法人　清水港ヨット協会 …… 114
42　静岡市ウエイトリフティング協会 …… 116
43　静岡市レクリエーション協会 …… 118
44　静岡市ターゲット･バードゴルフ協会 …… 119
45　静岡市スポーツチャンバラ協会 …… 120
46　静岡市中学校体育連盟 …… 122
47　静岡市スポーツ少年団 …… 123
48　静岡市ファミリーバドミントン協会 …… 125

第３章　資料

管理施設概要一覧 …… 128

スポーツ教室一覧 …… 131

役員一覧 …… 132

20年間の表彰受賞者一覧 …… 134

定款 …… 149

あとがき …… 164

会長あいさつ



創立 70 周年を迎えて

公益財団法人 静岡市体育協会
会長　小嶋　善吉

私ども静岡市体育協会が創立 50 周年を迎えましたのもつい先日のような気がいたしますが、月日が経つのは早いもので、平成 30 年 3 月で創立 70 周年の節目の年を迎えることが出来ました。

そして、この 20 年間は協会にとって大きな変遷の期間でもありました。

まず、最初に挙げられるのが平成 17 年度の静岡・清水体育協会の合併です。この 2 年前の平成 15 年に静岡・清水の両市が合併し政令指定都市に移行しました。人口 70 万人を抱える都市として、当協会としましても組織をより盤石なものとする必要がありました。それぞれ 2 つの団体が 1 つになるのではなく、生涯スポーツに対する市民ニーズに応え，誰もがいつでも気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進すること、また、これまで以上にスポーツの普及と振興に努めることが我々に求められるものであり、新たな組織として果たすべき役割であったからです。

次に、平成 18 年度から導入された指定管理者制度（1 期 5 年）であります。市から体育館や総合運動場など市内の 8 つのスポーツ施設の管理運営を任されるとともに、それまで加盟団体の協力のもと開催していた夜間教室に加え、市が主催していた昼間のスポーツ教室も当協会主催となりました。これは、静岡市が掲げる『市民一人 1 スポーツ』を具現化するにあたっては非常に大きな契機であったと思います。現在は、平成 28 年度から始まりました第 3 期指定管理の期間中でございます。これまでの管理実績を活かし、各種スポーツ教室をはじめとしたライフステージに応じたスポーツ事業を展開しております。

そして、平成 25 年 3 月には静岡県知事より公益財団法人移行認定書の交付を受け、同年 4 月 1 日に正式に公益財団法人へと移行しました。当協会が掲げる『静岡市におけるスポーツの普及・振興を図り、スポーツ精神を培い、市民の健康・体力づくりの推進に関する事業を行い、もって健康で豊かな市民生活の育成に寄与する』という目的は、まさに公益性に資するものであり、我々も一層身が引き締まる思いでありました。

昭和 23 年の協会設立以来、このような大きな転換期を無事に乗り越えてこられましたのも、静岡市をはじめ、先輩諸氏のご指導と加盟団体はもとより市民の皆様方の当協会に対するたゆまぬご支援、ご協力があったからこそと改めて感謝申し上げる次第です。

2020 年には、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。将来、この大舞台で活躍する選手や未来のアスリートに後押しされ、自分もできる、まだやれるとスポーツに取り組まれる方も大勢おられると思います。スポーツの果たす役割は多様で、かつその姿形は様々ですが、協会としてもその重責を全うできるよう、更に努力・精進して参る所存であります。

最後に、本記念誌発刊に当たり貴重な資料や原稿をお寄せいただきました関係各位に、厚くお礼申し上げるとともに、今後ともより一層のご支援・ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げ発刊の言葉といたします。

祝　　辞



発刊によせて

静岡市長　田辺　信宏

公益財団法人静岡市体育協会がこのたび設立 70 周年を迎えられ、記念誌が発刊されることを心よりお慶び申し上げますとともに、昭和 23 年の設立以来、本市のスポーツ振興に対する諸先輩方のご尽力に深く敬意を表します。旧静岡市体育協会と旧清水体育協会が平成 17 年に合併し、現静岡市体育協会が発足してからも、「市民一人 1 スポーツ」を合言葉に、静岡市のスポーツ団体を結束し、スポーツの普及を通して、市民の健康・体力づくりに寄与され、行政と共にスポーツ活動の発展のためご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

また、貴協会には、平成 18 年に開始された指定管理者制度により、市内体育館等の指定管理者として、数多くの施設を管理、運営していただいております。本市が行ってきましたスポーツ教室等を引き継ぎ、各競技団体の皆様を講師に迎えるなどして、子どもから高齢者まで楽しめる様々な事業が実施されております。

設立 50 周年記念として平成 9 年に始まった「体協ウォーキング」は、誰でも気軽に始められるウォーキングイベントとして市民に愛されているほか、著名なスポーツ関係者を講師としました「スポーツ講演会」も大変人気の高い催しとして定着しております。

こうした様々な取組により、現在も、多くの市民がスポーツを楽しみながら健康の増進が図られているものと考えております。

貴協会は、今日までその歩みを止めることなく、様々な活動を通し、静岡市のスポーツの普及・振興に大きく貢献されました。

今後も「市民一人 1 スポーツ」を目標に、すべての市民が健康で豊かな生活を実現できるよう、本市のスポーツ振興のパートナーとして、連携・協働していただきますようお願い申し上げます。

結びにこの 70 周年を契機として、静岡市体育協会が益々発展されますことを祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝　　辞



発刊を祝して

前副会長　増田　正史

公益財団法人静岡市体育協会設立 70 周年を期とした記念誌の発刊に際しまして心からお祝い申し上げます。

昭和 23 年、戦災により市民生活も荒廃し生きる希望を失った市民に対し「市民一人 1 スポーツ」をスローガンに掲げ、スポーツを通して明るく元気に生きる活力を期待して、いち早く体育協会を設立し市民の皆さんにスポーツ活動を通して夢と希望を与えました。

爾来（じらい）、体育館増設、スポーツ広場の造成と施設の拡大に努めるとともに各種目競技団体の競技大会の企画運営支援に献身的な努力はスポーツ愛好者の飛躍的な増大につながり、スポーツの盛んな都市として全国に知られるようになりました。さらに、国際化の進展にスポーツ界も国際交流が盛んになりました。静岡市においても中国・韓国との親善大会を始めとした交流事業を計画する競技団体も増え、国際大会で活躍される選手も登場するようになり、競技力も一段と向上し全国大会において好成績を上げる競技団体も増えて、技術的にもレベルの高い都市として知られるようになりました。

近年、心身を鍛える競技に楽しむ競技としてのニュースポーツが加わり協会の事業も拡大且つ多様化し、苦労の多い中で工夫と努力でのり越えて成長されて来ました。

平成元年に財団法人化され組織の強化を図りました。平成 17 年には静岡市の政令指定都市化に伴い清水市体育協会と合併で一層の規模拡大に努力されました。また、少子高齢化の進むに連れて生涯スポーツにも考慮してすべての施設において青少年のスポーツ教室から中高年齢者の健康教室を実施するなど他市の体育協会に模範となる普及・発展の運営に努めて参りました。

時代の変遷に伴いスポーツに対する見方・考え方が変わり、さまざまな課題に苦労されるかも知れませんが、静岡市体育協会は「市民一人 1 スポーツ」のスローガンの下に市民の健康と幸せを念頭に奉仕する協会活動に尽力されることをご祈念申し上げます。

～思い出のアルバム～（平成10年～平成30年）



北京・日中ふれあいウォーキング
北京体育大学創立45周年を記念して
平成10年10月31日　万里の長城にて

静岡市スポーツ少年団
清掃奉仕活動
恒例行事として市内の少年団が集結し
社会勉強の一環として取り組む
平成12年７月２日





第２回静岡県市町村対抗駅伝
競走大会
静岡市優勝
組織力を結集し僅差で優勝
平成13年11月23日



第58回国民体育大会
天皇杯・皇后杯獲得
地元の声援を力に優勝
平成15年10月



アテネオリンピック　体操男子団体総合　金メダル獲得
力強い演技を披露する水鳥寿思選手　　平成16年８月16日

静岡・清水両体育協会合併調印式
握手を交わす川村 修会長(当時・左)と
岩崎 茂元清水体育協会会長(右)
合併日となる４月１日には静岡市が
政令指定都市に移行した
平成17年３月29日





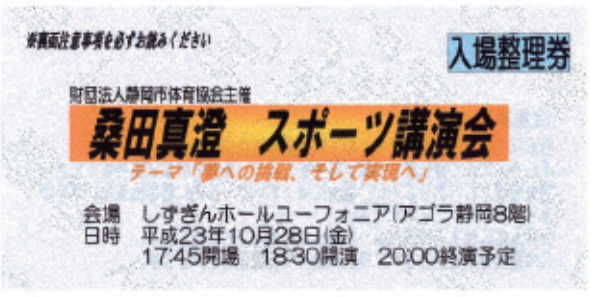
第34回日独スポーツ少年団
同時交流(富士山登山)
国境を越えて交流を深める
静岡市とドイツの青少年
平成19年８月８日

国交省中部地方整備局による表彰
永年の清掃活動が認められ
安倍川の美化・愛護に顕著な功績の
ある団体として表彰される
平成20年７月23日





桑田真澄氏をお招きして開催したスポーツ講演会
申込はすぐに定員に達し市民の関心の高さが伺えた
平成23年10月28日



公益財団法人静岡市体育協会へ移行
新たな出発を迎えるにあたり協会の顔
となるロゴマークを公募
選考の結果、松岡英男氏による作品に
決定した
平成25年４月１日



シャンソンVマジック　バスケットボールクリニック
平成27年６月６日



清水エスパルス　サッカー教室
平成27年６月14日



第15回静岡市民ラジオ体操祭
駿府城公園紅葉山庭園前広場と清水総合運動場の２会場に合計で1,700人を超える市民が集まった
平成30年７月22日

年間で200を超える教室を開催
低価格で良質な教室を提供し
本市民のスポーツ振興に貢献している





平成29年度 創立70周年記念
公益財団法人静岡市体育協会 表彰式
節目の年に行われた表彰式は創立記念表彰も加えてより盛大に執り行われた
平成30年２月21日

《第１章》

過去20年間の市協会の歩み

平成１０年度

平成１０年　４月　１日	受託事業	西ヶ谷総合運動場及び中央・南部・長田・東部・北部体育館
		並びに城北運動場の施設管理業務と使用料徴収事務
平成１０年　４月１０日	役員改選	会　　長　　宗　知信
平成１０年　４月２３日	役員改選	副 会 長　　八木　茂　　増田正史
	専務理事	谷川良巳
	常務理事	高木英夫
	理　　事	１３名
	監　　事	３名
平成１０年１０月３１日	国際交流	北京日中ふれあいウォーキング
～　１１月　５日		北京市郊外から万里の長城　　一般市民参加者２３名
平成１０年１１月１５日	健康増進	市民ウォーキングの実施
		日本平周辺　参加者１８０名
平成１０年１１月２１日	基調講演	創立５０周年記念シンポジウムの開催
		講師　厨　義弘　筑紫女学園大学教授
平成１０年１２月１８日	諸 規 程	表彰規程の一部改正
平成１１年　３月２５日	諸 規 程	組織団体等に関する規程の一部改正
平成１１年　３月３１日	スポ教室	１０９教室　開催数5,２２７回　受講者数１１,８２８人
	職 員 数	総務課６人、施設管理課５３人、パート８人　　計６７人
	基本財産	３４６,１２７,１６４円

平成１１年度

	会　　長	宗　知信
	副 会 長	八木　茂　　増田正史
	専務理事	谷川良巳
	常務理事	高木英夫
	理　　事	１３名
	監　　事	３名
平成１１年　４月　１日	加盟団体	静岡市ゴルフ連盟・静岡市トランポリン協会、静岡市アマチュアダンス
		スポーツ協会の加盟　　計３９団体
平成１１年　９月２５日	普及振興	静岡県民スポーツ祭参加チーム壮行会の開催
		記念講演　講師　サンリ東海センター代表　西田文郎
平成１１年１１月１４日	健康増進	市民ウォーキングの実施
		丸子宇津の谷周辺　参加者１０９名
平成１２年　１月１９日	諸 規 程	寄附行為の一部改正
平成１２年　３月２３日	諸 規 程	組織団体等に関する規程の改正
平成１２年　３月３１日	スポ教室	１０８教室　開催数5,１７７回　受講者数１１,７２９人
	職 員 数	総務課６人、施設管理課５１人、パート１０人　　計６７人
	基本財産	３４７,１２７,１６４円

平成１２年度	耐震工事	静岡市中央体育館（Ｈ１２～Ｈ１３）
平成１２年　４月　１日	加盟団体	静岡市武術太極拳連盟の加入　　計４０団体
平成１２年　４月　６日	役員改選	会　　長　　宗　知信
		副 会 長　　増田正史　谷川良巳
		専務理事　　白井修司
		常務理事　　高木英夫
		理　　事　　１４名
		監　　事　　３名
平成１２年　９月２１日	国際交流	中国北京体育学院との体育友好交流覚書期間（３年間）延長
平成１２年　９月３０日	普及振興	県民スポーツ祭出場選手壮行会・第１回静岡県市町村対抗駅伝競走大会出場選手団激励会の開催
		トークショー　元シャンソンＶマジック　清川アキ
		静岡市ボウリング連盟　　片井文乃
平成１２年１１月２６日	健康増進	市民ウォーキングの実施
		梶原山周辺　参加者１１６名
平成１２年１２月２２日	諸 規 程	表彰規程、創立表彰規程の一部改正
平成１３年　３月３１日	スポ教室	９０教室　開催数4,２９０回　受講者数１０,２８１人
	職 員 数	総務課８人、施設管理課４７人、パート１１人　計６６人
	基本財産	３４７,４２７,１６４円

平成１３年度		
平成１３年　４月　１日	加盟団体	静岡バルーンバレーボール協会の加盟　　計４１団体
平成１３年　５月２９日	役員改選	会　　長　　宗　知信
		副 会 長　　増田正史　谷川良巳
		専務理事　　白井修司
		常務理事　　高木英夫
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成１３年　９月１３日	諸 規 程	情報公開要綱の制定
平成１３年１０月　６日	普及振興	県民スポーツ祭出場選手壮行会・第２回静岡県市町村対抗駅伝競走大会出場選手団激励会の開催
		トークショー　静岡県立大短期学部　溝口紀子
		スズキ(株)陸上部　　馬塚貴弘
平成１４年　２月１０日	健康増進	市民ウォーキングの実施　静岡市と共催
		賤機山周辺　参加者４０６名
平成１４年　３月３１日	スポ教室	８６教室　開催数3,７９１回　受講者数9,７３５人
	職 員 数	総務課８人、施設管理課４７人、パート１１人　計６６人
	基本財産	３４７,７２７,１６４円

平成１４年度（創立５５周年記念）

平成１４年　４月　１日	加盟団体	静岡市グラウンド・ゴルフ協会の加盟　　計４２団体
平成１４年　４月　９日	役員改選	会　　長　　宗　知信
		副 会 長　　増田正史　谷川良巳
		専務理事　　白井修司
		常務理事　　高木英夫
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成１４年　４月１５日	受託施設	静岡市中央体育館リニューアルオープン（耐震工事）
平成１４年　５月　１日	広報事業	体協ホームページ開設
平成１４年　６月　４日	合併協議	平成１７年度静岡・清水体育協会合併に向けた協議会の開始
平成１４年　９月２１日	普及振興	県民スポーツ祭出場選手壮行会の開催
		講師　筑波スポーツ科学研究所副所長　三屋裕子
平成１４年１１月１０日	健康増進	市民ウォーキングの実施　静岡市・清水市と共催
		日本平周辺　参加者２１８名
平成１４年１２月２０日	諸 規 程	表彰規程の一部改正
平成１４年１２月２１日	新規事業	ジュニア層拡大と育成のための種目別実技講習会の開催
～１５年　３月１５日		「子供たちのためのダンス運動」全7回　参加者４２８名
平成１５年　２月１１日		「スケート１日体験教室」参加者１０４名
平成１５年　３月３１日	スポ教室	１０５教室　開催数4,６５１回　受講者数１１,０５６人
	職 員 数	総務課９人、施設管理課５２人、パート９人　計７０人
	基本財産	３４８,０２７,１６４円

平成１５年度

		会　　長　　宗　知信
		副 会 長　　増田正史　　谷川良巳
		専務理事　　白井修司
		常務理事　　高木英夫
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成１５年　４月　１日	受託施設	有度山総合公園運動施設の管理業務開始
平成１５年　９月２７日	普及振興	県民スポーツ祭出場選手壮行会及びスポーツ講演会の開催
		講師　元プロ野球選手　パンチ佐藤
平成１５年１０月２５日	国際交流	中国北京体育学院との体育友好交流覚書期間（３年間）延長
平成１５年１１月　９日	健康増進	市民ウォーキングの実施　静岡市と共催
		梶原山周辺　参加者９５名
平成１６年　３月３１日	スポ教室	１０５教室　開催数4,８３５回　受講者数１１,４５１人
	職 員 数	総務課１０人、施設管理課５３人、パート１０人　計７３人
	基本財産	３４８,０２７,１６４円

平成１６年度

平成１６年　４月　１日	加盟団体	静岡市ユニホック協会の加盟　　計４３団体
平成１６年　４月　８日	役員改選	会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　安齊悦雄
		専務理事　　大村吉正
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成１６年　５月２７日	諸 規 程	事業委員会規程、スポーツ振興委員会規程の一部改正
平成１６年　５月３０日	健康増進	市民ウォーキングの実施　静岡市と共催
		富士箱根ランド周辺　参加者１１２名
平成１６年　９月１８日	普及振興	県民スポーツ祭出場選手壮行会及びスポーツ講演会の開催
		講師　格闘家　角田信朗
平成１７年　３月２９日	調 印 式	静岡市体育協会と清水体育協会の合併調印式の開催
平成１７年　３月３１日	スポ教室	１０５教室　開催数4,８０１回　受講者数１１,６９２人
	職 員 数	総務課１０人、施設管理課５４人、パート１１人　計７５人
	基本財産	３５６,１６３,２９６円

平成１７年度

		会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　安齊悦雄
		専務理事　　大村吉正
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成１７年　４月　１日	体協合併	静岡・清水体育協会の合併
	加盟団体	静岡市ライフル射撃協会、静岡市綱引連盟、ＮＰＯ法人清水港ヨット協会、静岡市ウエイトリフティング協会、静岡市レクリエーション協会の加盟　　計４８団体
平成１７年　５月３１日	諸 規 程	寄附行為の一部改正
平成１７年　６月１２日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		田貫湖周辺　参加者１０１名
平成１７年　９月１７日	普及振興	県民スポーツ祭出場選手壮行会及びスポーツ講演会の開催
		講師　プロ野球評論家　村田兆治
平成１８年　３月３１日	スポ教室	１０４教室　開催数4,７７６回　受講者数１１,５３５人
	職 員 数	総務課１１人、施設管理課５４人、パート１２人　計７７人
	基本財産	３５７,６６３,２９６円

平成１８年度

平成１８年　４月　１日	指定管理	第１期指定管理者制度の導入
	受託事業	○管理施設
		静岡市中央体育館、静岡市南部体育館、静岡市長田体育館
		静岡市東部体育館、静岡市北部体育館、静岡市西ケ谷総合運動場、静岡市清水総合運動場、清水清見潟公園スポーツセンター
		○使用料徴収事務
		静岡市中央体育館、静岡市南部体育館、静岡市長田体育館
		静岡市東部体育館、静岡市北部体育館、静岡市西ケ谷総合運動場、静岡市清水総合運動場、清水清見潟公園スポーツセンター、三保体育館
		○スポーツ教室
		静岡市が主催していた昼間スポーツ教室が当協会主催となる
平成１８年　４月　８日	役員改選	会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　安齊悦雄
		専務理事　　大村吉正
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成１８年９月～１１月	新規教室	介護予防教室の実施　全６回　２教室
平成１８年　９月１６日	普及振興	県民スポーツ祭出場選手壮行会及びスポーツ講演会の開催
		講師　サッカー解説者　松木安太郎
平成１８年１１月　３日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		静岡県小笠山運動公園周辺　参加者６９名
平成１８年１０月１０日	国際交流	中国北京体育学院との体育友好交流覚書期間（３年間）延長
平成１９年　３月３１日	スポ教室	１８４教室　開催数7,７５４回　受講者数２５,６０６人
	職 員 数	総務課１０人、施設管理課９０人、非常勤１２人　計１１２人
	基本財産	３５７,６６３,２９６円

平成１９年度（創立６０周年記念）

		会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　安齊悦雄
		専務理事　　大村吉正
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成１９年　４月　１日	管理施設	静岡市清水総合運動場武道場の管理
平成１９年　８月　６日	ス ポ 少	第３４回日独スポーツ少年団同時交流事業の受入
～１０日		指導者１名　団員９名
平成１９年１０月３０日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　大相撲解説者　舞の海 秀平

平成１９年１１月１８日	健康増進	体協ウォーキングの実施
	井川周辺	参加者７４名
平成２０年　3月３１日	スポ教室	１８６教室　開催数8,０８８回　受講者数２５,９８９人
	職 員 数	総務課９人、施設管理課９０人、非常勤１６人　計１１５人
	基本財産	３５７,６６３,２９６円

平成２０年度

平成２０年　4月１０日	役員改選	会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　関　宣之
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成２０年9月 ～ ３月	新規教室	乳幼児対象健全育成教室の実施
		ベビーとママの３Ｂ体操教室　受講者数３５０名
平成２０年１１月　５日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　プロ野球解説者　達川光男
平成２０年１１月　９日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		三保周辺　参加者６８名
平成２１年　3月２４日	基本財産	繰越金を基本財産に繰入れることについての承認
平成２１年　3月３１日	スポ教室	２００教室　開催数７,９１５回　受講者数２５,１１５人
	職 員 数	総務課９人、施設管理課９６人、非常勤１６人　計１２１人
	基本財産	４６７,６６３,２９６円

平成２１年度

		会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　関　宣之
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成２１年　4月　１日	加盟団体	静岡市ターゲット・バードゴルフ協会の加盟　　計４９団体
	福利厚生	ジョイブ静岡へ加入
平成２１年　9月１０日～	指定管理	指定管理推進本部会議　７回開催
平成２１年　9月１４日～	公益移行	公益財団法人への移行に伴う会議　８回開催
平成２１年１０月１８日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		小山町金時公園周辺　参加者７４名
平成２１年１２月　７日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　スポーツジャーナリスト　増田明美

平成２２年　3月３１日	スポ教室	１９５教室　開催数7,６６９回　受講者数２４,０２６人
	職 員 数	総務課１１人、施設管理課１０４人、非常勤１４人　計１２９人
	基本財産	４６７,９６３,２９６円

平成２２年度

平成２２年　4月　9日	役員改選	会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　関　宣之
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成２２年　4月１２日～	公益移行	公益財団法人への移行に伴う会議　１２回開催
平成２２年　6月１０日～	指定管理	指定管理推進本部会議　４回開催
平成２２年　9月２５日	指定管理	静岡・清水両体育協会合併５周年記念体協ウォーキングの
～　２６日		実施　　長野県車山周辺　参加者　２２名
平成２２年１１月１２日	理 事 会	公益財団法人への移行を目指すことの承認
	評議員会	〃
平成２３年　2月２０日	記念事業	静岡・清水両体育協会合併５周年記念スポーツ講演会の開催
		講師　全日本女子バレーボール前監督　柳本晶一
平成２３年　3月２４日	諸 規 程	表彰規程の改正
平成２３年　3月３１日	スポ教室	１９４教室　開催数8,１９７回　受講者数２６,３４７人
	職 員 数	総務課１１人、施設管理課１０４人、非常勤１６人　計１３１人
	基本財産	４６７,９６３,２９６円

平成２３年度

		会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　池川　茂
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１５名
		監　　事　　３名
平成２３年　4月　1日	指定管理	第２期指定管理者制度の導入
	受託事業	○管理施設
		静岡市中央体育館、静岡市南部体育館、静岡市長田体育館、
		静岡市東部体育館、静岡市北部体育館、静岡市西ケ谷総合運動場、静岡
		市清水総合運動場、清水清見潟公園スポーツセンター
		○使用料徴収事務
		静岡市中央体育館、静岡市南部体育館、静岡市長田体育館、
		静岡市東部体育館、静岡市北部体育館、静岡市西ケ谷総合運動場、静岡

		市清水総合運動場、清水清見潟公園スポーツセンター、三保体育館
		○静岡市直営３０スポーツ施設の休日許可書発行業務
		○スポーツ教室
平成２３年　5月３１日	諸 規 程	公益財団法人移行に伴う定款(案)及び諸規程(案)の承認
平成２３年　8月１９日～	公益移行	公益財団法人への移行に伴う打合せを静岡県教育委員会と１０回開催
平成２３年１０月２８日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　元プロ野球・メジャーリーグ選手　桑田真澄
平成２３年１１月２７日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		島田市千葉山智満寺周辺　参加者６１名
平成２４年　3月３１日	スポ教室	１９３教室　開催数7,９２０回　受講者数２９,２９９人
	職 員 数	総務課１１人、施設管理課９８人、非常勤１８人　計１２７人
	基本財産	４６７,９６３,２９６円

平成２４年度（創立６５周年記念）

平成２４年　4月　1日～	公益移行	公益法人会計基準に則した公益法人会計に移行
平成２４年　4月　9日	役員改選	会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　池川　茂
		常務理事　　浅野　修
		理　　事　　１４名
		監　　事　　３名
平成２４年　7月　2日～	公益移行	公益財団法人への移行に伴う打合せを静岡県教育委員会と１０回開催
平成２４年１１月　1日	開 催 市	第１４回政令指定都市体育協会研究協議会を静岡市で開催
～　2日		
平成２４年１１月１８日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		玉露の里周辺　参加者８９名
平成２５年　1月　7日～	公益移行	法務局と登記の打合せを６回開催
平成２５年　1月２３日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　東海大学副学長　山下泰裕
平成２５年　2月２２日	記念表彰	創立６５周年記念表彰式の開催
平成２５年　3月１９日	公益移行	静岡県知事より『公益財団法人移行認定書』の交付を受ける
平成２５年　3月２７日	理 事 会	公益財団法人への移行に伴うロゴマークの決定
平成２５年　3月３１日	加盟団体	静岡市フォークダンス連盟の脱退　　計４８団体
	スポ教室	１９１教室　開催数7,９１９回　受講者数２９７,２１８人
	職 員 数	総務課１０人、施設管理課１００人、非常勤１６人
		計１２６人
	基本財産	４６７,９６３,２９６円

平成２５年度

平成２５年　４月　１日	公益移行	公益財団法人へ移行
		会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　池川　茂
		常務理事　　田中秀幸
		理　　事　　９名
		監　　事　　３名
	加盟団体	静岡市スポーツ少年団の加盟　　計４９団体
平成２５年　５月３０日	理 事 会	専門委員会の設置及び名称等の承認
平成２５年　８月２３日	理 事 会	静岡マラソンへの協力についての承認
平成２５年１０月　６日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		田貫湖周辺　参加者１０８名
平成２５年１１月２７日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　スポーツジャーナリスト　中西哲生
平成２６年　２月１８日	諸 規 程	就業規則の改定等の承認
平成２６年　３月　２日	開催支援	静岡マラソン２０１４の大会運営ボランティア活動に協力
平成２６年　３月２０日	理 事 会	内部統制システム整備に関する基本方針の承認
		専務理事の選定、監事の辞任についての承認
	諸 規 程	加盟団体に関する規程の変更の承認
平成２６年　３月３１日	加盟団体	静岡市綱引連盟、静岡市体育ボクシング協会の脱退　　計４７団体
	スポ教室	１９２教室　開催数7,８６７回　受講者数２９２,２１１人
	職 員 数	総務課１１人、施設管理課９４人、非常勤１８人　計１２３人
	基本財産	４６７,９６３,２９６円

平成２６年度

		会　　長　　川村　修
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　石川壽將
		常務理事　　田中秀幸
		理　　事　　９名
		監　　事　　２名
平成２６年　５月１４日	加盟団体	静岡市ゲートボール協会の脱退　計４６団体
平成２６年　５月２７日	理 事 会	特定費用準備資金等取扱規則の制定の承認
平成２６年１１月１６日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		田貫湖周辺　参加者１１１名
平成２７年　１月２０日	行 政 庁	公益法人立ち入り検査の実施

平成２７年　1月２１日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　野球解説者　工藤公康
平成２７年　2月　1日	新 事 業	スポーツ指導者マッチングシステムの運用開始
平成２７年　3月　6日	理 事 会	定款の一部改正、専務理事の選定
平成２７年　3月３１日	スポ教室	１９１教室　開催数7,８１５回　受講者数２８８,３４２人
	職 員 数	総務課１１人、施設管理課９４人、非常勤２０人　計１２５人
	基本財産	４６７,９６３,２９６円

平成２７年度

平成２７年　5月２８日	加盟団体	静岡市スポーツチャンバラ協会の加盟　　計４７団体
平成２７年　6月１２日	役員改選	会　　長　　小嶋善吉
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　松下　茂
		常務理事　　田中秀幸
		理　　事　　９名
		監　　事　　２名
平成２７年　9月１１日	新規教室	やさしいヨガ教室の実施
～　１１月２４日		７回開催　受講者数５０人
平成２７年１０月３０日	理 事 会	第３期指定管理者申請について承認
平成２７年１１月１４日	広　　報	ホームページのリニューアル
平成２７年１１月２９日	健康増進	体協ウォーキングの実施
		薩埵峠周辺　参加者３９名
平成２７年１２月　2日	諸 規 程	番号法に係る諸規程の制定
平成２８年　3月　1日	普及振興	スポーツ講演会の開催
		講師　スポーツコメンテーター　千葉真子
平成２８年　3月２２日	理 事 会	就業規則の一部改正
平成２８年　3月３１日	スポ教室	１９６教室　開催数7,２１６回　受講者数２７８,８５６人
	職 員 数	総務課８人、施設事業課９４人、非常勤２０人　計１２２人
	基本財産	４６８,０１３,２９６円

平成２８年度

		会　　長　　小嶋善吉
		副 会 長　　増田正史　渕本邦知
		専務理事　　志田浩政
		常務理事　　田中秀幸
		理　　事　　９名
		監　　事　　２名
平成２８年　4月　1日	指定管理	第３期指定管理者制度の導入
	受託事業	○管理施設

		静岡市中央体育館、静岡市南部体育館、静岡市長田体育館、静岡市東部体育館、静岡市北部体育館、静岡市西ケ谷総合運動場、静岡市清水総合運動場、清水清見潟公園スポーツセンター、静岡市蒲原体育館 〇三保体育館と静岡市直営２４スポーツ施設の許可書発行業務及び使用料徴収事務 〇スポーツ教室
平成２８年　6月　4日	イベント	トップアスリートによるスポーツ教室の開催 ＮＥＣレッドロケッツ選手・コーチ　中学生６０人
平成２８年１２月　4日	健康増進	体協ウォーキングの実施 薩埵峠周辺　参加者３３名
平成２９年　1月２３日	イベント	靜甲(株)女子ソフトボール部　小・中学生１２９人
平成２９年　1月２３日	普及振興	スポーツ講演会の開催 講師　柔道家　野村忠宏
平成２９年　2月２５日	イベント	北海道日本ハムファイターズ　小学３・４年生９９人
平成２９年　3月２１日	理 事 会	就業規則の一部改正、専務理事の選定
平成２９年　3月３１日	スポ教室	２８３教室　開催数7,９４１回　参加人数２８５,６２２人 ・当協会インストラクターによる昼間スポーツ教室 ７８教室　開催数2,７０６回　参加人数１６９,６７９人 ・加盟団体指導者による夜間スポーツ教室 ９０教室　開催数3,８０１回　参加人数７４,８９２人 ・加盟団体・外部依頼指導者によるふれあい運動教室 ２１教室　開催数５８７回　参加人数１９,４７４人 ・乳幼児向け健全育成教室 ３０教室　開催数４８６回　参加人数１６,９８２人 ・スポーツを始めるきっかけづくりとなる短期教室 ６４教室　開催数３６１回　参加人数4,５９５人
	職 員 数	総務課8人、施設事業課９６人、非常勤３７人　計１４１人
	基本財産	４６８,０１３,２９６円

平成２９年度（創立７０周年記念）

平成２９年　４月　１日	事務所移転	静岡市駿河区曲金３丁目１番１０号 ツインメッセ静岡西館２階
	受託事業	静岡市民大会・静岡市民ラジオ体操祭の開催業務の受託
平成２９年　４月～３月	記念事業	創立70周年記念誌編集作成
平成２９年　６月　９日	役員改選	会　　長　　小嶋善吉 副 会 長　　渕本邦知　髙鳥明保 専務理事　　大橋正行 常務理事　　田中秀幸 理　　事　　９名 監　　事　　２名 加盟団体　　静岡市ファミリーバドミントン協会の加盟　　計４８団体
平成２９年１１月２６日	健康増進	体協ウォーキングの実施 田貫湖周辺　参加者１０４名
平成２９年１１月２８日	理 事 会	「駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーション」の指定管理者申請について承認
平成３０年　２月２１日	記念事業	創立７０周年記念表彰式の開催
平成３０年　３月　９日	普及振興	スポーツ講演会の開催 講師　青山学院大学 陸上競技部監督　原　晋
平成３０年　３月３１日	職 員 数	総務課８人、施設事業課９４人、非常勤４３人　計１４５人
	基本財産	４６８,０６３,２９６円

《第２章》

加盟団体の活動

平成29年度 公益財団法人静岡市体育協会加盟団体一覧

	団　体　名	代 表 者
1	静岡市弓道連盟	会　長　鹿又　清士
2	静岡市剣道連盟	会　長　安永　宗司
3	静岡市山岳連盟	会　長　望月喜久治
4	静岡市クレー射撃協会	会　長　渡邉　武利
5	静岡市サッカー協会	会　長　鈴木　和彦
6	静岡市柔道連盟	会　長　田中　秀幸
7	静岡市水泳協会	会　長　高井　俊祐
8	静岡市スキー協会	会　長　水野　展子
9	静岡市相撲連盟	会　長　川上　明廣
10	静岡市卓球協会	会　長　山田　　誠
11	静岡市ソフトテニス協会	会　長　小関　忠義
12	静岡市テニス協会	会　長　秋山　政行
13	静岡市バスケットボール協会	会　長　林　芳久仁
14	静岡市バレーボール協会	会　長　渕本　邦知
15	静岡市野球連盟	会　長　森村　謙司
16	静岡市ラグビーフットボール協会	会　長　小泉　雅弘
17	静岡市陸上競技協会	会　長　北澤　晴樹
18	静岡市ソフトボール協会	会　長　増田　正史
19	静岡市スケート協会	会　長　矢部　竜夫
20	静岡市自転車競技連盟	会　長　岩﨑　孝雄
21	静岡市体操協会	会　長　川村　泰男
22	静岡市パワーリフティング協会	会　長　松浦　順大
23	静岡ラジオ体操連盟	会　長　小嶋　善吉
24	静岡市空手道連盟	会　長　嶋本　千秋

	団　体　名	代 表 者
25	静岡市バドミントン協会	会　長　渡邉　眞一
26	静岡市アーチェリー協会	会　長　前沢　　侑
27	静岡市馬術連盟	会　長　浅川　信正
28	静岡市合気道連盟	会　長　井原　　猛
29	静岡市少林寺拳法協会	会　長　林　芳久仁
30	静岡市ハンドボール協会	会　長　中澤　通訓
31	静岡市ボウリング連盟	会　長　栗田　裕之
32	静岡市なぎなた連盟	会　長　深澤　陽一
33	静岡市ゴルフ連盟	会　長　山本　法生
34	静岡市トランポリン協会	会　長　水口　悦子
35	静岡市ダンススポーツ連盟	会　長　海野美代子
36	静岡市武術太極拳連盟	会　長　関　元三郎
37	静岡バルーンバレーボール協会	会　長　大場久仁夫
38	静岡市グラウンド・ゴルフ協会	会　長　榎本　修三
39	静岡市フロアボール協会	会　長　服部　一重
40	静岡市ライフル射撃協会	会　長　春田光三郎
41	ＮＰＯ法人清水港ヨット協会	理事長　稲森　　裕
42	静岡市ウエイトリフティング協会	会　長　望月　厚司
43	静岡市レクリエーション協会	会　長　望月　義夫
44	静岡市ターゲット・バードゴルフ協会	会　長　柳沢　春夫
45	静岡市スポーツチャンバラ協会	会　長　鈴木　義男
46	静岡市ファミリーバドミントン協会	会　長　森下　耕治
47	静岡市中学校体育連盟	会　長　設楽　和宏
48	静岡市スポーツ少年団	本部長　渕本　邦知

静岡市弓道連盟

1　団体紹介

発足

静岡市弓道連盟は昭和24年４月１日に結成された。当時市内に八支部あり、これを松井範士などが中心となり連合させ「静岡市弓道連合会」を作った。

昭和46年頃、「弓道教室」という系統だった指導方法を考え、全国に先駆けて実施した。指導者のレベルも県内の最高峰で愛知県弓道連盟が「視察」に来られたほどであった。

また、この当時は市内の企業や事業所に弓道部があり、朝・昼・夜と仕事の合間をぬって練習に励み、支部同士が「しのぎ」を削った。

2　20 年間の歩み

静岡市弓道連盟　歴代会長

平成	4	年 ～	14	年	熊王　進
平成	15	年 ～	20	年	中原　明
平成	21	年 ～	26	年	松田益也
平成	27	年 ～	29	年	鹿又清士

左の表は平成からの歴代会長名です。
平成23年12月の規約改正で任期は１期２年で
最高連続３期６年までと定まった。

平成27年度の会員調査では下の表の様な会員数になっている。全県の会員数が5,088名、静岡市が1,153名なので、県内の約22%の会員数である。

平成27年度　静岡市弓道連盟　会員数

称号	段級位	中学生以下			高校生			大学生			一般			合　計		
		男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計
計		25	33	58	424	359	783		5	5	164	143	307	613	540	1,153

家康公四百年際「駿府天下泰平まつり」に弓道が参加

平成27年度は特別な行事を取り組んだ。「学ぶ」・「遊ぶ」・「感じる」・「味わう」をテーマに９月25日・26日・27日と家康公四百年際「駿府天下泰平まつり」に静岡部会事業実施本部より出場依頼があり、秋の３日間をこのテーマ「家康公からの恵み」と題して取り組んだ。

小笠原流は「蟇目」を企画したが雨で中止となってしまった。日置流は武者が鎧を着て弓を引く様子を披露した。また、高校生も参加し、競技の方式で、また、その外に高段者による、一つ的射礼の演武を行った。特に市民に好評だったのは、「試し引き」で二会場設定し指導員をつけて丁寧に指導した。その後で本格的に弓道をやりたいといって支部に来られた方もあった。

３日間を通して「試し引き」を行った方が1,700名であった。また、連盟役員の参加は３日間で80名、市民は約70万人が駿府公園にこられたと本部からの発表があった。

歯科大学の全国大会を取り組む

平成29年８月１日(火)～８月４日(金)まで北部体育館弓場で行われた、『第49回全日本歯科学生総合体育大会　弓道部門』には20大学400名が参加した。射場審判員として６名が依頼され出場し、学生と一緒に運営に携わった。個人戦には５人団体で女子16チーム、男子17チームの400名が参加した。



大学の大会は初めてだったので、いろいろと面食らうことが多かった。たとえば、射位へ入る時でも「気合」を発生するので驚く。試合中の応援がまたすごい運営係りの放送が聞き取れないほどである。

５人立団体戦は、女子40試合・男子45試合と多く、終了の時間が日没の19時過ぎに、最終日は、午後10時過ぎになった。しかし、これまでにない特別な大会として思い出深い。

3　現状の課題

困難な年間日程の作成

右の表は年間日程であるが、作成にあたり、まず、県弓連の大会・講習会等の計画が優先され、県の日程が出来るのを待って、企画することになる。
会場の借用など重複のないように充分に注意をはらう必要があり、簡単ではない。

平成29年度　静岡市弓道連盟　年間日程表

月	曜日	行　事　名	会　　場
5	13(土)	第13回ねんりんピック選手選考会	北部体育館
6	4(日)	第15回 静岡市民弓道大会（中学・一般）	北部体育館
7	17(月)	第15回 静岡市民弓道大会（高校生）	北部体育館
9	9(土)	市秋季弓道大会　（高校男子・女子）	県 武 道 館
	24(日)	市秋季弓道大会　（中学・一般）	北部体育館
2	25(日)	市春季弓道大会　（中学・一般）	北部体育館
3	24(土)	市春季弓道大会　（高校女子）	北部体育館
	25(日)	市春季弓道大会　（高校男子）	北部体育館

生徒数が減少する「弓道教室」

北部体育館の夜間弓道教室は近年生徒数が極めて少なくなっている。申込者は結構あるが、実際に参加する者が少なく、現状のまま継続していけるのか不安である。今後、冬の寒い時期の「実施期間」等、検討が必要ではないかと考えている。

4　今後の展望

支部活動の充実

静岡支部は、静岡市央体育館の女性弓道教室が始まりである。(故) 三輪卓一範士と、平成10年頃から熊王先生、(故) 松下久範士にもご指導をいただいた。

現在、指導者は変わったが、引き続き中央体育館と北部体育館の弓道教室で稽古をしている方がほとんどである。教室という定期的に稽古をする場が有ることは、長く続けていく上で極めて大切な条件と認識している。

初心者はもちろん、学生時代に経験し数十年後に教室に入り続けている方もいるので、開設当初（20年前）と比較し人数が徐々に増えて来ている。

しかし、若い方の入部が少なく、支部の平均年齢が高くなっていていく傾向は、少々心配であるが、皆元気で向上心を持って頑張っている。

移動式弓道場を設置　（静岡浅間弓道教場支部）

全国的にも珍しいと注目されて平成２年に竣工した浅間の移動式弓道場も四半世紀を経過するにあたり、すっかり定着した様に見受けられる。

昭和 28 年に誕生した浅間支部だが、移動式が出来るまでの約 40 年間は、射小屋の無い野天で稽古していたので、雨天時はお手上げの状態であった。

奉納射会の時などは、射位に厚くて重い木製の床板を敷いて行射していた。従って体配などの稽古は毎週火曜日に定めて中央体育館に出向いて実施していた。この様な状況の中、移動式の屋根付き道場の登場は正に干天の慈雨で、大きな満足感と利便性を得ることができた。

しかし、この移動式ですべてが解決されたとは言い切れない。事前の移動セット、終了時の移動収納は毎日のことで、ついつい固定式の道場であったらと欲が出てくる。昨今は、移動の主役である滑車の摩耗で雨の激しい時など滑って動きの悪い時が多々ある。大地をしっかり踏まえた固定式の道場で四六時中稽古の出来る時節が早く来ることを夢見ている昨今である。

静岡市剣道連盟

1　はじめに

静岡市剣道連盟は、市内の剣道・居合道・杖道を愛好している市民によって結成され、この三道の修行をとおして、会員相互が交流を深めるとともに、三道の普及・発展に寄与するために様々な活動に取り組んでいる連盟である。

平成 29 年４月１日現在、加盟団体数 124 団体、会員数約 2,000 名（小学生 280 名　中学生 650 名 高校生 180 名 大学生 80 名 一般 570 名）であり、会長：安永宗司を中心に各種事業を行っている。

各団体がそれぞれの活動場所で稽古をしているが、会員相互の交流、技術向上を願って、連盟としては静岡市葵区宮前町にある静岡県剣道連盟道場：養浩館（ようこうかん）（静岡県護国神社敷地内）を借用し、毎週、稽古会を開催している。この稽古会は会員であれば誰でも参加でき、毎回 30～50 名が参加して行われている。

また、本連盟では、剣道の普及発展を願って、各種委員会（選手強化・大会企画運営・少年指導普及・級位審査員選考・級位審査・広報・居合道・杖道・組織改編）を組織し、各委員長を中心に年間を通して様々な活動をしている。

これらの活動については「静岡市剣道連盟ホームページ」に随時掲載しており、静岡市内のみならず、国内、さらには海外の方もアクセスできるようにしている。

（ＨＰアドレス　www.shizuokashi-kendo.com ）

2　20 年間の歩み（平成 10 年～平成 30 年の 20 年間）

＜「新」静岡市剣道連盟の誕生＞

この 20 年間の静岡市剣道連盟の歩みの中で、最も大きな出来事は、「清水市剣道連盟」との合併である。静岡市と清水市が合併し、「新」静岡市が誕生することに合わせて、静岡市剣道連盟と清水市剣道連盟のますますの発展を考え、両連盟の合併についても協議を重ねる運びとなった。静岡市剣道連盟は 1952（昭和 27）年、清水市剣道連盟は 1966（昭和 41）年（前身である清水市剣道協会は 1947（昭和 22）年）発足という、ともに長い歴史と伝統を積み上げてきていた連盟であるだけに、この両連盟が合併するということで何度も協議が必要であったが、会合を重ね、当時の静岡市剣道連盟会長：鈴木淳氏と清水剣道連盟会長：小田克夫氏を中心に様々な課題を解決し、両連盟関係者のつながりも深めながら、意見を取りまとめて、平成 17 年合併の調印が執り行われた。

「新」静岡市剣道連盟は会長：佐藤淳氏、副会長：小田克夫氏の新体制でスタートをして現在に至っている。

なお、この合併を記念して、平成 17 年に小学生・中学生を対象にした「鈴与杯少年剣道大会」が株式会社鈴与の協賛のもとで開催され、平成 29 年には第 13 回大会が開催され、今後のさらなる発展が期待される。鈴与剣道部が運営全般にボランティアとして参加をしている。

また、合併翌年の平成 18 年には、新連盟でチーム編成し出場した「第 19 回全国健康福祉祭剣道大会（ねんりんピック）（開催県：静岡県）」において、静岡市チームが見事に優勝を勝ち取り、新連盟の誕生を華々しく祝うことができた。


剣道 少年指導の様子


居合道の集団演武


杖道の演武

3　現状の課題と今後の展望

（1）現状の課題

まずは、剣道人口の減少があげられる。「少子化」が日本全体の課題としても取り上げられる中、子どもの数が減り、その一方で、運動系文化系各種団体が、子ども達を招き入れようと子ども達への勧誘、その基盤となる普及活動に力を入れている。少ない子どもを各種団体が勧誘しあうという現状である。このような中で本連盟としては、いかに子ども達に、さらには一般の方々に、剣道・居合道・杖道の魅力を伝えるかということが喫緊の課題として捉えている。

また、一般の会員相互の練習を含めた交流機会を充実させていきたいと考えている。各所属団体での活動は、それぞれが取り組んでいるが、団体を越えた横のつながり、交流を活発にすることで、お互いの技量向上はもとより、普及にも好影響を与えると考えている。

この課題解決に向けて、会員のさらなる交流を深める機会や会員の技量を向上させる講習会等を充実させていくことが必要であると考えている。

（2）今後の展望

上記の課題を踏まえて、今後は次の３点についての取組を重点として考えていきたい。

①剣道・居合道・杖道の啓発活動の充実

現在、静岡市剣道連盟はホームページを立ち上げ、各種大会結果等の情報を発信している。今後は、所属団体の紹介、初心者向けに特化した動画も含めた技能向上のための特集や練習会案内等、興味をもってホームページを開いた方々に、さらに有益な情報を提供することができるホームページとして充実させたいと考えている。

また、居合道や杖道については、使用する道具や実際の演武の様子等を動画として紹介する等の工夫も啓発活動には必要であろう。このような取組も今後検討していきたい。

②一般の方々が取り組める環境づくり

剣道に取り組む一般の方々と話すと、「高校まではやっていたのですが、途中でやめて再開しました」「子育てがひと段落したので剣道を再開しました」等を聞くことが多くある。また、「再開するきっかけが無くて、なかなか再開できなかった」「技能が十分でないので一般の方々と稽古するのは無理では」という声も聞くことがある。

中学校あるいは高校まで剣道に取り組んでいたが、仕事や家庭環境の変化によって剣道を中断し、現在に至っている方々も多くいることが推測される。このような方々が剣道を再開しやすいような機会を

提供することを考えていきたい。

③静岡県剣道連盟・各地区連盟並びに市体育協会との連携強化

静岡市剣道連盟は静岡県剣道連盟に所属している連盟である。県内各地の地区連盟が静岡県剣道連盟に所属し、県内が同一歩調で剣道の普及・発展のために様々な事業に取り組んでいる。前述の「少子化に伴う剣道人口の減少」はどの地区連盟も抱えている大きな課題である。各地区連盟とも知恵を出し合い、必要に応じて連携しながら課題解決に向かいたい。

また、静岡市体育協会においても各種目団体では同じ課題に直面していることが推測される。このような状況だからこそ、各種目団体が「興味ある種目に、いつでもどこでも取り組むことができる環境づくり」「市民一スポーツの実現」という共通の願いをもって、創意工夫して、各種目の普及・発展のために活動を推進していくことが不可欠であると考えている。

以上のことを考え、静岡市剣道連盟の会員一人ひとりが、より良い人間形成を実現するために、「剣道」「居合道」「杖道」の普及、発展させ、より一層、充実した活動に取り組んでいきたいと強く願っている。

（文責：静岡市剣道連盟　理事長　桂山洋一）

静岡市山岳連盟のあゆみ

団体名　　静岡市山岳連盟　　事務局　静岡市清水区長崎新田212-3
静岡市山岳連盟加盟団体名　16団体　平成29年8月現在　会員数　約770名

初代会長	長谷川　琢磨	昭和26年4月～昭和45年
2代目会長	八木　圭三	昭和45年4月～昭和62年
3代目会長	西畑　武	昭和62年4月～平成17年
4代目会長	松永　義夫	平成17年4月～平成29年
5代目会長	小田　直美	平成29年4月
6代目会長	望月　喜久治	平成29年5月～8月（会長代理）8月～

加盟団体名	代表者名	加盟団体名	代表者名
静岡踏岳会	森　健次	静岡山の会	市川　幸雄
静岡ケルン山岳会	鷲山　久	静岡エクスペディションクラブ	赤堀　正
静郵山岳会	三浦　直樹	岳友ハイキングクラブ	高津　一寿
静岡県ワンダーフォーゲル会	勝見　鉦雄	静岡・峠の会	西畑　武
静岡こまくさ会	鈴木　正昭	清水山岳会	滝田　博之
静岡山岳会	赤石　秀之	シェルパ倶楽部	辻　秀信
井川山岳会	長島　吉治	聖会	原田　重二
藪漕ぎ山岳会	小嶋　守	静岡しみず山の会	出利葉　義次

昭和23・24年　静岡市体育協会より第1・2回の市民ハイキング大会協力の依頼を受ける。
これを機会に、昭和25年静岡市内の山岳会8団体が集まり翌26年4月15日静岡市山岳連盟の発足となる

①　ハイキングスクール担当　　岡井常任理事　　副名倉常任理事　　公益財団法人静岡市体育協会

昭和40年後半からは静岡市山岳連盟主催でハイキングスクールを行うことになる。
この頃から静岡県警察本部山岳救助隊メンバーを講師として協力のお願いをして行った。
平成11年に行ったハイキングスクールは10章に分け
座学10回・実技10回計20回の受講を1年間を通して行う。
参加者も多い時など54名という今では考えられない人数の受講生であった。
皆勤で参加された方も3名いた。卒業出来た受講生には卒業証書等の記念品を添えた。
現在も行っているが近年参加者の減少と旅行業法に触れる為、参加者の募集方法に問題が出てしまう。





②　遭難対策委員会担当　増田遭難対策委員長　副名倉常任理事　山岳連盟独自

静岡県警察山岳救助隊・静岡市消防山岳救助隊・静岡市山岳連盟合同救助訓練を行い相互の親睦を諮る。
静岡市内で山岳遭難発生時は、警察山岳救助隊・消防山岳救助隊・山岳連盟3団体が共に捜索活動を行う。
近年登山者の高齢化により道迷いや転倒事故が多く救助活動や捜索活動が増えている
特に数年前から静岡市民が最も親しみのある竜爪山での遭難事故発生が毎年のように起きていることは
地元で登山活動を行う山岳連盟としても今後対策を考えていく必要がある。




③　みどりの道担当　鷲山常任理事　副勝見財政部長・佐々木常任理事　静岡市スポーツ振興課

静岡市教育委員会から静岡市内の登山道パトロールと補修整備の委託を受け、その後スポーツ振興課移管
26年度は年間を通して述べ375名の山岳連盟会員がボランティア活動を行い登山者の安全を図っている。
登山道の不備が山岳遭難へ繋がることがある為、担当者皆真剣に作業を行うとともに
至る所でトラバースコースの崩落が多く整備をする岳人も危険と隣り合わせの作業となる。




④　自然保護活動担当　望月副会長　佐々木常任理事　静岡県自然保護課

南アルプス高山植物保護ボランティア活動年に2～3回南アルプスへ登り登山道のパトロールや
登山道の点検等を行いながら決められた所で「鹿の食害防止ネット」の防護柵の作業を行う
斜面にネットを張り土の流れを防ぐ、県内高校山岳部生徒の協力が増え作業の能率がとても良い。




⑤　こども登山教室担当　篠崎常任理事　副辻常任理事　　公益財団法人静岡市体育協会

日帰りコースと宿泊コースの両方授業受けて父兄の参加は出来ない。
集団生活を行うことで友達の大切さを学ぶのと共に命の大切さを知る
小学生を普段は行かない山の中で自然に触れ楽しみながら活動をしていく事。
こどもたちの個性を引き出し新しいものへの挑戦と自然の恵みの尊さを知らせていく
こどもたちの感想から抜粋
1、あきらめない　2、ちいさなこのめんどうをみる　3、きょうりょくしあう
大人が願っている事を子供たちなりに考えている様だ。




⑥ クライミングスクール担当　磯部常任理事　副赤堀常任理事　　公益財団法人静岡市体育協会

平成11年静岡市北部体育館に人工登攀壁を新設する事になり山岳連盟に使用申請管理の依頼が来る。
「しずおかNorth　WALL」と名称を付け使用希望者への申請書の発行と指導を山岳連盟の役員が行った。
5年ほど前からは北部体育館が受付を行う様になった。
今でもクライミングの愛好家を集め参加者の親睦と安全登山を指導を行う
11月　北部体育館ふれあいフェステバル　クライミング教室協力　　公益財団法人　静岡市体育協会




⑦ こどもクライミング教室担当　辻常任理事　磯部常任理事　望月会長　公益財団法人静岡市体育協会

静岡市体育協会の依頼を受け北部体育館の「しずおかNorth　HALL」にて小学生男女を対象に指導を行う。
この事業は、3年位前から行い毎年楽しみにしている子供が多く抽選により参加者を募っている。ノースホールにて




⑧　岳翔担当　　赤堀常任理事

静岡市山岳連盟の事業をインターネットを利用してホームページから発信をしている
事業終了後担当者より報告と写真が送られ随時パソコン上で山岳連盟の活動が確認できる。
静岡市山岳連盟を呼び出していただけると嬉しく思います。

アクセス訪問者	県内	%	愛知県	%	東京	%	その他	%	
24年度		76		14		6		1	
25年度		52		21		17		11	
26年度		65		17		11		6	
27年度		55		25		11		9	
28年度		59		33				8	東京含む

⑨　海外登山委員会担当　　辻常任理事　岡井常任理事

海外登山は、費用と日数がかかる為、節目を利用して行うことになる。
静岡市山岳連盟も4年後に70周年を迎えることになる。
30年度新年総会において、新しい試みを出す時期に来ている。
山岳連盟独自の事業として海外登山へ向けて日頃から訓練と努力を行い計画を進めている。
今年はネパールへとボランティア活動を兼ねて秋にはトレッキングに出発する




ロブジェイースト山頂

⑩　富士山の日　2010年2月23日

静岡市山岳連盟　富士山頂極める　写真参照




富士山頂

登山は、危険なスポーツと思われています。
静岡市山岳連盟では、安全登山に心がけ、市外・県外から来られる登山愛好者の皆様にも楽しく山登りをしていただくようパトロールと登山道の整備を今後も続けていきたいと思う。

終わりに当たり　静岡市山岳連盟に多大なご支援とご協力を頂き誠にありがとうございます。
公益財団法人静岡市体育協会様の益々のご発展と、各種加盟団体の更なる競技力向上を願います。

静岡市クレー射撃協会

当協会は昭和 25 年に設立されましたが、当時は常設射撃場がなく市内の大浜海岸に臨時射撃場を設け大会が開催されたそうです。
当時を知る方に話を聞くと、今では考えられない方法でやられていたそうで、雨、風、波、そして海水浴場としての時期と開催、進行には大変な苦労があり、何とか常設射撃場をと役員をはじめ会員が奔走したそうです。

そのような努力が実り、昭和 25 年５月、静岡県護国神社宮司様のご好意により、神社横の神饌(しんせん)田(だ)の借り入れが承認され、また柚木部農会会長様、静岡県林政課の特別な応援もあり、バックストップ（発射された弾が外に飛び出す事のないように守る場所）の山の買い入れの話がまとまり待望の常設射撃場が実現しました。しかし、ここまで到達するまでの努力は並々ならないものがあり、特に資金面では大会の都度参加者や練習に来た会員にも１回 1,000 円の射場使用料との名目で負担して頂き資金調達に協力して頂きました。

その後、第 12 回国体が静岡県で開催されることが決まりましたが、皆さんの力で出来上がった射撃場には種目別（トラップ射撃・スキート射撃）の射撃場がないため公認されず射撃大会会場を「何とか静岡市に」との思いは再び協会役員、会員の皆様の協力を得て公認射撃場として完成、第 12 回静岡国体は多くの選手を華々しく迎えることができました。

その後射撃場周辺は近代化の波に乗り住宅が密集し､「銃声による公害」との苦情が数多く出始め、移転を余儀なくされ、三度、会員と有志による出資により、昭和 40 年静岡市谷田に静岡県唯一の日本クレー射撃協会公認の「静岡県常設射撃場」を新設し、その管理運営のため静岡県射撃振興会社を設立しました。

射撃競技が会員だけでなく、広く猟友会々員にも人気となり、一般大衆化時代となると県内にも五か所の私営射撃場が新設され、昭和 44 年、振興会社で運営されていた公認常設射撃場も他所からの来場者が減少し経営困難となり渡邉銃砲火薬店に後を託し譲渡、同店により名称を「静岡クレー射撃場」となり、協会員には良い射撃場が身近にあり何時でも利用できるという利点から、優秀選手が数多く育ちました。

国体選手も香川国体参加の石ケ谷氏を皮切りに、東京大会個人トラップで３位の山本氏、京都大会個人スキート３位の須山氏の入賞者、松井氏、志保沢氏、水越氏、成岡氏、寺田氏、中野氏、今井氏と優秀な方々が出場されました。

クレー射撃競技の始まりは、1900 年第２回パリ、オリンピックで最初のトラップ競技が行われましたが、当時は「ライブ・ピジョン・シューティング」と呼ばれ生きた鳩を撃ち落とす方法で行われましたが、1908 年のロンドン、オリンピックから石灰にピッチを混ぜ焼き固めたクレー標的クレー・ピジョン・ターゲット（直径 11 センチ、厚さ 2.5 センチ、重さ 105 グラム）が使用されるようになりました。

オリンピックでの競技種目は、トラップ（前方に飛び去る一枚のクレーを撃ち落とす）ダブルトラップ（前方に飛び去る二枚のクレーを撃ち落とす）スキート（左右から飛び交うクレーを撃ち落とす）がありますが、国体ではトラップとスキートが競技種目となっていてどちらの種目も１ラウ

ンド25枚のクレーをより多く撃ち落とす競技で４ラウンド100枚の撃ち落とした成績を争う個人戦と３人組の合計点での団体戦が行われています。

静岡県では昭和57年、周智郡（現在浜松市）春野町に県営射撃場を開設、平成15年第58回静岡国体開催に向けてクレー射撃競技も大変盛り上がり、当協会の年間競技大会も４回を６回に６回を８回に増やすなど、恒例の市民大会や県大会（現在のしずおかスポーツフェスティバル）では第56回大会では団体優勝するなど静岡県クレー射撃選手権大会にも多くの選手が優秀な成績を残し、特に会員の青木　實さんは平成19年から連続して国体選手として出場活躍しています。

近年、鳥獣類による農作物等の被害の拡大が社会問題化していますが、猟銃所持者の高齢化による減少・若年層の射撃離れなどが重なり、鳥獣捕獲がままならないことも考えられます。農林水産省、環境省、警察庁、猟友会の応援を得て猟銃所持者人口の増加特に若年層の増加に取り組み、最近20歳代、30歳代の若い人達がクレー射撃に参加することが見受けられるようになり、ベテラン会員をはじめ、全会員による銃器取扱、事故防止に取り組むと同時に新会員には特にクレー射撃に於ける銃の取扱いの基本、射撃マナー等の指導を続け、市民大会、しずおかスポーツフェスティバル、静岡県クレー射撃選手権、国際大会等に出場できる射手を育てて行くことが当静岡市クレー射撃協会の使命と考えています。

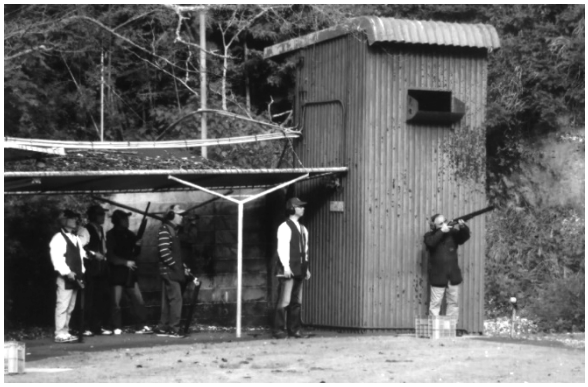
尚、協会は静岡県公安委員会の指導要請により銃所持者全員の銃器の安全な取り扱い及び射撃指導に、公安委員会指定射撃指導員の協力を得て多くの射手を育成しています。



第56回静岡県民スポーツ祭団体[市対抗]の部　優勝
於：須山クレー射撃場



競技種目：トラップ



競技種目：スキート

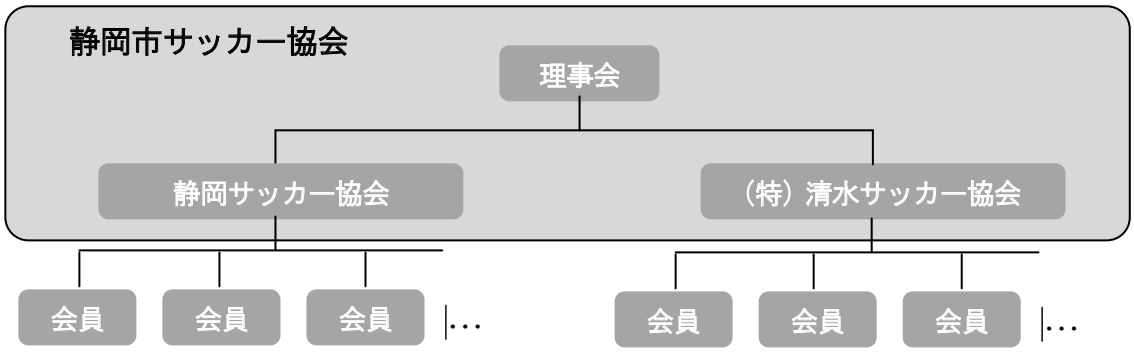
静岡市サッカー協会

1　団体紹介

平成 15 年４月、誰もが認めるサッカーのまちとして、長い間、日本のサッカーを牽引してきた旧静岡市と旧清水市が合併し、新・静岡市が誕生しました。

静岡市サッカー協会は、新・静岡市におけるサッカー競技の市民全般への普及と通じて、競技スポーツ・生涯スポーツとしてのサッカーの健全な発展と、市民の健康の増進やまちづくりの推進を図るために、旧両市のサッカー競技団体である静岡サッカー協会（旧静岡市サッカー協会）と特定非営利活動（NPO）法人清水サッカー協会によって設立されたものです。

平成 28 年度現在、285 チーム、9,466 人が本協会に登録されています。



2　あゆみと活動

本協会の設立にあたり、以下の３点を「目指す姿」と定めました。

１．次世代を担う子どもたちの育成を目指す
２．誇れるサッカーのまちづくりを目指す
３．誰もがサッカーを楽しめる環境づくりを目指す



本協会は、静岡協会と清水協会で構成されていますが、両協会の既存事業は、原則として従来どおり行っています。ただし、協会の目的達成のために既存事業の見直しが必要なときには理事会又は特別委員会等の場で検討することになっています。

本協会の主催事業としては、「静岡カップ（静岡・清水交流試合)」が挙げられます。これは、平成 18 年２月より始まり、これまで 12 回の開催を重ねる恒例行事です。静岡協会、清水協会それぞれに登録されたチームの代表が、カテゴリーごとに試合を行い、その結果により勝敗を決するものです。

また、ねんりんピックや草サッカー大会、市民大会への支援、ハンディキャップ事業や高校サッカーフェスティバル、静岡・清水各協会の実施事業への支援も行っています。

３　現状の課題と今後の展望

二つの協会を束ねる形で組織が構成されているため、事務局体制が会長や理事長等の２年ごとの任期に伴い変更されるといった課題があります。

今後の展望としては、毎年度、静岡市サッカー協会として静岡市長に表敬訪問し、要望書を手渡しておりますが、その要望の実現に向け、取り組んでいきたいと考えております。



静岡市柔道連盟

1　はじめに(団体紹介)

静岡市柔道連盟は、講道館柔道の創始者 嘉納治五郎師範の教え「柔道は心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によって身体精神を鍛錬修養し、斯道の真髄を体得することである。そうして、これによって己を完成し、世を補益するが柔道修行の究竟の目的である。精力善用・自他共栄」を精神に掲げ、昭和 23 年３月に設立され、県都の名に恥じない規模と実績をもち、着実に発展の道を歩み続けている。

平成 15 年には、静岡市と清水市の合併に伴い、静岡市柔道連盟と清水柔道連盟は、両者協議のうえ合併に合意し、新静岡市柔道連盟が、平成 17 年４月１日に誕生した。間もなく、その年の５月４日には、「静岡市柔道連盟・清水柔道連盟合併記念大蝶杯柔道大会」が斯くも盛大に開催された。

その後、平成 20 年５月に、安齊悦雄会長が、静岡県柔道協会々長に就任し、静岡市柔道連盟の会長職を退任することとなり、新会長に田中秀幸氏(静岡大学教授)が就任し、新体制での船出となった。

それから、10 年の年月がたち、現在の加盟団体数および登録員数は、道場・大学・一般 18 団体、中学校体育連盟 14 団体、登録員数 630 名である。

【新静岡市柔道連盟発足時の役員】

- ■ 会　　長　　安齊悦雄
- ■ 副 会 長　　田中秀幸, 山梨公良, 永野哲夫, 野田昭一, 前田伸太郎
- ■ 理 事 長　　望月秋男
- ■ 副理事長　　伊藤昭彦
- ■ 事務局長　　興梠正人

【平成 20 年度の新役員】

- ■ 会　　長　　田中秀幸
- ■ 副 会 長　　野田昭一, 前田伸太郎, 山梨公良
- ■ 理 事 長　　興梠正人（事務局長兼務）
- ■ 副理事長　　戈茂一幸
- ■ 事務局長　　興梠正人

【現在の役員】

■ 会　　長　　田中秀幸

■ 副 会 長　　野田昭一, 石川裕章

■ 理 事 長　　興梠正人（事務局長兼務）

■ 副理事長　　橋口　涉

■ 理　　事　　熊谷幸洋, 森　順次, 増岡秋男, 渡辺和秀, 渡邉達也, 髙田幸治

2　各種の事業

静岡市柔道連盟は、公益財団法人静岡市体育協会が主催する「夜間スポーツ教室」への指導者派遣と教室運営が、核となる中心事業となっており、市内５体育館で６教室を実施し、本連盟の柔道の普及、底辺拡大、競技力の向上、青少年の健全育成に努めている。

静岡市民柔道大会は、平成 29 年度で通算 64 回を数え、小学生から一般・大学生までの様々な種別での開催を続けている。

また、平成 17 年に 30 回を数えた大蝶杯柔道大会は、静清合併記念大会として幕を下ろしたが、翌年、平成 18 年に静岡市中学生体重別柔道大会を新設し、現在も継続開催している。

その他、柔道人口の減少に歯止めをかけるべく、特に小学生・中学生を対象とした柔道教室を、オリンピックメダリストや世界選手権のメダリストを招聘し、各種の関係団体と協働のもと、積極的に開催している。

■ 「岡野 功先生」柔道教室

□ 平成 25 年６月８日（土）　静岡市北部体育館

□ 講師　岡野　功　1964 年東京オリンピック 中量級 金メダリスト
流通経済大学名誉教授

■ ＡＬＳＯＫ柔道教室

□ 平成 26 年 12 月 13 日（土）　静岡市北部体育館

□ 講師　井上 康生　2000 年シドニーオリンピック 100kg 級 金メダル

〃　福岡 政章　2013 年リオデジャネイロ世界選手権 66 kg 級 銅メダル

〃　田知本 遥　2016 年リオデジャネイロオリンピック女子 70kg 級 金メダル



■　全日本柔道連盟 柔道教室

□　平成 27 年 11 月３日（火・祝）　静岡市北部体育館

□　講師　髙木長之助　公益財団法人全日本柔道連盟　理事・教育普及委員長

1973 年スイスローザンヌ世界選手権 93kg 級 金メダル





3　特筆すべく選手

■　佐藤和哉選手

静岡学園中学 ～ 静岡学園高校 ～ 新日鐵住金株式会社

2008 年４月、静岡学園中学に入学、野田昭一氏(現静岡県柔道協会会長)、渡部直樹氏に師事し、３年の時に全国中学校柔道大会 90kg 級で準決勝。静岡学園高校に進学し、１年時に、全日本カデ大会 90kg 超級で準決勝に進出した。全国高校選手権の無差別級では、準決勝で東海大学付属浦安高校のウルフ・アロン(2017 ハンガリー世界選手権金メダリスト)に敗れ３位にとどまった。高校２年の３月には、全日本選手権の東海予選に出場すると、決勝リーグで２勝１敗の成績を収めて２位となり、本大会への出場権を獲得した。高校生での全日本選手権出場は 1996 年に出場した東海大相模高校の井上康生以来

17 年ぶり、５人目の快挙となった。続く全国高校選手権大会で、初の全国優勝を飾った。

2014 年には日本大学へ進学し、１年時に、全日本ジュニア大会で３位、全日本学生体重別選手権で２位、さらに、講道館杯で３位に入り、アジアジュニアでは優勝を飾った。２年の時には 100kg 級に階級を変更すると、全日本学生体重別選手権で３位。平成 29 年度の同選手権において初優勝を飾り、悲願の大学チャンピオンとなった。

2018 年４月より、所属を新日鐵住金株式会社柔道部に置き、2020 年東京オリンピック代表に最も近い選手として活躍が期待され、静岡市柔道連盟出身者の期待の星であり、誇りである。

平成 25 年度公益財団法人静岡市体育協会 優秀選手章受章



静岡市水泳協会

1　団体紹介

静岡市水泳協会は、昭和 22 年７月に設立され、昭和 23 年３月静岡市体育協会の設立と同時に加盟団体として登録をして本格的に活動を始めて行きました。また、清水市水泳協会は、昭和８年清水市体育協会の設立時に『水泳部』として発足し、両水泳協会は互いに切磋琢磨して活動して来ました。平成 15 年に行われた平成の大合併で、静岡市と清水市が合併され、それに伴い平成 16 年４月に静岡市水泳協会と清水市水泳協会も合併し、静岡市水泳協会として新たな第一歩を歩み始めました。

「人の『わ』をたいせつに」をモットーに、一つになった静岡市水泳協会がさらに強固なものになるようにと、初代会長には宮城島安宏氏が就き、組織作りに力を入れると共に、新規約のもと、会員相互の親睦を図り、静岡市の水泳及び水泳競技の健全なる普及と発展と、市民の健康の増進に資することを目的として、活動を開始し、現在に至っております。

2　20 年間の歩み

それまで静岡市・清水市で行われていた水泳大会を基に、年間４つの大会を開催し、水泳初心者から上級者、シニアまでの幅広い層の普及並びに強化に力を入れております。大会で優秀な成績を収めた選手を中心にして、年間２回の強化合宿を行い、少しずつではありますが成果が表れてきました。平成 18 年全国中学校総合体育大会で静岡市立服織中学校の杉山沙侑南さんが 100m 平泳ぎで優勝、平成 19 年の国民体育大会少年少女 B100m 平泳ぎでも優勝し、リレーでも活躍して大いに静岡県に貢献してくれました。

また、平成 27 年には全国高等学校総体水泳競技で静岡県立静岡東高等学校の杉山華彩さんが女子 100m、200m 背泳ぎの２種目で優勝し二冠に輝きました。

また、各種教室を開催して、健康増進、生涯スポーツとしての水泳の普及にも力を入れております。

3　現状の課題

子供の少子化という事もあり、年々競技人口が少なくなってきているということが挙げられます。そのうえ、せっかく小学生までやってきているのに、中学に入ると部活として水泳部がなく、しかたなく他の競技に移ってしまう子供の数も多いのが気になります。

また、学校における指導者の数も少なく、素晴らしい指導者がいても部活がないために専門外の種目の顧問になってしまうなど、中学校体育連盟とともに考えていかないといけない問題ではないかと思います。

4　今後の展望

学校の水泳部、民間のスイミングクラブとの垣根を越えた関係は良好であり、お互いに協力し合ってみんなで選手を育てるという環境が出来つつあります。強化を推進して、競技力の向上に努めると共に、魅力ある競技会の運営をめざし、参加者数を増やす努力をしていきたいと思います。と同時に水泳指導者の育成にも力を入れていきたいと思います。

また、「マスターズ水泳競技会」や「ねんりんピック」といったシニアの大会も盛んになって来ました。民間のフィットネスクラブ、スイミングクラブ等と連携してシニアを含めた普及活動に努めていきたいと思います。

静岡市スキー協会

1　団体紹介

当協会は静岡県スキー連盟発足の翌年、わが国スポーツ界が戦後の混乱を脱してようやく活況を呈し始めた 1953 年６月に産声を上げた。間もなく創立 65 周年を迎える。

2017 年９月現在の協会加盟団体は 16、組織人員 300 名、指導者 120 名を数える。

「雪なし県」の静岡にあって、「雪頼み」のスノー・スポーツは宿命的なハンデを背負う。そんな状況下で唯一の救いが富士山の存在であった。広大な東面山麓の斜面の一部には戦前から素朴ながらスキー場が営業し、本県東部や山梨、神奈川県内のスキーヤーを招き入れていた。

発足後初めての冬を迎えた 1954 年１月、協会はこの環境を生かすべく御殿場口２合目の太郎坊スキー場において「静岡市スポーツ祭スキー大会」を開く。今日まで続く「静岡市民スキー大会」の先駆けであった。その後の高度成長期の経済発展はレジャー・スポーツとしてのスキー人口を爆発的に増大せしめ、協会加盟団体である単位スキークラブは年ごとに増加をみた。

同時に、国内交通インフラの整備が進むことによって雪なし県から信州や越後の雪国への往来が次第に容易となり、この頃、協会行事としてすっかり定着した「市民スキー大会」は数台のバスを連ねて新潟・赤倉温泉にまで遠征した。



児童・生徒の参加でにぎわう市民スキー大会=2017 年３月、長野・志賀高原スキー場で

市民各層のスキー熱は当然ながら協会指導者層の底上げに波及し、この時期多くの全日本スキー連盟公認正指導員、準指導員が誕生した。その伝統は脈々と受け継がれ、現在に至っている。これらの人材が協会員の基礎スキー技術向上に多大な貢献を果たし、さらには競技スキー分野における優秀選手の育成・輩出という結果につながった。

2　20 年間の歩み

20 年というより、区切りのいい平成の 30 年間に焦点を当ててみると、協会は 1989 年、昭和の終わりにして平成の始まりのこの年に、極めてエポック・メーキングな歴史を刻む。この年の暮、県スキー連盟と市スキー協会の悲願であった「市営リバウェル井川スキー場」が、安倍川と大井川の分水嶺である標高 1,400mの尾根にオープンしたのである。

祝賀のセレモニーは Xmas のイブ、新雪のゲレンデで行われた。「降りしきる雪の中、市長を先頭に行

われたタイマツ滑降は印象的で、一般客を含めた熱い感動はいつまでも心に焼き付いて忘れられない」と、協会 50 年誌はその興奮と歓喜を率直に伝えている。関係者にとってはまさに、新時代の幕開けを飾るにふさわしい慶事であった。自前のスキー場開設は雪に親しむ機会の少ない静岡市民の永年の夢の実現で、関係当局への粘り強い陳情の成果でもあった。

世はまさにバブル経済の絶頂期。週末、駐車場に収まり切れない車がスキー場に続く林道にあふれた。関係者の願い通り「リバウェル井川」は、そり遊びのできるファミリーな人工スキー場として、暖国の子供たちに雪遊びの楽しさを存分に伝えてきた。

しかしバブル景気は間もなく崩壊、日本経済後退の波はレジャー・スポーツの分野にも否応なく及んだ。種々の統計によれば、最盛期 1,800 万人を超えたスキー人口は今や、スノボ客を含めても 700 万人台にまで落ち込んでいるという。スノー・スポーツを取り巻くこの 30 年は、文字通り激動の時代であった。当協会の活動も当然ながらその影響を免れ得ず、スキーファンの減少という未曽有の危機をどう乗り越えていくか、苦渋の日々が続いている。



一層のレベルアップ目指して技術講習に臨む協会会員の指導員ら=
長野・菅平高原スキー場で

3　課題と展望

ゲレンデから若者の姿が減れば、逆に中高熟年のベテランスキーヤーが目立ってくる。超長寿社会の到来を控えたわが国は 2000 年、「健康で長生き」を国策の一つとすべく、「生涯スポーツ社会」の実現を目指した「スポーツ振興基本計画」を策定する。リフトで登高し、斜面を滑り降りるスキー滑走は、各自の体力と技術に応じて無理なく楽しめるという点でまさに生涯スポーツの理想形といえる。

一方で協会は、創立以来の伝統である「静岡市民スキー大会」と「協会スラローム大会」を通じてジュニア世代に的を当てた普及・教育を行ってきた。多くの少年少女がこれらの大会で競技スキーへの挑戦意欲をかき立て、さらなる高みへ飛び立っていった。ジュニアの育成とシニアの教育は協会の活動に必須の要件であり、二つの大会の継続は今後とも協会の主要課題と捉えている。

低迷を続けたスノー・レジャーだが、ここ数年、スキー人口は横ばいに推移している。バブル期にゲレンデに親しんだ団塊 Jr を中心とした世代が家族連れで再来した結果であり、これにいわゆる「インバウンド需要」の拡大が後押しして、スキー場入場者の減少は下げ止まったとされている

実に喜ばしい曙光である。この期を逃さず、スタッフ・指導者は一層気を引き締めて組織活動に当たりたい。技量向上に関して協会では永年、全日本スキー連盟で「スキー教程」編集の中心的存在だった平沢文雄氏と、その高弟でかつてのトップデモ、関健太郎氏を招いて講習会を開いてきた。現在は関氏によるシーズン２回の合宿により協会員の技術力、指導力強化を図っている。

「技術が伴うことで、初めて楽しきスキー人生あり…」。これが平沢講師のスキー哲学である。競い合って勝敗を決める、というスポーツの一般的あり様とは異なり、(競技スキーを別にすれば)スキーに勝負の相手はいない。それ故に技術に対する向上心を失ったスキーは、単なる遊びに堕してしまう。「遊び」に永続の力はない。競争のエネルギーを技術の錬磨に向けて日々鍛錬する、それこそがスキー・スポーツの真骨頂である。平沢哲学はそう教えてくれている。

「雪なし県」の子供たちにいつの日か、あの新雪の大斜面を駆け下る解放感と醍醐味を感じてもらうべく、そしてシニア世代にはいつまでも豊かなスキー・ライフを楽しんでいただくために、協会はこれからも正しく安全なスキー技術の普及に力を注いでいく所存である。その上で、静岡市民の生涯スポーツ振興にいささかなりとも寄与できるならば、会員一同大いなる喜びとするところである。



表彰式で互いの健闘を称え合う入賞者たち=長野・小海リエックススキーバレーで

静岡市相撲連盟

平成 29 年に静岡市相撲連盟は、通算して 70 回目の市民相撲大会を開催する。

（設立　大正 13 年４月）

昭和 23 年９月５日に第１回大会を開催して以来続くこの大会は、特に少年層の普及において県内各地の大会の範たるものがある。その成果として少年相撲の優勝者を幾度となく輩出した。城北相撲場は県内少年力士の憧れの場所として、毎年県少年選手権の会場となっている。平成 10 年代当初、静岡商業高校が国体選手を輩出・全国大会出場等一定の成績を収めたが、この中で注目すべきは、女子相撲の普及により、同校生徒石谷里美(現姓平)の活躍である。高校で全国を制し、世界選手権へとつなげ、日本大学進学後も全国・世界の覇者として活躍した。この流れは 20 年代になると山中未久に受け継がれ、山中も全国制覇・世界制覇へと躍進、立命館大学から同校職員として　現在も活躍中である。アスリートの魂としてテレビでも紹介された。

平成 15 年静清合併により、由比の連盟と連携して、同所の少年指導もするようになった。

県体育協会体育功労章受賞	平成 17 年	神田治夫	
静岡市表彰(文化芸術部門)	平成 20 年	渡辺　実	元県相撲連盟理事長
同	平成 22 年	吉永俊彦	元県相撲連盟副会長
同	平成 23 年	岩﨑安次	元県相撲連盟理事長

平成 23 年は、市体育協会からの要望もあり、組織役員の若返りを図る為高齢の神田治夫会長から川上明廣らにバトンタッチした。が、若手の成長を見守るように同年８月神田治夫は黄泉の客となった。

今少子化が叫ばれている中、相撲の持つ良さを認識してもらうために丁寧な指導普及に努めると共に、若手指導者の育成にも取り組んでいる当連盟である。

現在役員

会　長	川上明廣
副会長	大江弘文
	細倉涼太
理事長	中村修二

静岡市卓球協会

はじめに

平成15年4月の旧静岡市、旧清水市の合併に伴い、静岡市卓球協会と清水卓球連盟でも、協会を1つに出来ないかといち早く検討に取り組んで参りました。
数年間に渡り、役員や理事、様々な方と議論を重ね、平成22年4月に静岡市卓球協会としてスタートする形を取ることが出来ました。静岡市の皆様のためになる卓球協会を目指して参りますので今後とも変わらぬご支援、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

20年間の歩み

①平成15年　4月
旧静岡市と旧清水市が合併し、新しい「静岡市」としてスタートした。

②～平成17年　3月
旧静岡市は、「静岡市卓球協会」。旧清水市は「清水卓球連盟」として、大会の企画及び運営を実施。

③平成17年4月
旧静岡市、旧清水市の合併に伴い、1つの市に2つの協会が存在するのは今後に影響するという理由から、協会の合併に向けて、合併プロジェクトチームを結成。新しい規約、内部組織、大会の開催、運営、強化普及活動、会計などをどうやって統一していくかの検討に入る。

④平成17年4月～
当面の暫定処置として、静岡市卓球協会を代表とし、各々「静岡支部」「清水支部」として運営し、プロジェクトチームと並行して活動を行うこととなった。また経験することが大事ということで、平成18年4月から窓口協会の会長以下三役を、各支部の三役が2年間ずつ交代で就任し、4年後の平成22年4月から、統一団体としてスタートする運びとなった。

⑤平成22年4月
プロジェクトチームおよび常任理事が中心となり、まとめた統一案を理事会で可決し、新しい「静岡市卓球協会」としてスタートした。

⑥平成23年4月
協会員の情報ツールとして、ホームページを開設。

⑦平成28年8月
統一後初めての全国大会「第39回全国レディース卓球大会」を主管支部として大会運営。

現状の課題

静岡市卓球協会が抱えている課題として1番に掲げられるのが、体育館の確保です。卓球競技は基本的に雨天中止がなく、ほぼ企画通りに大会が開催されますが、近年新しいスポーツ競技が増え、関係するスポーツ団体も増加したことから体育館の確保が難しくなり、今まで企画していた大会の一部を実施出来なくなり、中止を余儀なくされるケースが増えてきました。
近年のIT技術の進化により、紙からデータへの変更が進んできています。企業関係は、予算を組んで対応が進んでいますが、当協会では、予算と労力に限りがあるので遅れを取っています。IT化を進めることは、協会にもメリットが多大にあるので、今後の対応案が必要となってきます。

今後の展望

年配者向けにと日本卓球協会で開発したラージボール卓球は、20年を経過して競技人口が増加し、若年層にまで普及し、行事度数は増加しています。
加えて大会開催について、類似した大会については統合を図り、中止する大会を無くすようにしていきます。但し、大会数を減らすことは協会員の参加する機会も減るということで、あまり良い事ではありません。男女別開催、会場の分散化も視野に入れて検討して行きます。
IT関係については、母体である日本卓球協会の登録が、平成30年からインターネットを通じて登録する方式に変更となる為、これを機に登録チームのデータ通信網を構築し、発展の基盤づくりを行うようにして行きます。

1・静岡市卓球協会　ホームページのホーム画面（ホーム画面）



2・静岡市卓球協会　年間行事予定のページ

大会要項と申込み書をダウンロード出来るようにし、大会内容が容易に確認出来て、参加希望の場合には、プリントアウトして申込書が作成できるような環境を整えました。また大会後には、大会結果も検索出来るようにしました。



静岡市ソフトテニス協会

1　誕　生（ 設立　1927 年(昭和２年) ４月１日 ）

明治 17 年、硬式テニスからヒントを得て東京高等師範の坪井教授により軟式テニスが始められ、東京都の大学に拡がっていった。静岡県でも明治中期から師範学校をスタートとし中学校へと軟式テニスが広められた。静岡商業高校軟式庭球部は、明治 32 年学校創立時のクラブ活動として発足との記録がある。

2　戦前の動き

当市の中学校では、静岡中学(現 静岡高校)、精華学園(現 大成高校)などを中心に、明治後期から大正にかけて対抗試合や大会などが開かれ、ＯＢなどが青葉クラブや静岡クラブなどを結成し、一般人にも盛んに行われるようになり、大正 14 年、青葉クラブ主催の第１回県下大会が精鋭を集めて開催、以後『青葉選手権』として改称し、今日でも県下の権威ある大会として、若き選手の登竜門として継承されている。精華学園、静岡商業などが全国大会で活躍する中、昭和２年静岡市軟式庭球協会が創立された。

3　戦後の動き

昭和 16 年から 21 年頃にかけ太平洋戦争のため軟式庭球も休止されたが、昭和 21 年、御用邸跡地(現 静岡市役所)にコートが新設され軟庭が復活した。このコートは、昭和 27 年駿府公園に移され、昭和 32 年の静岡国体時に６面に改修された。しかし公園整備に伴い 50 年愛された駿府コートは廃止された。そして平成 15 年(2003 年)の２巡目の『静岡国体』では、有度山総合公園に 10 面のコートが新設された。

昭和 30 年半ば頃から、大衆スポーツとして一般市民に広く愛好され、皇太子殿下(現 天皇陛下)ご結婚時の美智子様ブームに乗って盛況となった。昭和 46 年、市協会主催のソフトテニス教室が市体育館及び照明設備のついた駿府コートで開催となり、週３～４回の初心者教室が開催され底辺拡大に大きな役割を果たしてきた。平成 15 年の駿府コートの廃止に伴い、現在は西ヶ谷コートにて中学生対象のナイタースクールや有度山コートでの小学生対象のジュニアスクールを開催し、中島コートでは早朝テニス会が行われている。

4　全日本大会の効果

昭和 49 年から毎年市協会では静岡のテニス技術の向上を図るため、全日本優秀選手を招き、目の前で日本最高の試合を行い多くの愛好者に観戦させてきた。時には、韓国や台湾の選手の参加で国際交流を図り、地元選手を出場させて日本一の選手と対戦し技術向上を目指した。この成果が徐々に表れ、昭和 54 年宮崎国体では静岡市出身者中心の成年男子が初優勝の栄冠を得ることになった。

また、県営草薙庭球場、静岡市の有度山、西ヶ谷、中島コートでは全日本社会人選手権、東日本選手権、国民体育大会、全日本レディース個人戦大会が開催され静岡県ソフトテニス連盟の下で静岡市ソフトテニス協会が主体となって大会運営を行ってきた。

5　新時代へ(ソフトテニスに改称、静岡・清水の合併)

軟式テニスは、徐々に国際化し海外各国で行われるようになった。この動きにより、名称も平成４年から『ソフトテニス』に改称され、さらに、平成６年からルールも一部改正されて現在ではこの国際ルールが主流となっている。

また、全国的な市町村合併により静岡市と清水市の合併が進み、両市の体育協会の合併に伴い、ソフトテニス協会も平成 15 年より合併を模索し、平成 17 年政令指定都市移行と同時に静岡市・清水市のソフトテニス協会を合併し『静岡市ソフトテニス協会』となり現在に至る。清水市で開催されていた各種大会も桜が丘コート、日本平コートにて区民大会、区民選手権として継続されている。また、桜が丘コートでは中学生対象のナイタースクールや土曜日の早朝テニス、小学生対象の清水キッズなどが活動している。

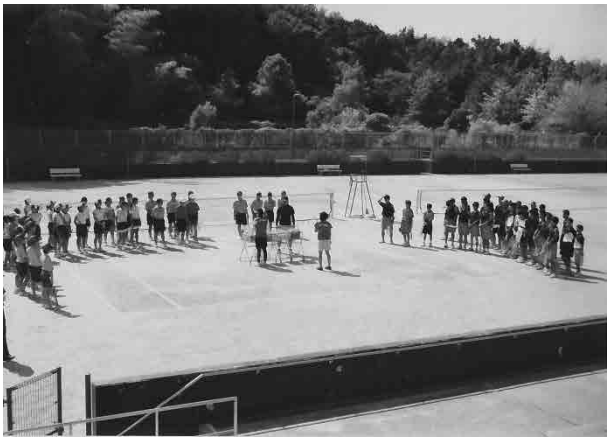
6　基礎作りの人々

(1)　歴　代　会　長：尾崎六郎、井田可吉、松浦元男、五十嵐栄一、岩城寛、芦屋真雄、大野哲資、
八木務、沼本脩、小関忠義(現)

(2)　功績のあった方々：飯塚一郎、鈴木毅、真田賢吉、田中藤男、栗田岩男、中尾代作、
大地忠雄、石川幸男、西ヶ谷嘉津次、大橋照男、伊藤捷一、落合敏男、
飯田勝信、梅田正義、市川博、吉田勝彦、永野幸三郎、伊藤朱、増田宜夫

(3)　栄 光 の 選 手：渡辺･森田(精華:全国女学校大会)、大野(明治神宮大会･単)、
福永･大石(静岡商:全国中学校大会) 、武井･赤井(静岡商:全国中学校大会)、
岡寺･久保田(静岡工:国民体育大会)、佐野･大坪(教員:国民体育大会)、
柏木･村上(静岡商：ハイスクールジャパンカップ)、木口(清水東:天皇杯)、
飯田･岩本(商友・静園:全日本社会人)、加藤･村上(静岡商:国民体育大会)


中学生大会　有度山コート



学男女強化練習会　有度山コート



技術強化講習会　有度山コート



ソフトテニス教室　東部体育館

静岡市テニス協会

この 20 年の主要な出来事をまとめてみた。

① 1999 年(平成 11 年)市体育協会主催による北京体育大学視察にテニス協会より柳澤会長(当時)以下 12 名の会員が参加、大学関係者とのテニス交流、学長室での懇談等有意義な訪問であった。

② 静岡男子国際オープンテニス大会(フューチャーズ)の開催。静清合併、政令指定都市移行記念大会ということで、2005 年(平成 17 年)から 3 年間開催、国内の上位選手、世界 10 ヶ国の若手選手を交え熱戦が繰り広げられた。観戦者は延べ 3,000 名を超えた。

③ 静岡ベテランテニストーナメントの開催

日本テニス協会への開催申請を経て、2011 年 11 月、日本平テニスコートを会場として国内 94 選手の参加により第 1 回大会が始まり、現在第 7 回を数えるまでになった。



第 1 回日本平ベテランテニストーナメント
スタッフの意気込みが感じられます。

錦織選手の活躍により、テニス界は活気にみちている。ジュニア世代の子供たちに夢を与え、目標を与えてくれた錦織選手に感謝しつつ、この波をさらに大きなものにしていく使命を感じている。



「テニスの日」のイベント
100 名以上の子供達と楽しくテニスをしました。



賞状もらったよ！

静岡市バスケットボール協会

1　協会紹介

平成 16 年４月１日、旧静岡市・清水市の両バスケットボール協会が合併し、現在、登録チーム数は 255 チーム、登録選手数は 4,800 人を超える団体となりました。

組織は会長・副会長以下役員 20 名で運営されています。

主な活動として

(1) 理事会(定例)　４月・６月・10 月・２月、総会３月

(2) 平成元年より毎年８月の第２日曜日に開催している「静岡市バスケットボールフェスティバル」

(3) 各種別で実施している技術講習会、審判講習会、ＴＯ講習会、指導者講習会の開催

(4) 市民大会、市協会長杯、新人戦や各種別で開催される多くの大会

各種別中心の大会数は 39 を数える。

(5) 県内外より多くのチームを紹介しての招待大会・交歓大会

ミニ・中学・高校が実施している招待・交歓大会数は 12 回程行われている。

(6) (公財)静岡市体育協会主催、各体育館（中央・南部・長田・東部・北部）で行われるバスケットボール教室（ミニ・中学・一般）の運営

(7) 県バスケットボール協会と連携して開催するＷＪＢＬ大会の運営

(8) 静岡市、(公財)市体育協会との連絡や要請を受けての活動

2　20 年間の歩みと事業紹介

平成 14 年、旧静岡市・清水市の両協会の代表者により「２年後の協会合併」についての会合が開かれた。そこで話し合われた内容をそれぞれの協会に持ち寄り検討され、平成 16 年４月１日に合併し、新たに静岡市バスケットボール協会が活動を開始しました。

その第１回理事会で、①理事会の日時・回数　②総会の日時　③フェスティバル関係　④協会役員　⑤種別理事の選出　⑥協会公認大会・準公認大会　⑦バスケットボール教室の運営　⑧体育館優先使用について各種別との調整　⑨ＷＪＢＬ運営関係、などの協会活動が決定し、その後順調に活発な活動が展開されている。

(1)バスケットボールフェスティバル

平成元年、静岡市制 100 周年の記念として、「ＳＵＮＰＵ博８９」のイベントに、協会としてミニから一般を挙げて参加することになり、「静岡市バスケットボールフェスティバル」　を開催した。一般はシャンソン対共同石油（現 JX-ENEOS)、高校男子は秋田能代工高、女子は神奈川富岡高を、中学は韓国から大京中(男)・塩光中(女)を招待し、市選抜チームが対戦、さらに各種別の紅白戦を４日間、中央体育館を主会場にして第１回を開催した。このフェスティバルはその後も、毎年８月の第２日曜日、中央体育館で開催している。試合も一般選抜対市内教員戦が行われるようになり、毎回、選手・観戦者が 2,000 名を超す盛大な事業となっている。

(2)国際交流

昭和 52 年に８月に旧静岡市中学選抜チームが初めて韓国ソウルに遠征、交流試合が行われた。この国際交流はその後、韓国・中国・台湾の３ヵ国と交流した。交流が始められた数年は、韓国チームも来静するなど活発に行われた。最近では平成 15 年、16 年、17 年、20 年、23 年と韓国・台湾に遠征、昭和 52 年から平成 23 年までに 22 回の交流が続けられた。

交流を進めて十数回は相手チームに振り回されていたが、ディフェンスやシュート力などの強化を進めた。その後は対等な戦いが見られ、男女とも数回は勝利するなどレベルアップしている事が強く感じられた。

交流は試合だけでなく、異国の文化に触れたり、対戦チームとのレセプション、校内見学、台湾九扮・基隆や中国万里の長城、韓国景福宮・ロッテワールドなどの観光も中学生には好評であった。なお、ミニ・高校においても国際交流を行った年があった。

(3)各種講習会

技術講習会はミニ・中学・高校で毎年開催、回数も年間５回から 12 回程開催されている。審判講習会も同じように開催されており、特に一般は大会当日に審判・ＴＯ講習会を同時開催するなど参加しやすい工夫をしている。

講習会は市バスケットボール協会種別理事が中心となって実施しているが、県バスケットボール協会の協力を得ても実施している。

(4)種別主催大会

各種別大会ミニ、中学、高校、一般の種別ごとに多くの大会が組まれ、協会主催はミニ・中学部の会長杯、各種別大会は、静岡中央・南部・長田・東部・北部の各体育館、清水総合体育館、三保体育館・各小学校・中学校・高等学校の体育館を使用して多くの試合が行われている。その中でも一般の市民リーグ戦は９～３月の長期の大会を運営展開している。

(5)市立体育館バスケットボール教室

故漆畑智生(理事長 昭和 43 年４月～平成 14 年１月)がバスケットボール普及・発展に努力され、開講した「ミニ／バスケットボール教室」は５館で開催されている。始めはミニと一般の教室であったが、現在は長田体育館では高校生、北部体育館では中学生も対象として、多くの指導者の協力のもと継続している。最近は障害のある方の参加も見られ、熱意溢れた指導員姿が見られる。

(6)ＷＪＢＬ大会の運営

ＷＪＢＬの大会は、資格を有した役員が必要なため、県バスケットボール協会所属の資格保持者の派遣と大会運営の要請を、県バスケットボール協会より受けて市協会が運営している。よい試合を多くの人に観戦していただきたいという願いをもって３ヵ月程かけて準備し当日を迎えている。市協会が運営する大会は 10 月から翌年２月までの間で年１、２回開催している。

3 現状の課題と展望

毎年４月初旬、高校の交歓大会より活動が始まり、翌年３月下旬の一般リーグ戦まで延べ 130 日間に渡って、大会や講習会等を展開している。

しかし、ここ数年登録チーム数や選手数が、僅かではあるが減少してきているという問題が発生して

いる。チームによって人数が足りないため登録が出来なかったり、試合に参加できないなどの状況が起きている。そのため市協会(ミニ部・中学部)は、協会登録や試合参加を認めるなどの救済措置をとっている。今後大きく減少する事はないと思われるが、少子化が進む中、どの種別も「どのようにして部員数を確保していくか、バスケットボールの楽しさや魅力あるチーム作りはどのようにしていくのが良いか」など、多方面に渡って検討していく時期ではないかと思われる。

そんな中で、平成 28 年に新たに男子Ｂリーグが発足し、迫力ある試合が展開され、大いに盛り上がり、バスケットボール界に明るい展望が開かれたようです。各チーム今まで以上に勝利を目指すとともに、観戦者がより楽しかったと感じられる試合を展開するようになるでしょう。





バスケットボールフェスティバル





市民リーグ戦

静岡市バレーボール協会

当協会は、旧静岡市・旧清水市の合併に伴い、旧静岡市バレーボール協会・旧清水市バレーボール協会が合併し、新しい『静岡市バレーボール協会』として平成 17 年より渕本会長のもと活動を開始しました。

当協会は、単にバレーボールの技術力の向上、強いチームの育成よりも、むしろ広く大勢の人々にバレーボールに親しんでいただき、普及することに努力してまいりました。

紆余曲折もありましたが、各チームの選手・監督などのご協力と当協会役員の努力により、現在、小学生 14 チーム、中学生 61 チーム、高校生 36 チーム、一般 45 チーム、家庭婦人 142 チームと多くのチームに登録していただいていることは本当に喜ばしいことであります。

バレーボールを通して多くの友を得、視野を広め、人格を高め、健康とバレーボールの出来る環境への幸せを感謝し、ますますの発展のために努力しています。

当協会の運営に関し、静岡市体育協会、静岡市等の励ましをいただき深く感謝申し上げます。

今後も、小学生から高齢者まで幅広い年齢層に市民スポーツとしてのバレーボール競技を発展させるため努力してまいります。

中学生競技力向上バレーボール講習会の様子




2017/07/12


2018/02/28

静岡市野球連盟

1　団体の紹介

当連盟は、野球に理解と情熱をもった郷豊氏が、終戦の混乱した世相の中で、青少年の健全育成には「軟式野球」であると確信し、昭和 21 年に結成された。設立当時の精神を忘れずに現在に至っている。

当連盟は、静岡市体育協会・清水体育協会が合併後、葵区・駿河区の一般社会人チーム及び少年部（中学校・学童部）の静岡市民軟式野球大会をはじめ天皇賜杯・高円宮賜杯（学童部）25 大会を、静岡市が管理する西ケ谷球場をはじめ河川敷グランドを借用し開催をしている。

2　20 年間の歩み

一般社会人チームにあっては、静岡ガス㈱野球部が平成 13 年国体（宮城県）優勝、平成 15 年国体（静岡県）・平成 19 年天皇賜杯（大分県）準優勝と好成績を残し静岡県の軟式野球界のリーダーとして活躍している。壮年の部は平成 26 年日本マスターズ埼玉大会では、チーム静岡が優勝、中学校では、全国中学校大会において、常葉橘中学校が平成 22 年（岡山県）優勝、平成 22 年から開催されている文部科学大臣杯全日本春季軟式野球大会では、常葉橘中学校が第１回準優勝・第２回に出場、第４回服織中学校、第６回竜爪中学校が出場を果たしている。学童部は、平成 19 年に第 29 回全国スポーツ少年団交流大会に静岡豊田野球少年団、平成 26 年第 34 回高円宮賜杯に静岡ツインズスポーツ少年団が出場した。





3　現状と課題

加盟チーム数は昭和 50 年代を境に、レジャーブームや生活環境の変化に押され、平成 10 年度には 170 チームまで減少し、現在は社会人・中学・学童部を合せて約 90 チームと登録チームの減少が加速化している。

学童部の育成及び競技力向上を図るため、平成 17 年度から川相昌弘杯兼静岡選抜大会を主管し、また、平成 21 年度から静岡市体育協会の種目別団体強化講習会として法政大学硬式野球部による野球教室を開催している。

平成 22 年に公益財団法人全日本軟式野球連盟が新設した文部科学大臣杯全日本少年春季軟式野球大会

を静岡県野球連盟が招致、第２回大会、第４回以降は静岡市を中心に第 10 回大会まで開催されることになっており、開催地支部として開会式・試合運営を担当している。

静岡市支部活動の様子



学童野球教室



審判講習会

平成 29 年９月現在の役員

会　長	森　村　謙　司	事業部長	鈴　木　　誠
副会長	瀧　川　進　吾	会計部長	大　石　喜　義
副会長	山　本　　満	審判部長	折　田　孝　樹
副会長（兼事務局長）	鈴　木　陽太郎	少年部長	斎　藤　　広
支部長兼理事長	浅　野　　孝	中体連部長	山　口　晋太郎
副理事長	酒　井　昭　治	施設管理部長	杉　山　修　身
副理事長	花　村　　正	渉外部長	増　田　康　行
総務部長	海　野　耕　司		

静岡市ラグビーフットボール協会

1　静岡市におけるラグビーの歴史

静岡市でのラグビーは、日本ラグビーフットボール協会が創立された直後の昭和４年に旧制静岡高校と東京電気本社が試合を行い、これに触発された元衆議院議員の故佐野嘉吉氏らが社会人クラブチームの創設に向けて歩み始めた。

昭和８年に草薙野球場で第１回静岡県ラグビー大会を開催するなどの活動を広げ、昭和 25 年に本市のラグビー協会が創立された。

昭和 28 年と 29 年に草薙球技場で全国社会人大会が開催され、昭和 32 年には第 12 回国民体育大会も開催された。

こうして本市のラグビーは年々盛んになり、平成５年と６年には静岡クラブのメンバーを擁する静岡県代表が国体東海ブロック大会成年の部２部で優勝した。

平成 13 年の国体東海ブロック大会少年の部では、東海大学付属静岡翔洋高校を中心にメンバー編成した静岡県代表が 44 年ぶりに優勝し、宮城国体で３位になった。

また、旧静岡と旧清水の体育協会合併に伴い、静岡と清水のラグビー関係者が協議し平成 16 年７月９日にラグビー協会合併の合意書を交わした。

2　各カテゴリーの活動

(1)　ラグビースクール

平成 17 年に田町緑地スポーツ広場ラグビー場で始まった静岡中央ロータリーカップは、参加チームが増えて西は愛知県岡崎市、東は千葉県市川市などの少年チーム９チームが集まり、会場も西ヶ谷総合運動場や草薙球技場にて盛大に開催し、年々レベルも向上している。

平成 24 年の第８回大会では、東日本大震災に遭った宮古ラグビースクールを西ヶ谷陸上競技場に招待し、励ましの言葉をかけると共に友好の輪を広げた。

また、平成 27 年のワールドカップイングランド大会以降、小学生の保護者の理解が高まり生徒が増えている。

この結果、平成 29 年には少年ラグビーの全国大会ともいえるヒーローズカップの東海北陸大会で愛知及び三重代表に勝利するなどレベルが向上した。

(2)　中学校

平成 20 年に静岡ラグビースクール中学部を中心としたチームが、東海ブロック代表として第 14 回全国ジュニアラグビー大会に初出場するなど強化の成果が出てきた。

しかし、現在本市にはラグビー部のある中学校が２校であるため、新たな創設と部員増加が高校の戦力強化に向けた課題となっている。

(3)　高等学校

現在静岡県にはラグビー部のある高校が 13 校あるが、このうち本市には７校あり、正月に開催される全国高校ラグビー大会出場の常連である静岡翔洋高校や静岡聖光学院高校などがそれぞれ特徴のある活動を行っている。

平成 11 年に東海大学付属第一高校と東海大学付属工業高校が合併し静岡翔洋高校として出発したが、直後の平成13年には静岡県代表の主力として活躍すると共に第５回東海高校選抜大会で優勝するなどの成果を上げた。

平成 21 年には静岡聖光学院高校が、静岡県高校新人大会及び全国高校ラグビー大会静岡県大会で優勝するなど着実に力をつけてきた。

また、静岡翔洋高校では女子ラグビー部が創設され、平成 25 年の第２回と平成 28 年の第５回の全国高校選抜女子セブンスでは東海地区代表として出場した。

このように各校での成果は上がっているが、全国の強豪校の壁は厚く打倒シード校を目標にして部員の増加など強化に努めている。

(4)　大学

静岡大学、静岡県立大学、東海大学海洋学部の３大学が東海学生リーグに所属し、平成６年には静岡大学が全国教育系大学大会で優勝した。

最近は、東海大学海洋学部にラグビー経験者が多く在籍し今後の活動が期待される。

静岡県立大学は、国際関係学部の学生を中心にニュージーランドでラグビープレイヤーとしての活躍する者もあり、ＪＥＮＥＳＹＳ2016 と 2017 にはタグラグビー交流に参加して東南アジア諸国の学生の指導をするなど多彩な活動を行っている。

(5)　社会人

昭和４年に創設された静岡クラブは、静岡県下クラブチームの雄として全国規模の大会出場や海外遠征などを数多く行い活発な活動を続けている。

平成23年に静岡クラブが創設80周年記念として静岡クラブ選抜チームを編成し２度目の台湾遠征を、平成 26 年には静岡県選手権において最多の 11 度目の優勝を果たした。

また、平成 15 年に始まったトップリーグでは、静岡聖光学院高校から中央大学、サントリーに進んだ小野澤宏時が平成 20 年のＭＶＰを受賞し、ラグビーワールドカップでは３大会連続トライを記録する等日本を代表するプレーヤーとして国内外から高い評価を得た。

社会人チームは、かつては 10 チームほどあったが現在では１チームに減少しており、ワールドカップの静岡開催に向けてラグビー経験者の掘り起こしが課題である。

3　ラグビーワールドカップ 2019

平成 26 年に本市ラグビー協会の小泉会長らが、県内都市の先陣を切ってワールドカップ出場チームの合宿を誘致するよう静岡市に要望書を提出した。

平成 29 年にはラグビーワールドカップ日本大会において、静岡県ではエコパスタジアムにおいて日本代表やオーストラリア、南アフリカ、スコットランド、アイルランドなどの強豪チームの試合が行われることが決まった。

こうした情勢の中、本協会はワールドカップ開催の機運醸成に向けて、平成 28 年から(公財)静岡市体育協会と連携しタグラグビー教室を各地区で開催している。

本市ではまだまだラグビーの認知度が低く競技人口も少ないが、ラグビー関係者はワールドカップを盛り上げるべくラグビーの魅力の発信や普及に努め、ワールドカップ出場国の合宿誘致に向けて関係機関に働きかけている。

静岡市陸上競技協会

1　創立よりの歩み（設立　昭和 23 年３月 23 日）

戦後まもなく創立された静岡市陸上競技協会は、この後設立された静岡市体育協会にも松浦会長、天野理事長がそれぞれ市体育協会の副会長、常任理事として参画し、その後、70 年に渡り、歩み続けている。

その間、平成 14 年静岡市・清水市が政令市となり、これを受けて陸上競技協会は平成 16 年旧静岡市、旧清水市の陸上競技協会が合併し、静岡市陸上競技協会となり、現在に至っている。

歴代会長、理事長は次の通りである。

初代会長	松浦　元男	２代会長	杉山竹次郎	３代会長	中須　幹夫
４代会長	坂本　茂美	５代会長	大倉　文雄	６代会長	笹井　輝夫
７代会長	河合　久光	８代会長	北澤　晴樹		

初代理事長	天野　忠司	２代理事長	小長井徳太郎	３代理事長	佐藤　隆
４代理事長	山下　萬	５代理事長	森本　明	６代理事長	松村　吉郎
７代理事長	石野　吟策	８代理事長	岩本　穣兒		

2　市民大会の歩み



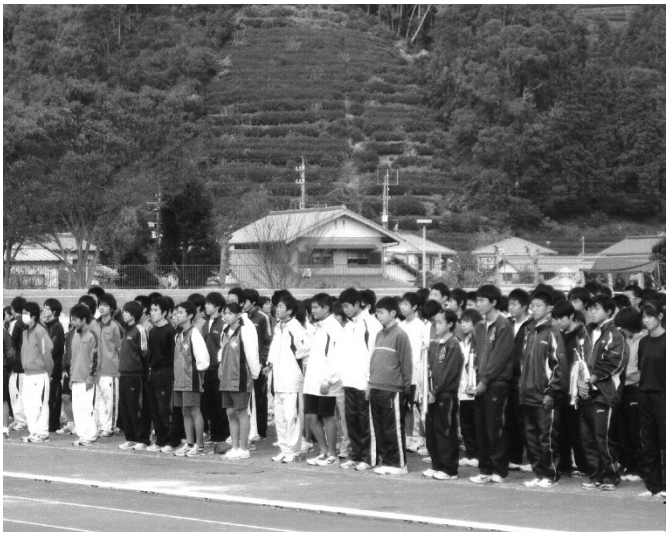
本会は創立以来一貫して市民サイドに立ち運営されている。創立後の昭和 24 年１月には市長杯冬季継走大会を開催し、その後は「市民継走大会」と改称し、多くの市民に親しまれて現在に至っている。

さらに昭和 46 年からは春秋の２回「市民カーニバル陸上大会」を開催している。

「市民継走大会」には毎年、清水区、葵区、駿河区から幅広い年齢層の 1,000 名を超える選手の出場を得て盛況の内におこなわれている。「市民カーニバル陸上大会」は出場人数の増加により、１日開催が時間的に難しくなり、ジュニア層の強化に主眼を置き、小学生・中学生だけの大会として継続してきている。

一方、合併後は「清水市民大会」が「清水区民大会」となり現在も小中学生から高校生、一般に至る幅広い選手の参加により大会が実施されている。小学生への普及・拡大の一環として「静岡市小学生大会」を清水地区で立ち上げるなど、今後も底辺の拡大を基に市民の体力増進を図れるように考えている。

３　スポーツ教室の歩み



静岡市陸上教室は昭和 46 年に山下萬氏、石野吟策氏が中心となり、当時若い指導者が数多く加わり発足した。

静岡市内の中学生を中心に小学生も参加し、学校の枠を超え、学年別、年齢別の指導システムにより、陸上競技の技術指導だけでなく体力面や精神面の育成までを考えて行われている。

40 年超に及ぶ指導により、教室を巣立った子供たちが日本の一線級のアスリートになり、指導者として教室に参加することも多い。アジア大会で金メダルを獲得した望月勇志氏もその一人である。彼は指導者としても東アジア大会銅メダルの長倉由佳さんを育成した。また小学校から教室に熱心に参加していた高瀬慧選手は、ロンドン・リオのオリンピックをはじめ、世界選手権やアジア大会で活躍している。さらに、近年この教室からは、長距離で活躍する選手も増えている。



仁川アジア大会 10000ｍで銅メダルを獲得した萩原歩美選手から 2016 年日本選手権 1500ｍ優勝の木村友香選手、2017 年、ＪＯ全国大会 800ｍに中学１年生で優勝した細谷愛子選手と今後の活躍を期待できる選手が目白押しである。

市民サイドに立ち運営してきている当協会であるが、市民のスポーツに対する要求や欲求は多岐に広がってきており、さらにニーズに沿った運営を目指し、あわせて、今後も心豊かなアスリートの育成を願い活動していくつもりである。

静岡市ソフトボール協会

1　はじめに

静岡市ソフトボール協会は、昭和 30 年県下の郡市に支部結成の機運が高まりに呼応して、時の市長山田順策氏を会長に仁科晋氏を理事長として誕生した。

同年 11 月３日に開催された第３回静岡市スポーツ祭のときに、豊田中学校に於いてソフトボール競技が開催され、これが協会としての最初の公式大会だった。

2　20 年間の歩み

ア　平成 17 年度

静岡市ソフトボール協会創立 50 周年の記念すべき年にあたり、記念事業が行われた。

・日本女子１部リーグの第３節を静岡大会として県営草薙球場において開催した。

・記念式典と祝賀会を挙行した。

・50 周年を集約した記念誌を発行した。

イ　平成 17 年度

静岡市が全国 14 番目の政令指定都市として誕生した。これに伴い、静岡市ソフトボール協会と清水市ソフトボール協会が合併し、静岡市ソフトボール協会と静岡市ソフトボール協会清水支部となった。この結果、静岡と清水の両体育協会が合併して、新たに誕生した財団法人静岡市体育協会に加盟した。

但し、静岡市ソフトボール協会と静岡市ソフトボール協会清水支部は地理的状況等も考慮し、今までどおり、それぞれの協会での活動を継続していくこととした。

ウ　登録チームの全国大会成績

平成 12 年度	第 13 回全国スポーツ・レクレーション大会	静女商友欄優勝
平成 13 年度	全日本スポーツマスターズ 2001 宮崎大会	静岡クラブＯＢ優勝
平成 15 年度	全日本スポーツマスターズ 2003 和歌山大会	静岡クラブＯＢ優勝
平成 16 年度	全日本スポーツマスターズ 2004 福島大会	静岡クラブＯＢ優勝
平成 17 年度	全日本スポーツマスターズ 2005 富山大会	静岡クラブＯＢ優勝
平成 18 年度	第 19 回ねんりんピックソフトボール大会	静岡クラブシニア優勝
平成 19 年度	第 16 回全日本実年ソフトボール大会	実年静岡クラブ優勝
〃	第 20 回ねんりんピックソフトボール大会	静岡クラブシニア優勝
平成 20 年度	第５回ジョイフル・スローピッチソフトボール全国大会	静岡倶楽部・女子優勝
平成 22 年度	第 24 回全日本シニアソフトボール大会	静岡クラブシニア優勝
〃	第７回ジョイフル・スローピッチソフトボール全国大会	静岡倶楽部・女子優勝
平成 23 年度	第 24 回ねんりんピックソフトボール大会	静岡クラブシニア優勝
平成 24 年度	第９回ジョイフル・スローピッチソフトボール全国大会	静岡倶楽部･女子優勝(A)
平成 28 年度	第 29 回ねんりんピックソフトボール大会	静岡クラブシニア優勝

エ　登録チーム数の推移

平成 10～29 年度

年 度	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
チーム数	251	252	252	258	259	253	249	243	240	233

年 度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
チーム数	220	209	199	190	183	173	159	159	155	147

3　現状の課題

近年の傾向として、ニュースポーツの普及、多様化などの影響を受けて、チーム登録数が、昭和 55 年の 379 チームをピークに年々減少傾向にある。

また、審判員の減少等により協会運営にも影響している。

4　今後の展望

ピッチング講習会をはじめとする技術講習会等各種事業の充実を図ることにより、ソフトボール愛好家人数を増やし、登録チーム数の増加を図りたい。

東京オリンピックにソフトボール競技が正式種目になったことにより、ソフトボールに関心が高まりソフトボール愛好人口が増えることに期待したい。

当協会で使用できるグラウンドは、田町緑地グラウンド、山崎新田スポーツ広場及び松富スポーツ広場で、トイレ駐車場等が足りない。そのため、全国規模の大会を実施することができない。したがって、ソフトボール専用グラウンドの新設を望む。

静岡市スケート協会

1　はじめに

静岡、清水地域に室内アイススケートリンクが３ヶ所営業していたが、平成５年に狐ヶ崎ヤングランドのリンクが閉鎖となって以来、近くで氷上活動が出来なくなりスケート愛好者並びに競技者の底辺拡大、選手及び指導者の育成、スケート競技会も出来なくなってしまった状況が続いている。

しかし、何とか静岡・清水の小中学生にはアイススケートの楽しさとスピード感を体験してほしい一念から小中学生と父兄の協力を得てスケートバスを県内では朝霧高原野外センター・日本ランドへ、県外は岡谷やまびこスケートリンク・甲府の小瀬アイスアリーナ・野辺山の帝産オートスケートリンク等へ出し続けている。

2　あゆみ

平成 10 年度　市民大会（日本ランド）

平成 11 年度　市民大会（日本ランド）・スケート教室（野辺山）・国体（長野）出場者：佐藤絵美

平成 12 年度　スケート教室（岡谷やまびこ）（日本ランド）（野辺山）

平成 13 年度　矢部竜夫氏　静岡県体育協会の功労賞を授賞

スケート教室（日本ランド）（野辺山）静岡北高校生指導（５日間）

平成 14 年度　スケート教室（日本ランド）（野辺山）静岡北高校生指導（５日間）

国体（富士急）出場者：川口正悟、平田浩一

平成 15 年度　スケート教室（小瀬アイスアリーナ）

清水スケート協会 39 年間の元・現役総員による歴史を閉じる会を開催

静岡・清水市合併に伴いスケート協会の合併の話し合い　第１回目８月８日にスタートし以降９回の会合を重ね、16 年４月１日合併スタート、名称は静岡市スケート協会とすることで調印した。

役員人事は下記の様に決まった

会　長：山崎忠彦

副会長：藤原　林、矢部竜夫、長澤利一、稲村好則、杉山義司

理事長：加藤米男

事務局：津金敬三

理　事：岡田博巳、山崎　昇、川崎　清、奥田郁夫、出島雅明、望月千奈美

監　事：杉山守由、篠塚喜夫

国体（伊香保）出場者：川口正悟、平田浩一

平成 16 年度　４月１日　新生静岡市スケート協会が発足

合併記念スケート教室（小瀬アリスアリーナ）（ぐりんぱ）（朝霧高原野外センター）

国体（帯広）出場者：川口正悟、平田浩一

平成 17 年度　山崎忠彦氏　静岡県体育協会の功労賞を授賞
山﨑会長が体調不具合で辞任、２代目会長として藤原　林氏が就任
スケート教室（小瀬アイスアリーナ）
県民スポーツ祭スピードの部３位
平成 18 年度　蒲原町スケート協会との合併の話し合いがもたれた
平成 18 年度～21 年度　スケート教室（小瀬アイスアリーナ）
平成 19 年度　４月１日　元蒲原町スケート協会と合併する
国体（富士急）出場者　若月朋子、その後平成 26 年度まで連続出場を果たした
平成 22 年度　スケート教室（朝霧野外活動センター）
藤原　林 氏　静岡県体育協会の功労賞を授賞
平成 23 年度　３代目会長に矢部竜夫氏が就任
平成 23 年度～27 年度　スケート教室（小瀬アイスアリーナ）
平成 28 年度　スケート教室（野辺山帝産オート）
静岡市呉服町の樹脂スケートリンクでのスケート指導
国体（盛岡）出場者：若月朋子

３　現状の課題

スケート協会員の高齢化による指導員の減少、スケート教室の参加者募集で旅行業法に抵触しない集め方、若手指導員後継者の育成を急ぐ

４　今後の課題

スケート指導者の育成と発掘、身近に行けるスケートリンクの設営を望む



小瀬アイスアリーナでスケート教室風景

静岡市自転車競技連盟

1　団体の紹介

自転車競技は、ロード競技とトラック競技に大別され、当連盟ではトラック競技を主体とし、静岡競輪場を会場に年 12 回から 15 回、日曜日の午後を練習会として開催している。本年度(平成 29 年度)登録者 33 人、年齢は９歳から 69 歳までの幅広い年齢の方々が参加している。またトラック競技における自転車の特殊性(ピスト自転車)と、すり鉢状のコースの特殊性(１周 400 メートル、路面最大傾斜 30° 43′ 20″)から公認スポーツ指導者、自転車競技有資格者が基本走行、団体走行、競技種目ルール、自転車の整備等の指導を行い、競技を通して安全、安心、楽しく行えるスポーツとしての普及に努めている。



2　20 年の歩み

当初は、自転車愛好者の健康及び体力づくりの団体から始まる。

2003 年(平成 15 年)の第 58 回国民体育大会「NEW!!わかふじ国体」を機に競輪場のバンクをピスト自転車で走りたい愛好者から競技を見据えての競技思考者まで幅が拡大し登録者数も増加した。小中学生は基本走行を学び近隣で開催される大会で好成績を挙げ、高校の自転車競技部へ転籍し高校総合体育大会地区予選から全国高校総合体育大会、国民体育大会で静岡県代表選手となり活躍する選手を輩出している。

2009 年(平成 21 年)、伊豆ＣＳＣで日本マスターズ静岡大会が開催された。国体開催以降の競技力の向上などにより当連盟登録者も入賞する好成績を収め、それ以後の日本マスターズ大会トラック競技にお

いては常に入賞する好成績を収めている。また公益社団法人日本自転車連盟（ＪＣＦ）主催競技会、県体育協会（一社）静岡県自転車競技連盟主催競技会へ役員派遣し競技役員の育成と質の向上に努め現在に至る。



3　今後の展望

自転車愛好家は多いが自転車競技としては、まだまだマイナーな競技から脱していないのが現状である。当連盟の登録者数の増減は本県での全国レベルの大会開催の有無に連動しており、これはメディアの情報発信効果によるものと考察する。

本県では来年以降、日本だけでなく世界が注目する大会が開催される。

2018 年　全国高校総合体育大会

2019 年　世界選手権　トラック種目

2020 年　東京オリンピック、パラリンピック　トラック種目ほか

自転車競技の普及、発展によい好機であり、全国、世界レベルの力と技を身近で観て感動して頂けると確信する。それにより自転車競技人口の拡大することを期待し、静岡市体育協会から全国、世界で活躍する選手の輩出、シニア層の健康及び体力づくりまで、更なる普及と育成に努める。



静岡市体操協会

1　団体紹介

平成16年１月（2004年）旧静岡市体操協会と旧清水市体操協会は、合併前から交流を親密にすると共に合併への協議を重ねて、一つの新しい静岡市体操協会となった。

二つの体操協会の組織は、それぞれ独自の特徴をもって発展を遂げてきていたが、旧静岡市と旧清水市の合併に先駆けて互いの立場を尊重して調印された。

旧静岡市は早くから体操の組織を確立して活動しており、協会の構成は、体操（器械）と新体操の２種目を有している。活動している団体は、中学校部活（17 校)、ジュニア体操クラブ（11 団体)、高等学校（10 校)、各新体操（10 団体）が加盟する県下最大の組織として盛んに活動していた。

旧清水市は、協会設立時には、体操（器械）や新体操の中学校部活がなかった。市内小学校（私学を含め）40　校の学校行事「小学校体操大会」があり、そこで活躍した子ども達のニーズから、各ジュニア体操クラブが創設された。ジュニア体操クラブ（７団体）と高等学校（３校）が主になって協会が設立された。その後、合併までの 20 年活動した。

二つの体操協会の合併にあたり、両体操協会の規約を基にして組織を構築した。主な構成委員会は、競技部（男子体操、女子体操、新体操)、普及部（強化、夜間スポーツ)、事務部の三部で構成されている。各委員会は委員長が束ね実行に移している。

体操協会の会員は毎年募集する。役員については、隔年で選出される。体操協会の会員はこの三部の何れかに属し、協会の諸活動に協力する。

2　20 年間の歩み

1998 年（平成 10 年２月）

静岡市体育協会創設 50 周年記念のメインイベントを静岡市体育協会から市体操協会が依頼され、中国北京体育大学、アトランタオリンピック中国代表選手と静岡市体操協会新体操関係者 200 名での合同演技会を北部体育館で開催した。

2002 年（平成 14 年３月）

静岡国体の選手強化のため、体操（器械）・新体操の男女合わせて８名と役員４名が中国北京体育大学で指導を受けた。

2003 年（平成 15 年４月）

旧静岡市と旧清水市の両市が合併し、新たな静岡市が誕生した。

〃　　（平成 15 年 10 月）

国体では、静岡市在住の体操選手が多数選ばれた。

2004 年（平成 16 年４月）

旧静岡市と旧清水市の両体操協会が 1 月に合併の調印をし、４月１日新たな静岡市体操協会が誕生した。

〃　　（平成 16 年 12 月）

アテネオリンピック団体金メダル獲得の報告会を、水鳥寿思選手、米田功選手と日本大学体操部を迎

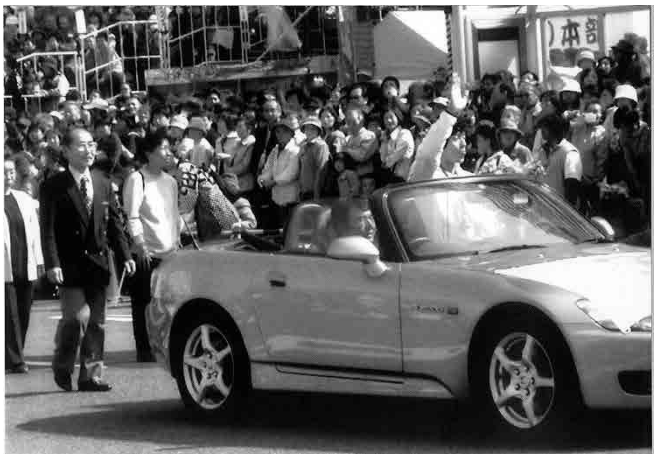
えて中央体育館で行った。会場には観客が 1,000 人ほど集まり大盛況であった。

2005 年（平成 17 年４月）

旧静岡市と旧清水市の両体育協会が合併し、新たに静岡市体育協会が発足した。

アテネオリンピックで金メダルを獲得した水鳥寿思選手の凱旋パレードが盛大に実施された。

2009 年（平成 21 年 11 月）



味の素ナショナルトレーニングセンターで、静岡市体操協会優秀選手 20 名と役員４名が、水鳥選手他、ナショナルコーチに指導を受けた。

2014 年（平成 26 年７月）

一基目のスプリングマット導入の要望書を静岡市体操協会が静岡県体操協会と連名で静岡市長に提出した。

2016 年（平成 28 年３月）

一基目のスプリングマットが静岡市立中央体育館に導入、配備された。

〃　（平成 28 年８月）

二基目のスプリングマット導入の要望書を静岡市体操協会が静岡市長に提出した。

この日、リオデジャネイロオリンピックで体操男子団体を金メダル獲得に導いた水鳥寿思監督が市長を訪問し、会場では大勢の報道陣に囲まれた。

〃　（平成 28 年１月）

２基目のスプリングマット導入の要望書を静岡市体操協会単独で提出した。

2017 年（平成 29 年 12 月）

中央体育館にて、12 月に水鳥監督とリオデジャネイロオリンピック出場選手男女各１名を迎えて、新スプリングマットのお披露目演技会を実施した。

3　主な事業

(1)　ジュニア体操普及認定会

春と秋２回実施している。ジュニアクラブやスポーツ少年団の団員が中心に参加している。平成 29 年度末現在 79 回を数えている。体操競技の基礎・基本となる技や動作を取り入れた規定演技を通して、体操の基礎基本を大切に級や段を認定・称揚する会である。



(2)　新体操演技発表会



中央体育館で毎年、12 月 23 日の祝日に実施し、平成 29 年度末で 19 回目を迎える。

発表会では、幼児から高校生までの約 800 人が参加して実施している。会場内では軽快な曲にのって美しい演技が披露されている。会場に集まった 2,000 人以上の見学者が共に楽しむ市内最大の新体操演技発表会である。

(3)　春の静岡まつり大会（４月）と秋の静岡市民体操大会（10 月）



どちらの大会も中央体育館で開催している。体操（器械）・新体操が同じ会場でそれぞれの技を競い合っている。静岡まつり大会の開会式では、前年度の優秀選手を表彰し今後の活躍を奨励している。

(4)　夜間スポーツ教室＜体操（器械）・新体操＞

静岡市スポーツ振興課主催事業の依頼を受けて、協会加盟の指導者がこの期間、中央体育館、北部体育館、東部体育館、長田体育館の４会場で指導を行っている。市内全域から参加した児童・生徒は体操（機械）・新体操を楽しんでいる。

4　現状の課題

(1)〈学校部活の減少、消滅をいかにしてくい止めるか〉

年々、中学校・高等学校の体操部が減少する傾向に有り、公立学校にこの傾向が強い。これを阻止するために苦慮しているのが実情である。

原因としては生徒数の減少、学校部活に携わる教員の勤務事情や体操指導経験者の不足等があげられる。教育委員会も教員勤務時間を軽減する観点から一般からの部活動指導者を導入したり、教員の引率の方法を配慮する等の措置をとる方向にあると聞くが、果たして部活減少阻止に功を奏するかは疑問である。

減少阻止の難しさを学校部活の体操部でいうと、①練習や大会参加等の活動そのものに危険が伴う事。②指導者に高度な技術が必要であること。③施設、器具が安価でないことなどがあげられる。
また体操（器械）から新体操に転向するということもある。

最近の傾向として中学校体育連盟（中体連）大会に参加する生徒が、所属中学校で練習するのではなく地域の体操クラブに通い、練習に励み、所属中学校として成果をあげていることは周知の事である。地域体操クラブの発展を願いつつも、学校教育としての学校部活の発展も願わずにはいられない現状である。

今後、上記の実情を踏まえ、市の教育行政やスポーツ行政と、課題を共通のものにしながら連係を密にしていかなければならないと考えている。

(2)〈優秀な中学生、高校生が静岡市から去っていく〉

市内の学校部活や地域クラブで育てられ全国大会で優秀な成績をおさめた選手も、やがて静岡市以外の中学校、高校に進学していってしまう。地元に受け皿が乏しいからである。

この現状を変えるには、上記の学校部活の事にも共通するが、市内の高校又は公共施設に体操競技・練習をするのに適した安全な練習場を確保することと、その会場で指導する専門知識を持つ優秀な指導者が、常勤体制がとれる環境を整えることである。体操静岡を目指す静岡市なら教育行政やスポーツ行政が関わって、重点高校を絞って実践することは不可能ではないと考える。

(3)〈市体操協会の更なる組織の充実〉

市体操協会の各事業実践を通して協会員の増員と結束を強め、組織を充実・強化する。スポーツ振興課事業や体育協会事業への協力を更に進めると共に、県体操協会との連係を深め、全国レベルの大会開催等の協力の要請をいつでもできる様にすすめる。

(4)〈未来を見据えて発展する静岡市体操協会を目指す〉

① 全国大会・国際大会を開催できる施設の充実

静岡市立の体育館、高等学校、大学、企業等の各体育館における体操競技の用具や備品の充実。

② インクルーシブスポーツへの推進

障害児童・生徒が体操競技を希望した場合の体操協会としての対応は未定であるが、体操協会内の各団体とも相談しながら、対応できるかどうかも含めて、いずれは備えなければならない課題である。

静岡市パワーリフティング協会

1　団体の紹介

パワーリフティングは、欧米では昭和31年アメリカで実施された全米パワーリフティングコンテスト大会が最初といわれております。

国内では昭和40年に実施された関東学生パワーコンテストが最初です。

体力トレーニング、特に筋力トレーニング方法が進化し、重量挙手競技が生まれ、ウエイトトレーニングのＢＩＧ３．基本種目(ベンチプレス、スクワット、デッドリフト)を競技化したものが、現在のパワーリフティング競技となります。

静岡市では、駿河区八幡に昭和30年代後半から昭和60年代まで、兼岩元城氏が自宅道場を無料開放されていたことが、パワーリフティングのみならずウエイトリフティング、ボディビルなどの選手、指導者を数多く輩出できた一因で、当協会役員の多くは兼岩道場の所属です。又氏が主導していたバーベル協会が基礎となります。

2　20年間の歩み

静岡市の体育館での市民の体力向上の為のトレーニング教室を４か所で開催しております。

３種目の試技で行う市民大会を年間一回以上開催し、単一種目、ベンチプレス大会は、市内の協会関係者、又愛好者の間で随時開催されております。

現在2018国体福井大会予選会に協会所属出場予定者は、男子４名(三ツ谷、一色、増田、山田)、女子２名(木野、木野)合計６名です。

3　現状の課題

現在、公営、私営のスポーツ施設の普及で、フリートレーニングでバーベルを使用される機会が増え、又パラリンピック種目、国体種目となり、競技に興味を持たれる方か増加されております。ただし、公式競技での３種目をルールに沿って、指導、判定可能な方が、少なく今後、指導員、審判員の育成が課題かと、思われます。

4　今後の展望

パワーリフティング大会は、男子11階級、女子10階級、又学生選手権大会などがありますが、三種目の大会、単一種目での大会は、近年女子の方の参加が見受けられますので、老若問わず選手増加を期待しております。

大学の日本学生選手権大会も以前から活発ですが日本高校選手権大会も開催され、県単位での開催も、数多くされるようになりました。市内でも学生の選手増加を期待しております。



ベンチプレス

静岡ラジオ体操連盟

1　はじめに

ラジオ体操は原則として毎朝、午前６時 30 分のラジオ体操放送に合わせ市内各所で行われています。

白に黒線が施された帽子をかぶった指導員のもと男・女・年齢に関係なく全員が「正しく、美しい」動きをした人達で行われています。（会場により集合時間・開始時間は異なります。）

静岡市スポーツ振興課が発行した資料を参考に、静岡市地図に 74 会場の位置をプロットしたところ面白いことが見えてきました。それを下記にすると

①　昭和 40 年代～平成の一桁台　40 会場のうち 70％は葵区に点在。

②　平成の 10 年、20 年代　30 会場のうち 90％は駿河区に点在。

③　地図上では駿河区の南西部に会場のプロットがおおく見られます。

①は、ラジオ体操の誕生から安定期の期間と推測されます。

②は、静岡市を俯瞰したところ、これでは良くないと考え、駿河区方面に新会場の設置に力を注いだ人が居て協力に推進したと思われます

2　20 年間の歩み

当連盟は平成 25 年に 50 周年の冊子を発行しています。この冊子のデータを抽出しますと

・平成 10～19 年　新設会場 13 ヶ所、新会員 442 名

・平成 20～29 年　新設会場 17 ヶ所、新会員 643 名

・昭和 40 年（1965 年）～平成 29 年（2017 年）の 52 年間の会場数 74 会場、会員数 2,287 名

この 19 年間に 30 会場、1,000 名強の会員が力を与えてくれました。

3　現状の課題

静岡ラジオ体操連盟規約の一部「事業活動」を抜粋しますと、事業活動は次の５項目と記しています。(1)ラジオ体操の普及　(2)指導者の育成　(3)実施団体の育成　(4)表彰　(5)会員相互の連携と親睦です。

具体的な行動はテーマごとに夫々記すと下記のようになります。

(1)　ラジオ体操の普及とは会員の拡大と会場の増加を目指しましょう。

イ　歴史ある会場は人の入れ替えが少なく高齢化対策とその解消活動をしましょう。

ロ　新設会場は自己健康度向上に熱心な人達と年若いのでアタックのこと。

ハ　地元指導者育成が計画的に行われることが新設会場の増加の前提条件と意識しよう。

(2)　指導者の育成とは「正しく、美しい体操」が出来る「A級」の育成が求められる。

イ　毎日のラジオ体操が健康づくりの基本ですと信念を持つ人と時間を共有したい。

ロ　指導者は「正しく、美しい体操」と会員に安心感を与える術を身につけているとなお良い。

ハ　指導者の定期的な研修を行い会場間のレベル差異を生まないよう幹部指導が求められる。

(3)　実施団体の育成とは整った規律で固められた集団でなくお互い自立ある団体を言う。

イ　自立あるとは難しいことであるが、社会人としての常識的な考え、行動、コミュニケーションを普段行っている、または出来る人と理解したい。

ロ　各会場にはその会場にあった文化が芽生え、お正月・一杯会・小旅行を行い、会員同士の絆を更に強くしたい行為が行われている。大いに会場長が推進の旗を振って欲しい。

ハ　年に１～２回程度ある連盟行事に参加し団体としての絆発展に協力願いたい。

(4)　表彰はラジオ体操参加実績の証であるとともに健康であるＰＲと捕らえる。

(5)　会員相互の連携と親睦とは、ラジオ体操人間としてお互いを尊敬のマナコで見詰め合い、人間ふれあいチャンスとして参加する。

4　今後の展望

ラジオ体操会員として登録され 50 年以上在籍している方が居られます。このように集団の人間関係が良好であると多くの会場は固定的な人間集団になり易い傾向が生まれますが、幸いにも各会場長のマネージメント力が高いので、新たな参加人が１人、２人と時の経過とともにあり硬直せず一日の始まりとしてのラジオ体操は参加者の目覚ましとなっていること、そしてお互いの元気な姿が自分へのエネルギーとして貰える、そんな 74 会場の集団ではないかと思っています。

平成 20 年から今年の８月 31 日までの９年間で 17 会場、会員が 640 名強増加したことは、静岡ラジオ体操連盟幹部が皆の知らない時期に活動していた証左そのものであると考えます。

このように大切な各会場を確実に維持する部隊と、更なる会場と会員拡大を目指したラジオ体操普及部隊活動の組合せによりラジオ体操静岡連盟は発展をしてきましたが、これを改めて見ますとラジオ体操が誕生した昭和３年 11 月にそのヒントが隠されているのではないかと思います。

当時、ラジオ体操の目的は、健康状態を改善する手段として普及させ、①健康を取り戻す、②寿命を伸ばす、③幸福な生活を営みが出来るようにするとの思想が根底にあったものと思われます。

静岡ラジオ体操連盟はこれを現代に置き換え、①健康地域の拡大、②体操を絆とした何かあったときの会員の結束力ＵＰ、③そしてこれらの結果として静岡市の医療費削減に貢献できるのではないかと考えます。

静岡市民の健康維持と向上、会場に見られる明るい会話と笑顔、明日も今日のメンバーに会える楽しみの人の輪を今日より少しでも大きくする努力が結果として医療費の削減と結び付けられたら市民への素晴らしいプレゼントではないかと考え、これからも活動していきます。





静岡市空手道連盟

空手道は今や世界の武道として、広く愛好されております。静岡市空手道連盟は各会派道場、各体育館等に於いて空手道を指導・教授し、青少年・成人男女の体位・気力向上の育成に努めております。

2020 年に東京オリンピックが開催され、空手道競技が実施競技に決定しました。
空手道は武道として精神面でも体力面でも、青少年は勿論、成人においても自己向上に多大な成果が有ると考えております。

空手道は競技空手の一面もありオリンピックは勿論、各試合において形競技・組手競技が行われます。空手は本来、武器を使うことなく全身を駆使し受け・突き・蹴り等により攻撃相手から身を護る事が目的の為「空手に先手なし」とされていましたが、競技空手により突き・蹴りのスピードと正確な位置への攻撃が求められています。この際「寸止め」という目標の手間にコントロールすることが求められます。又形試合では常に相手を意識し、挙動の意味を理解し、極め・力の強弱・バランス等により演武し、勝敗を競い合います。

また、一会派である NPO 法人日本空手松涛連盟は、障害を持つ方達のための健康増進、仲間作り、社会的自立の手助けを目的に車椅子空手教室を開き、多くの方の参加をお待ちしております。

1　沿　革

(1)　昭和 30 年（社）日本空手協会静岡支部として静岡市緑町春風館に県内唯一の空手道場として発足。多数の指導者が育成された。
(2)　昭和 41 年 4 月静岡市体育協会に加盟
(3)　昭和 42 年静岡総支部道場として末広町に松空館道場開
(4)　昭和 46 年静岡市民体育館建設と同時に空手教室を開講。当初は高校・一般社会人を中心とした練習であったが、指導員の育成も順調に進み体育館の増設に対応し、小・中・高・一般男女に拡大普及した。更に和道会、拳正会、剛柔会、良武会、養正館等の新しい会派の参加によって空手人口は拡大、各種大会に於いて全国上位のレベルに成長国体選手も多数養成され好成績を収めるまでに発展した。

2　指導目的（道場訓）

空手は礼に始まって礼に終わる礼儀を重んずる武道である。空手に先手なし、決して自分から攻撃は行わない血気の勇を戒めているのである。空手を学ぶ終局の目的は人格を作ることである。人の行うべき倫理を守り、決して曲がったことをしない厳しい鍛錬に耐え、常に努力を続け、健全なる精神と強靭な体力を養うことにより、人格の完成に努力することを教えている。

〔道場訓〕　(1)　人格完成に努むること　　(2)　誠の道を守ること
(3)　努力の精神を養うこと　　(4)　礼儀を重んずること
(5)　血気の勇を戒むること

常に唱和し、心に銘記するのである。

3　活　動

(1)　空手教室の開講、中央、長田、南部、東部、北部体育館に於いて実施。少年一般社会人男女対象指導。

(2)　空手道を通し市体育行政に協力参画

(3)　静岡市民空手道大会の実施（現在葵・駿河区大会・清水区大会の２大会）

(4)　空手教室を通して青少年の心・技・体の育成。社会に役立つ健全な青少年の育成に努力

4　静岡市空手道連盟の組織（所属団体）

(1)　松涛連盟　(2)　和道会　(3)　剛柔会　(4)　拳正会　(5)　良武会　(6)　日本空手協会

各団体より理事を選出運営に当たっている。



結成当初メンバー



結成当初　松永先生・中山先生



第９回市民大会



第 13 回市民大会

静岡市バドミントン協会

1　団体紹介、20 年の歩み

静岡市バドミントン協会は昭和 42 年４月１日初代会長、佐野嘉吉（故人）及び渡辺剛（故人）関根英夫、清水通明、疋田宏らのご尽力により設立し、同年三菱体育館、豊田中体育館において第１回市民大会を中学女子（44 名）高校女子（20 名）一般男女（60 名）の試合を行ったのを皮切りに本年まで 51 回を迎えるまでに至っている。（昭和 46 年第５回大会より中央体育館において開催され、静岡、清水、合併以後 15 回大会となる）

中学女子では大里中が個人シングル、ダブルスで全国大会出場や城北高校が全国インターハイ出場など数々の成績を残している。当初に比べ、バドミントン人口は驚くほど増え中学、高校でも男子の部員も多く、試合も男女の大会合わせて年間 10 試合も行うまでになっている。

各体育館（中央、北部、南部、東部、長田）で行われている教室も初心者（初めての人）初級者（基本ストローク）中級者（基本ストローク上達）上級者（全てのストローク、フットワークの応用）と４つに分かれての練習の為人気があり申込み日には満員になる教室も有る位で「市民一人１スポーツ」を合言葉に中学生～70 才代までの幅広い年代の人々が気持ち良い汗を流している。

教室生大会（70 組位参加）もクラスに分かれて行われ（上級者、中級、初級、初心者）、シニア層の増加に伴いシニア大会も年２回開催され、社会人大会（年４回）と共に楽しみにされている。

教室を行った結果、底辺拡大に大きな成果を上げ、教室だけでは物足りない人々がクラブを作り、地域のクラブの数も 20 余りとなっている。

2　現状の課題と今後の展望

現在市民大会として中学～社会人（シニア含む）まで年間 17 試合静岡市で行っていて（男女シングルス、男女ダブルス、混合ダブルス、）バドミントン人口（教室生を含む）としては県内では屈指の人口となると思われるが、実力は県大会では今一歩及ばないのが現状なので中学生、高校生、社会人、共に強化が課題であり、全国レベルを考えると中学生から始めるのではなく小学生からバドミントンに親しんで行く環境作りにも協会として取り組む必要があり、シニア層の健康バドミントンも合わせて今後のバドミントン発展のカギとなるのではないかと思われる。

静岡市バドミントン協会役員

顧　　問	関根英夫、佐野順二
会　　長	渡辺真一
副 会 長	斉藤義弘、天野富雄
理 事 長	日下部敏弘
副理事長	縣勝弘、大石修司、木田成昭
事務局長	滝田公一、日下部和子
監　　事	松浦義和、川島充子
常任理事	５名
理　　事	１４名

※清水区・中学・高校・一般・シニア等、各大会担当者を決めて運営している



各校応援旗の元　試合をする男子中学生



教室練習風景



H29 年度理事会

静岡市アーチェリー協会

1　団体紹介

静岡市アーチェリー協会は、旧静岡市と旧清水市の合併に伴い平成 17 年に旧清水市アーチェリー協会との合併が成立し、『静岡市アーチェリー協会』の名称を継承し新たにスタートしました。

平成 22 年に、形式的合併に留まっていた組織を編成し、それぞれの団体の持つ特色を活かす形での支部制の導入を経て平成 27 年に組織の一元化が実現し現在に至っています。昭和 44 年の設立以来、石川一英氏から矢部静夫氏へと会長職が引き継がれ、平成 28 年度から合併以降名誉職に就いていた前沢侑氏に会長職が引き継がれ、葵区諏訪のアーチェリー場（協会専用）を本拠として日々アーチェリーを楽しむ一方で市営清水総合運動場での大会運営やアーチェリー教室を運営し普及活動も行っています。

静岡市アーチェリー協会（現）は静岡市アーチェリー協会（旧静岡市）と清水市アーチェリー協会（旧清水市）の二つの団体でそれぞれの特色をもって活動をしてきました。前沢侑氏を会長とする(旧)清水市アーチェリー協会にあっては特にジュニア選手の育成に力を注ぎ、全国キャデット（中学生以下）大会や高校総体（インターハイ）、全国高校選抜大会での優勝選手を育て、そして、数多くの選手を世界のフィールド（ジュニア世界選手権等）へ送り出し、日々努力を重ね栄光を勝ち取ったジュニア選手たちを日常から支え、競技志向の団体としての実績を重ねてきました。一方、矢部静夫氏を会長とする(旧)静岡市アーチェリー協会は、子供から大人まで幅広い年齢層で構成され、安全ルールの範囲内で、実に様々な志向でアーチェリーを楽しんでいます。

2　射場獲得に奔走する日々

そして　設立当時は、浅間神社の境内を間借りするかたちで射場（練習場）を得ていましたが、その後西ヶ谷総合運動場、南沼上へと拠点を移しましたが、平成 12 年１月に南沼上の射場からの撤退要請を受けるに至り、また、射場獲得に奔走する日々が始まりました。そして、同年５月に常葉学園の理解と協力を得て、常葉学園諏訪グランドの一部を借りることができ、荒地を何か月もかけて整備して射場を作りました。当時整備にあたってくれた会員の奉仕の結果、現在の静岡市アーチェリー協会・諏訪アーチェリー場があります。また、夜間及びインドアの練習会場として平成元年より使用させていただいていた、城北体育館も平成 21 年をもって契約が打ち切りとなり、20 年間続いた体育館でのアーチェリー教室の開催やインドア競技の練習は、これをもってできなくなり、普及活動にはとても不利な状況となりました。アーチェリーに対する理解、支援を得ることはなかなか難しく、静岡市アーチェリー協会の活動歩みの大半は射場の確保と整備に費やされてきました。

3　教室の企画・大会の主催・イベント参加

アーチェリーは、競技人口が少なくマイナーなスポーツであることは否定できない事実です。市民の多くは静岡市内でアーチェリーができることも知らない人が多いようで、まずはアーチェリーというスポーツを体験してもらうため、年間３回から４回の初心者教室を企画・実施してきました。特に毎年夏休みには、特別企画として静岡市体育協会様の支援をいただき、小・中学生を対象とした『ジュニア・アーチェリー教室』を開催し、ジュニア層の拡大を果たし、そこから全国大会・世界大会で活躍する選手が育てることができました。また、平成 27 年には初めての企画として親子（家族）で参加する『親子アーチェリー教室』を開催しましたが、予想以上の参加者で一応の成功をおさめることができました。

平成 28 年からは、５月５日に清水総合運動場で開催される『ふれあいスポーツＤＡＹ』のお手伝いに参加させていただき、多くの幅広い年齢層の方々にアーチェリーを体験してもらうことができてとても感謝しており、今後この企画が継続されることを期待しております。近年で、他団体の企画イベントに参加させていただいた代表的なものはやはり、平成 22 年８月に富士宮市の朝霧高原で開催された『ボーイスカウト第 15 回日本ジャンボリー』のアーチェリープログラムに参加させていただいたことです。アーチェリープログラムは三日間でしたが 1,000 人を超える体験参加者がありこちらも大変有意義な体験をさせていただきました。静岡市アーチェリー協会は、アーチェリーが大好きな人の集まりで、会員向けの記録会も毎月欠かさず実施しており、協会主催のオープン記録会は平成 30 年２月の記録会で第 460 回を数えるに至り、静岡市及び（公財）静岡市体育協会が主催する『静岡市民アーチェリー大会』も合併以後、平成 29 年 11 月の大会で第 15 回を迎えました。また、静岡県アーチェリー協会の支部団体にあっては唯一全日本アーチェリー連盟の公認試合である『清水インドアアーチェリー大会』（清水総合運動場体育館）も平成 29 年 12 月の大会では第 13 回、前身の前沢杯（現前沢会長）から数えると実に 23 回の開催を実施し、県内はもちろん県外からの参加申し込みがあり、毎回定員を上回る参加者で会場が賑わいました。

4　会員減少と射場環境

現状我々は二つの大きな問題を抱えています。一つ目は、会員の減少で、最多で 100 名近い会員数がありましたが、昨年度の会員登録者数は 60 名程度まで減ってしまいました。特に未来を担うべきジュニア層の減少が目立ちます。要因として考えられるのは、指導者不足で、平成 27 年度をもってＳＪＡＣ（ジュニアクラブ）を一時休止したため、ジュニア会員の受け入れが事実上困難な状況にあることなので、ジュニア層を指導できる人材の育成と、ジュニアクラブの復活を急ぎたいところです。二つ目は射場問題です。平成 12 年に現在の諏訪アーチェリー場に活動拠点を移しましたが、麻機遊水池にあるため大雨、台風の度に１．５ｍを超える浸水に遭い大きな被害を受けており、また、電気（照明）、水道、トイレ等の設備ができないため、治安の問題や女性に不向きといった問題を抱えており前会長（矢部）も手掛けていましたが、なかなか解決できない問題として残されたままの状態です。

5　設立 50 周年にむけて

2020 年東京オリンピックのアーチェリー競技において日本の選手団の活躍でアーチェリーへの関心が高まることを期待しています。静岡県の選手レベルは全国でも高い位置にあり、ジュニア層においては全国トップクラスにあります。東京オリンピックにおいても静岡市出身の選手が代表となってくれることを更に期待しております。静岡市アーチェリー協会は、2019 年（平成 31 年）に設立 50 周年を迎えることとなります。昭和 44 年に片手にも満たない有志により設立され人材も資金も乏しいなか幾多の困難と向かい合いながら、アーチェリー競技及び普及活動を継続して協会を育ててきてくれた先輩がたに感謝したいと思います。設立 50 周年に向けて、記念大会を開催するための企画をしていきたいと考えております。（公財）静岡市体育協会様には、今後とも多大なご支援を賜ればと期待しております。



平成 21 年８月
ジュニアアーチェリー教室
（葵区　城北体育館）



平成 22 年８月
ジュニアアーチェリー教室
（諏訪アーチェリー場）



平成 23 年 11 月
静岡市民アーチェリー大会
（清水総合運動場
陸上競技場）



平成 28 年 11 月
静岡市民アーチェリー大会
（清水総合運動場
アーチェリー場）

静岡市馬術連盟

1　団体紹介

市馬連の主な活動拠点となっている静岡乗馬クラブは 1965 年（S40 年）に藁科の羽鳥に設立し 1973 年（S48 年）に現在の与左衛門新田に市内の愛好家の人達が集まり 1970 年（S45 年）市馬連への加入に至りました。2002 年には農地区画整理や砂･砂利採取等に伴い移転をせまられましたが、地主さんの理解もあり規模を縮小して現在の地での存続が可能となりました。

30 年ほど前には河川敷で、中部９県が集まる大会を開催するなど活動盛んな時代を経て、今なお、国体選手や全日本選手を輩出し続けています。もちろん、健康スポーツとしての乗馬を楽しむ観点から乗馬スクールを開催するなど、普及活動も併せて実施しています。



2　20 年の歩み

主な戦績及び活動

1984 年 東日本大障害飛越ザ・キング浅川信正*優勝

2010 年 ケンタッキー・パラ馬術世界選手権ユニコ号浅川信正*出場

2012 年 ロンドン・パラリンピック馬術大会ロザード号浅川信正*出場

2012 年 全国指導者馬場馬術大会サム号浅川牧子*優勝

2015 年 全日本馬場馬術選手権Ｌユニコ号進藤千聖*優勝

2016 年 岩手国体少年馬場馬術ユニコ号進藤千聖*３位

2010 年～2017 年 ポニー教室によるふれあい活動

2010 年～2017 年 乗馬教室の開催



2012 年ロンドン・パラリンピック



若手のホープ進藤千聖選手

3　現状

選手は国体や全日本を目標として、毎年東海ブロックに静岡県の代表として参戦し活躍していますが、パラリンピックの実績のあることから、パラ馬術を目指す人達も最近では増加しています。静岡で育った選手が 2016 年全日本パラ馬術選手権では総合優勝をするなど、徐々に国内での実績を上げています。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての技みがきや環境作りに邁進している監督や選手も応援しながら、ジュニアの育成や健康スポーツとしての普及活動に力を注いでいます。

4　今後の展望

2020 年にむけては、選手育成のため大会や講習会への参加を促したり、理解ある協力者との積極的なコンタクトをとりつつも、こうした活動の中からスポーツとしての馬術、健康運動としての乗馬を周知して、スポーツの醍醐味を一人でも多くの人に伝えてゆきたいと願い考える静岡市馬術連盟です。

静岡市合気道連盟

1　はじめに（団体紹介）

静岡市合気道連盟は昭和 46 年に体育協会に加盟させて頂き、
平成 29 年で 46 年を迎えます。

連盟の合気道は体捌きで相手を投げる体術をはじめ、剣（木刀）、杖、抜刀も修錬する総合武道です。相手と共に体力・技術・精神力の向上を目指しています。教室生は男女問わず中高生から 90 歳に近い方々まで鍛錬されており、入り易く且つ奥の深い武道としての合気道を提供しています。

また稽古だけでなく教室受講生との BBQ や新年会なども開催し親睦を深めております。



2017 年浅間神社奉納演武より

2　20 年間の歩み

発足より 45 年以上が経過し一般の教室受講生と共に合気道を研究、修錬し続けています。
設立当初は 1 教室から始まり、現在は月曜日を除き火曜（長田）、水曜（中央）、木曜（南部）、金曜（東部）、日曜（中央）の夜間教室と昼間の土曜（北部）の計 6 教室を開催しており、複数曜日に参加されている熱心な方もいらっしゃいます。



教室練習風景

3　現状の課題

主に午後６時半から８時45分の合気道教室では仕事帰り,学校帰り,家事の合間にストレス解消や護身術等を目的に来られています。力を入れずに日本の武道、合気道を楽しく簡単に楽しめることを前面に出し、学生や外国の方などがいつでも見学でき体験学習や師範による模範演武が見られる環境を作る事。ネット、情報広告等いろいろなメディアに情報を発信し老若男女の方が簡単に合気道に興味を持ってもらえるよう行動する事。

またケガをしない､させない様な指導が出来る事が教室生の安定、増加になるのではないかと思っています。

4　今後の展望他

″入り易く且つ奥の深い武道である合気道″を静岡の地から発信して行く事を今後も目指したく思っています。



2017年昇級/昇段審査より



2017年夏ＢＢＱの一コマ

静岡市少林寺拳法協会

1　20年間のあゆみ

平成29年（2017年）に創始70周年を迎えた少林寺拳法は、護身術である技の修練を通じて、自信と勇気と行動力、慈悲心と正義感を養い、心身ともに健全で頼りになる自己をつくり（自己確立）、自分だけでなく他人の幸せも考えて行動できる（自他共楽）人を育て、社会の平和と福祉に貢献することを理念として活動している。

静岡市少林寺拳法協会は、平成15年（2003年）の旧静岡市と旧清水市の合併により、両市の体育協会が合併することになり、正式には平成17年（2005年）からとなるが、実質的には平成15年（2003年）から（新）静岡市少林寺拳法協会としての活動が行われてきた。当時は林芳久仁会長、鈴木政行顧問、平井富士雄理事長を中心に、清水総合運動場の事務所の一室を借りて発足した。

現在、林芳久仁会長、小泉実理事長を中心に、体と心の調和（心身一如）を目指す健全なスポーツ、武道として市内の７道院（道場）、３高校少林寺拳法部、１大学少林寺拳法部を活動拠点にして、静岡県少林寺拳法連盟、静岡県高体連少林寺拳法専門部、静岡県武道協議会等の関係諸団体と連絡を密に取り合い、協力体制を構築しながら普及活動に努めている。

平成15年（2003年）の発足以来、小・中学生は全国少年少女武道錬成大会へ、中学生は全国中学生大会へ、高校生は全国インターハイ、全国高校選抜大会へ、そして大学生や社会人は少林寺拳法連盟主催の全国大会に毎年、多くの選手を輩出している。最近では、平成29年（2017年）のアメリカ世界大会で、静岡竜爪道院の酒井梨緒那拳士、櫻川京子拳士が２位に輝いている。

その他にも、市民大会、競技力向上講習会、しずおかスポーツフェスティバル中部地区大会等、積極的に行事、大会を行っている。また、勝ち負けだけでなく精神の向上も目指しているため、少林寺拳法の教えや社会実践をスピーチする弁論発表の部も、全国大会や地区大会においても幅広く行われている。活動は大会のみに留まらず、地域の祭りや公共施設での少年教室、高齢者教室にも積極的に参加をしている。

2　今後の展望

今後の展望としては、武道離れや少子化による競技人口の減少は否めないが、中学校保健体育武道必修化を受けて、静岡県内他市町の中学校において体験授業の実践例が出ているので、静岡市においても実施を推進したり、高齢者や障がい者の方も参加できることをアピールしたりするなどして活動の拠点を増やし、関係者一丸となって普及に努めたい。



合併記念　静岡市少林寺拳法大会



少年教室



全国インターハイ



高齢者教室



しずおかスポーツフェスティバル
中部地区大会

静岡市ハンドボール協会

1　団体紹介

静岡市ハンドボール協会は、現在小学生（１チーム）・中学生（５チーム）・高校（13 チーム）・大学（６チーム）・社会人（22 チーム）で構成されております。総協会員としてはおよそ 800 人程になり、それぞれのカテゴリーで全国大会に出場して上位進出を目標とするチームから、楽しくハンドボールをプレーするチームまで幅広い活動を展開しております。ハンドボールは、野球・サッカーなどのメジャースポーツに比べると知名度もいまひとつであると同時になかなか静岡県・静岡市に浸透していない部分もあります。

しかし、ボディコンタクトも激しく、攻守がめまぐるしく変化し観ていても、実際にプレーしてみても非常におもしろいスポーツだと思います。

2　20 年のあゆみ

20 年の歩みとしては、小学生はハンドボール教室・スポーツフェスティバル、中学生はスポーツフェスティバル、高校生は強化練習会、大学生・一般はスポーツフェスティバル・市民大会などの事業を展開してきました。所属チームの育成や強化、各種県大会につながるような補助的な事業が中心ですが、それぞれのチームの目標に沿うような形に変化させてきております。静岡県ハンドボール協会とも協力し、最近は静岡市中央体育館で日本ハンドボールリーグの試合を誘致し、所属員に日本トップレベルの選手のプレーを生で観戦できるような機会を設けております。（本年度は 10 月 21 日（土）に清水総合体育館で行われます。）また、平成 15 年には静岡国体が開催され、静岡市がハンドボール競技のメイン会場になり、多くの所属員が、選手・役員・スタッフ・ボランティアで大会の参加し、国体の成功に大いに貢献することができました。さらには、毎年のように小学生は全国小学生ハンドボール大会、中学生は春の全国中学生ハンドボール大会、高校生は高校総体、一般は全国クラブ選手権大会・中地区大会など静岡県大会を突破し、全国大会へ参加することができております。

3　現状の課題

現状の課題としては、底辺の拡大がまず挙げられます。小学生チームが１チームしかなく、ハンドボールをはじめるのが高校生になってからがほとんどであります。また、本年度をもって市立清水第二中学校の男女のハンドボール部が廃部になってしまい、中学校でハンドボール部があるのが市立東中学の女子部のみになってしまいます。とにかく、競技人口を増やしていくことが急務であり、そのためにはハンドボールというスポーツに触れる機会の増加やクラブチームなどを創設し、指導者や活動場所の確保などが課題であります。また、小学校や中学校で体育の授業にハンドボールを導入してもらい、ハンドボールというスポーツに興味を持ってもらうことも大切だと考えております。

4　今後の展望

今後の展望については、静岡市のチームが東海・全国大会に駒を進めていけるような強化事業を展開していくことは継続しつつ、ハンドボールというスポーツに興味を持ってもらい、ハンドボールに触れてもらう事業も考えていきたいと思っております。また、40 代～60 代のシニア年代の方々にも活動していただけるような環境を整備し、全日本ハンドボールマスターズ大会に出場できるようにつなげていきたいです。各カテゴリーでそれぞれのチームが、チームの方針・目標を達成していけるような事業を展開しつつ、今後も公益財団法人静岡市体育協会の発展に加盟団体として少しでも貢献していけるように努力していきたいと思っております。



しずおかスポーツフェスティバル（小学生）



夏期強化練習会（高校生）

静岡市ボウリング連盟

1　団体の紹介

ボウリングは子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるスポーツです。皆さんも久しぶりにボウリング場に行ったりすると、つい夢中になり３ゲームも４ゲームも投げてしまったという経験があるのではないでしょうか。静岡市ボウリング連盟はＪＢＣ（公益財団法人全日本ボウリング協会）の会員で構成され、現在市内の４つのボウリング場（神明ボウル、トマトボウル、ボウルアピア静岡店、狐ヶ崎ヤングランドボウル）で毎週１～２回リーグ戦と競技会を行っています。現在 120 名ほどの会員がいますが、小学生から 70 歳を超えるボウラーまで年齢層も幅広く、また、ボウリングの腕前も初心者から全国レベルのボウラーまで様々で、皆和気合い合いとプレーしています。

2　20 年間の歩み

平成 15 年までは、静岡国体へひとりでも多くの選手を参加させるべく、有望選手の強化に努めてきました。その結果、本大会では静岡市出身の選手が静岡県選手団の主力として大活躍し天皇杯・皇后杯獲得の原動力となりました。その後の数年間も選手強化の甲斐あって全国大会で好成績を残す選手を多く輩出しました。

しかし、平成 20 年を過ぎたころから、競技力に若干の陰りが見え始め、全国での成績も今一つといったところでしたが、ここ数年は、小学生・中学生の競技人口が増え、お互いに切磋琢磨し、ジュニア世代からの競技力の向上が見え始めたところです。

3　課題と今後の展望

課題としましては、①会員数の増強、②競技力の向上の２点が挙げられます。

①については、会員数はここ 10 年、110 名から 130 名前後で推移しております。小中学生の会員は徐々に増えておりますが、20 代、30 代の若手選手が少なく、連盟の発展のためには、若年層の会員増強が必要であると考えます。

②については、『20 年間の歩み』の段で述べたとおり、これまで静岡国体の天皇杯・皇后杯獲得時の主力選手を輩出するなど、全国で上位入賞する選手が多数在籍していましたが、ここ数年は、一時期に比べ全国での成績も停滞しています。そのため、中学・高校生や若手選手の競技力の向上は喫緊の課題であると考えます。

今後は、①・②の課題を踏まえ、連盟役員および指導者が一丸となって、ボウリングの醍醐味の周知・啓発をすることで会員増強を図るとともに、特にジュニア選手への指導を徹底することで連盟の競技力の更なる向上を図っていきたいと考えます。

静岡市なぎなた連盟

1　沿革（設立　平成２年７月６日）

平成２年７月、有志 17 人により故松永千鶴先生を指導者として「静岡なぎなた愛好会」を発足し、同年 12 月には「静岡市なぎなた連盟」と改称した。

平成３年、財団法人静岡市体育協会加盟が承認され、平成４年８月より同協会主催のスポーツ教室として、中央体育館と南部体育館においてなぎなた教室を開始することができた。平成９年、静岡市北部体育館が落成し、北部体育館においてもなぎなた教室を開始した。静岡市、清水市の合併に伴い、平成 17 年には清水教室を開校し、計４教室が主な練習場なった。

また、古流の直心影流薙刀術の稽古も行っている。

2　20 年間の歩み

平成４年より市民大会・体育の日大会をほぼ毎年開催し、両大会共通算 25 回となっている。

第 45 回県民スポーツ祭なぎなた競技大会より毎年参加し、第 60 回大会で終了するまでに市対抗の部で合計 13 回優勝という成績を残した。

平成５年より平成 10 年かけて太田裕代選手は、都道府県対抗大会および国体に県代表選手として出場し、平成 11 年、12 年には皇后杯全日本選手権大会にも出場した。平成 11 年より浅間神社廿日会祭奉納演武会で直心影流薙刀術を奉納している。平成 15 年静岡国体は吉田町を会場として開催されたが、その前年より５年間に４件の全国大会が静岡県内で開催され、本連盟会員は競技役員として多数が活躍し、大会開催に貢献した。

ねんりんピック大会においては、平成 17 年、平成 22 年に演技競技の部で優良賞を、平成 23 年には団体試合の部で準優勝を獲得し、平成 26 年には演技競技の部で３位入賞した。平成 15 年より清水入江小学校に「日本文化体験学習」の授業の講師を依頼され、毎年、数人の指導者を派遣している。

また、平成 22 年より清水有度第一小学校のクラブ活動のサポーターとしてなぎなた指導をしている。大会としては静岡県なぎなた選手権、和可子杯大会、中部フェスティバル等に多数参加している。

3　今後の課題

各教室や入江小、有度第一小でなぎなたを体験した小学生が、中学生になっても続けてなぎなたをできる場が少ないことが、大変残念である。中学校の部活でできるのが望ましいが、静岡市にはないのが現状である。

また、指導者の人数が少なく、各指導者の負担を軽減するためにも、指導者の育成が早急に必要であると考えている。



ねんりんピック熊本2011なぎなた交流大会　H23.10.15～17　於 熊本県立総合体育館





静岡市ゴルフ連盟

1　沿革

平成 15 年４月静岡市と清水市の合併に伴い、静岡市ゴルフ連盟と清水市ゴルフ連盟合併の協議をいち早くスタートさせました。毎月の会議を重ねた結果、平成 16 年４月１日から静岡市ゴルフ連盟として会員 75 名で合併にこぎつけることができました。体協加盟団体の中でも一早い合併ができたのもその時の両連盟会長（山崎・加藤氏）のご尽力のお陰だと感謝しております。

2　現在の年間活動

(1)　静岡市民大会アマチュアゴルフ選手権『４人チーム戦』(2018 年度第 12 回７月開催予定)
・50 チーム 200 名エントリー　連盟会員も参加してすべて運営する。
(2)　静岡市民ゴルフ大会（2018 年度第 18 回９月 23 日開催予定）
・200 名のエントリー　連盟会員不参加ですべての運営をする。
(3)　年間７回の研修会開催（都市対抗戦選手選考会）
・近年他県での研修会を実施している。
(4)　中部ゴルフ連盟対抗戦（焼津連盟・藤枝連盟・島田連盟・榛南連盟）年間２回開催
・中部地区連盟の親睦を兼ねて実施している。
(5)　静岡県都市対抗ゴルフ選手権２チーム参加
・直近８年間の成績は優勝４回・準優勝３回と常に上位の成績を残している。

3　今後の課題

(1)　ゴルフの普及をどのようにしていくか？
(2)　女性会員はたった２名ですので今後は女性会員にも入りやすい連盟にどうしていくか。
(3)　ジュニア世代の、ゴルフとのふれあいを連盟としてどう携わっていくか。



静岡市トランポリン協会

1　団体紹介設立（平成３年４月 17 日）

平成３年佐野康輔氏(静岡県議会員)を会長として協会を設立。当時静岡市では、スポーツとしてのトランポリンはあまり知られていなかった。設立後、年齢や男女を問わず、楽しく全身を使って跳ぶことができるレクリエーショントランポリンの普及活動を進めてきた。平成３・４年には、松坂屋の屋上へ器具を運び、イベント「トランポリンに挑戦しよう」や、現在の長田体育館教室の先がけである初心者教室を中央体育館で開催した。さらに、平成５年より県民スポーツ祭・静岡県トランポリン競技選手権大会を中央体育館で開催し、同年と翌年には静岡まつり協賛パレード参加・長田児童館教室・東部体育館教室を開き、多くの方にトランポリンを知ってもらうことができた。

2　20 年の歩み

平成 11 年、財団法人静岡市体育協会に加盟。同年には静岡市体育の日第１回トランポリンシャトル大会を静岡精華中・高等学校(現静岡大成中・高等学校)で開催。さらに指導者講習会・選手強化講習会も行う。平成 16 年には、第 41 回全日本選手権大会を中央体育館で開催した。全日本ジュニア選手権大会・全国高等学校選手権大会・全日本選手権大会では活躍できる選手が育ち、平成 14 年世界に羽ばたく選手を出すことができた。

平成 14 年　2002 インターナショナルチャレンジ大会(オーストラリア)
平成 23 年　第 20 回世界年齢別選手権大会(イギリス)
平成 24 年　ニッセンカップ(スイス)
平成 26 年　第 23 回世界年齢別選手権大会(アメリカ)
平成 28 年　2016 環太平洋選手権大会(アメリカ)
　　2016 インドパシフィック選手権大会(ニュージーランド)

特に海野大透選手の活躍は目覚ましく、第 23 回世界年齢別選手権大会・2016 インドパシフィック選手権大会では個人・シンクロナイズド優勝、2016 環太平洋選手権大会では、個人・団体２位の成績を収めた。

3　現状と今後について

現在、長田体育館教室は毎回募集定員を上回る入室希望者が多く抽選を行うほどである。長田児童館も年数回ではあるが継続して活動している。また、バッジテストも毎年多くの受験者がいる。静岡市民大会は難易度・演技点で評価する競技大会へと内容が変わっている。ただトランポリンの台数と設備の不足で大会を開催するのには大変な労力を必要としている。今後も普及活動を行うとともに、国体や世界を目指す選手のさらなる強化育成を図る必要を感じている。

1993年４月４日
静岡まつり
協賛パレード



2001年１月14日
選手強化講習会
講師：日本体育大学
伊藤直樹氏



2017年３月５日
第14回静岡市民トランポリン競技大会



静岡市ダンススポーツ連盟

1　20年間の歩み

静岡市ダンススポーツ連盟が発足したのは、平成11年（1999年）です。

静岡県ダンススポーツ連盟（平成元年発足）加盟の静岡市所属14サークルを母体として発足致しました。平成11年４月に設立総会を開催し、初代会長に溝口稔が選出され、直ちに静岡市体育協会に加盟致しました。

そして、静岡市と清水市が合併した事により、静岡市ダンススポーツ連盟も平成17年（2005年）に清水市ダンススポーツ連盟と合併し、新たに静岡市ダンススポーツ連盟として活動を行い、加盟サークルは20を超えました。

その後、平成20年（2008年）に佐藤清蔵が会長となり、平成26年（2014年）に海野美代子が会長となり現在に至っております。

2　主な事業

(1)　競技会開催、(2)　講習会開催、(3)　親睦ダンスパーティーの開催として活動しました。

(1)　ダンススポーツ競技会開催は、第１回を静岡市北部体育館で、上部組織である日本ダンススポーツ連盟の公認競技会として開催、以後現在まで原則毎年１回開催して、平成 29 年３月には第 22 回目となるダンススポーツ競技会を開催して参りました。

また、競技会の中で平成21年からは清水ライオンズクラブの支援を受けてジュニア部門の競技も併催するようになりました。ジュニア部門も平成29年３月大会で９回目となり、清水ライオンズ杯を目指して、子どもたちは頑張り、ジュニア育成の一助となっております。

(2)　講習会は、技術力講習会に日本ダンススポーツ連盟から山田淳氏を招いて講習や、シークエンスダンスの講習と多岐にわたり開催しました。

また、競技力向上には他のスポーツ同様に、低年齢からの育成が大事であるということから、ジュニア育成事業にも目を向けて、平成14年（2002年）には（財）静岡市体育協会支援事業の「競技力向上事業」に応募し、助成を得られることとなり、中央体育館アリーナにおいて小林英夫講師を招いて、第１回「子どもたちのためのダンスうんどう」を開催し、約100人のこどもたちが集まり、12月から翌年３月まで全６回の講習が行われました。

その後この「子どもたちのためのダンスうんどう」講習会は平成23年まで毎年開催し、10回に及ぶ支援を受けました。

その結果、この講習を受けてその後もダンスを続けて、全国に羽ばたき、現在全日本ファイナルに入賞する選手、学連で活躍する選手、中にはアメリカにダンス留学する子どももおります。これも、この事業にご支援いただいた（公財）静岡市体育協会のお陰と、感謝の気持ちでいっぱいです。

全国の子どもダンスうんどう大会で静岡市のチームが続けて優勝したりして、大いに静岡市のアピールとなり、各地のジュニアサークルに刺激を与え、全国のジュニア層育成に寄与したと思っています。

最近は平成 27 年より、親睦交流会 in しずおか（健康ダンス）を開催、ダンスをするということが健康維持に大変役立ち、認知症予防にもなると言われていますので、今後この活動にも、努めて参ります。

(3)　ダンス愛好者の交流を図る親睦パーティーは新春にグランシップ大ホールで開催、毎年多くのダンス愛好者が集まります。第１回は平成 12 年１月に開催し、以後現在も新春にはグランシップにて開催を続けて参り、恒例となりました。

パーティーには多くの方が集まり、毎年約 700 人の参加を見ます。今後も続けて行きたいと考えてます。

第１回「子どもたちのためのダンスうんどう」参加者集合写真　平成 15 年２月



静岡市武術太極拳連盟

静岡市武術太極拳連盟は昭和62年４月に創立して今年は30周年になります。

武術太極拳は中國の古い歴史と伝統文化の中に生まれた優れた健康法でありその動作の全てが武術の攻防の動作から成り立ており中国の貴重な文化遺産であります。

礼に始まり礼に終わる武道として心技体の充実を目的として、現在では健康増進の為の生涯スポーツとして一方では国際競技スポーツとして世界各国で盛んに行われております。

毎年全日本選手権大会を始め、世界選手権大会やジュニアオリンピックカップ等が開催されており、アジア大会の正式種目にも採用されております。

20年を振り返りますと、平成４年に静岡県と中国浙江省が友好提携を結び、その10周年記念に県連盟から60名親善団を派遣し、内20名が当連盟から参加し浙江大学体育館で親善大会が盛大に開催され、当連盟から上位入賞する選手出ております。毎年講習会や交流大会を開催し、又技術の上達の希望者を浙江省体育技術学院や北京大学へ派遣して技術の向上に努めて参りました。その間会員も200名余りに充実し、平成12年には会員一同待望していた市体育協会への加盟が承認され、一同歓喜に湧いたのであります。これも体育協会役員皆様のご厚情の賜と深く感謝するところであります。

平成12年10月に北京体育大学に25名が研修旅行を実施して成果を上げて参りました。

平成15年の第58回国民体育大会(NEW!!わかふじ国体)では武術太極拳はデモンストレーション競技ではありましたが、函南町体育館で２日間 800 人の選手が参加し、盛大に開催され当連盟からも多くの選手が参加出場して好成績を収めました。

平成16年には静岡清水の合併に伴い、静岡清水の両連盟が会議を重ね相方の理解により円満に合併が成立致しました。会員も500名余りとなり各種事業も順調に進み、平成17年２月には記念行事として北京体育大学により陳建雲老師を講師に招き講習会を開き、10 月には北京大学へ研修旅行が企画され 18名が参加し各種目別の学習に成果を修めました。

平成18年７月には浙江省体育局の主催で第４回国際伝統武術大会が杭州市で開催され、20ヶ国の選手が参加し当連盟も出場し、女子７名の団体競技で優勝を果たし一方個人競技でも夫々上位に入賞しております。

平成18年10月には第19回全国健康福祉祭しずおか大会(ねんりんピック静岡2006)が静岡県で開催され、太極拳競技は焼津市体育館が会場となり、全国から57チームが出場して静岡県代表選手が優勝し静岡市代表選手が５位入賞しております。

県民スポーツ祭も 60 回を機に、現在は静岡県を３地域に分けて県民スポーツフェスティバルとなり、今年は11回目となります。中部地域においては当連盟が中心となり、各団体と協力し地域に即応した参加者に喜ばれる大会を企画しております。今後も各種講習会や競技大会に向け一歩一歩前進して会員一丸となり、市体育協会と共にスポーツの振興発展に努力する所存であります。



2016 年度　市連盟講習会にて講師として活動する関元三郎会長年齢(90 歳)を感じさせない指導力です。

静岡バルーンバレーボール協会

登録団体数　　60 団体
登録チーム数　84 チーム数
登録会員　　784 人
設　立　年　　平成８年

1　協会の概要

平成２年に静岡市のＰＴＡ親睦大会にて試験的に取り入れ、平成３年より正式に静岡市ＰＴＡ連絡協議会の親睦大会として確立されました。その後、ＰＴＡを卒業してもプレーしたいとの集まりから、協会の前進となる団体を設立。平成 12 年には静岡県中部ＰＴＡ連絡協議会の親睦大会まで発展しました。平成 13 年度より静岡市体育協会に 40 番目の団体として加盟しました。

(1)　目的

本会はバルーンバレーボール競技の振興を図るとともに、会員の体位向上・親睦とスポーツ精神を養うことを目的とします。

(2)　協会理念

バルーンバレーボールを通じて人の和を作っていく。

(3)　行動理念

①　バルーンバレーボールの競技人口を増やす為にあらゆることにチャレンジする。
②　バルーンバレーボールを楽しく競技出来るよう常に改革する精神を持つ。
③　競技精神を遵守し、高い倫理観を持って、公明正大な審判を行う。
④　広報活動を充実させ、広く活動内容を公開していく。
⑤　良き地域市民として奉仕の精神を深く認識し、豊かな地域社会の実現に貢献する。
⑥　一人ひとりの「能力・意欲・創意」の発揮と尊重により、「活力溢れる組織」を実現する。

(4)　私たちの行動基準

①　私たちは、常に信頼される「地域社会」の一員として、自ら考え行動します。
②　私たちは、ともに競技する仲間を大切にします。
③役員は、先頭に立って自ら行動します。



(5)　役員の変遷

平成８年４月～平成 12 年３月
会　長　　小俣　春好

平成 12 年４月～平成 18 年３月
会　長　　山本　堅二

平成 18 年４月～平成 22 年３月
理事長　　山本　堅二
会　長　　青山　繁男

平成 22 年４月～平成 28 年３月
理事長・会長　　山本　堅二

平成 28 年４月～現在
理事長　　山本　堅二
会　長　　大場　久仁夫





２　バルーンバレーボールのルール

バルーンバレーボールとは、ビーチボールを使い室内でバレーボールをするスポーツで、男女混合６人（男２人以下女４人）で行います。大まかにバレーボールのルールですが独自のルールがあります。ランクをＡ～Ｅのステージに分け年に数回行う公式大会でポイントを競います。毎年各ステージの上位チーム、下位チームが入れ替わります。

３　年間行事

(1)　公式大会

Ａステージ大会　　５回
Ｂ～Ｅステージ大会　４回（もしくは５回）
トーナメント大会　　０～１回

(2)　公認大会

エリア大会　　２～４回
（エリアによる）
全チームを８分割したチーム構成で２年に１度再編する。



(3)　総会　１回

毎年５月に行い以下を決定します。

①　活動報告・活動計画
②　決算報告及び予算計画
③　役員・理事の承認
④　規約の改廃
⑤　その他重要事項



(4)　役員会　適時（年７～10 回）

三役と各部代表者の会議

①　各部からの活動報告
②　各行事予定等の打合せ
③　協会・大会運営の改善向上



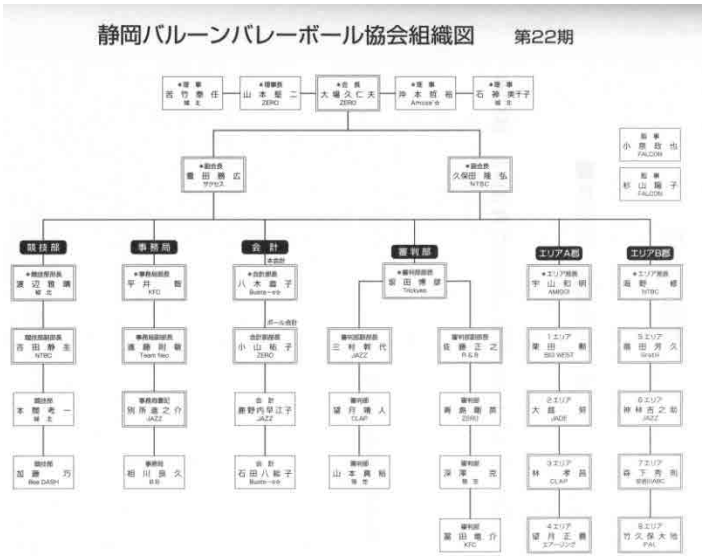
4　現状の課題

過去にはチーム数が 100 を超え、会員も 1000 人を超えていましたがそれをピークに徐々にチーム数と会員数が減少してきました。高齢化により協会での競技が困難になる一方で、若い世代の加入も著しい現状です。

5　今後の展望

バルーンバレーボールの起源は生涯スポーツとしてレクリエーションから始まりました。現在はＳステージと称したシニアステージを試行錯誤しながら行っています。また、毎年、静岡市ＰＴＡ連絡協議会様を通じて「静岡市立小中学校の部バルーンバレーボール大会」を開催しています。バルーンバレーボールの楽しさを知ってもらうとともに、ＰＴＡ会員同士の親睦にも貢献できていると考えています。

今後もバルーンバレーボールの周知といつまでも楽しめる環境づくりをしていきたいです。



静岡市グラウンド・ゴルフ協会

1　団体紹介

グラウンド・ゴルフは文科省（現文部科学省）の生涯スポーツ推進事業の制度を受けて、昭和 57 年に誕生した比較的新しいスポーツです。

ゴルフをアレンジしたスポーツで、プレー方法は、コースに複数のホールを設定し、全ホールを 1 本のクラブでボールを打ち、ボールがホールポスト内に静止するまでの打数を数えるゲームです。

老若男女「誰もが」「いつでも」「どこでも」プレーできるように極めて簡単な内容の 16 条ルールで成り立っています。



平成 21 年　専用グラウンド
松富スポーツ広場完成

静岡市グラウンド・ゴルフ協会の設立は、平成 12 年４月１日です。

35 人で協会を立ち上げ、市内グラウンド・ゴルフ愛好者に協会加入の呼びかけを行った結果、翌平成 13 年には、会員数 219 名と増加、活動の基盤が出来上がり、静岡市体育協会に平成 14 年３月 20 日加盟が決定した。



◇葵区＝グラウンド・ゴルフで熱戦　静岡市グラウンド・ゴルフ協会による「ねんりんピック予選会」が13日、同市葵区の松富スポーツ広場で開催された＝写真＝。葵・駿河区の同協会会員317人が競技に臨んだ。参加者同士で声を掛け合う姿も見られた。好成績を収めた男女計4人は10月に栃木県で開かれる「ねんりんピック栃木2014」に出場する。選ばれた葵区の寺尾たけさん（83）は「賞に入るなんてびっくり」と驚きながらもうれしそうな様子だった。

平成 26 年５月ねんりんピック予選会
新聞掲載

日本グラウンド・ゴルフ協会の普及指導員資格者による、組織の維持、グラウンド・ゴルフの普及、正しいルール及びマナーの指導、プレー技術の向上等の運営のもとで、全協会員の協力により現在 320 名の会員で成り立っています。

＊大会の主催主管運営
市民大会・ねんりんピック予選会・
毎月 250 名～400 名参加の月例大会・オープン大会・協賛の大会
＊全国大会参加　東海４県大会参加・
　静岡県大会参加
全国大会･東海４県大会･静岡県大会では、優勝者及び上位入賞者を数多く出しています。

全国規模で
平成 20 年全国健康福祉祭ねんりんピック鹿児島大会　女性３位入賞
平成 26 年全国健康福祉祭ねんりんピック栃木　全国最高齢者賞　受賞
平成 28 年全国健康福祉祭ねんりんピック長崎大会　　男性　優勝・男性３位入賞
平成 27 年国民体育大会公開競技グラウンド・ゴルフ　静岡県代表　団体優勝

東海４県大会では、
平成 27 年５月・10 月　東海４県大会　男性優勝　　女性３位
他 10 位内入賞者多数の成績をおさめています。

平成 22 年４月　　静岡市グラウンド・ゴルフ協会　10 周年記念誌発行

尚、当協会では、グラウンド・ゴルフのプレーだけではなく、
様々なテーマを設けて、日本グラウンド・ゴルフ協会１級、２級、３級の普及指導員
50 名～70 名を対象にした研修会を年間数回実施しています。
救命救急講習会・認知症サポーター講座・高齢者交通講座　等



平成 26 年　救命救急講習会



平成 29 年　交通講座

2　現状の課題

グラウンド・ゴルフがスポーツとして、どの層にも認められているかが課題であり、グラウンド・ゴルフは高齢者のスポーツとしてのイメージが強くあり、高齢化により会員数の減少傾向がみられる現状があります。

3　今後

公益財団法人静岡市体育協会様からのご指導を賜りながら、グラウンド・ゴルフを魅力あるスポーツとして幅広い年齢層に受け止められ、多くの人々に、このスポーツが広がって行くよう考慮して、協会活動を進めて行きたいとおもいます。

静岡市フロアボール協会

1　団体紹介＆競技

フロアボールとは、スウェーデン発祥の室内で行うホッケーです。体育館で室内シューズを履き、プラスチック製のスティックを使い得点を競います。ボールは直径 10cm 程度の球ですが、安全性を考慮して中身が空洞で複数の穴が空いています。

静岡市内には、29 チーム登録され、老若男女 300 人強の方が、小学校や中学校の体育館で、日々プレイしています。

年間通じて行うリーグ戦は、前年度成績順位によりＡＢＣの３クラスに分け勝敗を競います。年間成績により上位３チームが上のクラスへ昇格、下位３チームが下のクラスへ降格し、翌年度のリーグ戦を争います。

また、市民大会を始めとした全チームで争う１ｄａｙ大会を小学生大会、シニア大会、葵区・駿河区大会等行っており、リーグ戦では顔を会わせないチーム同士がしのぎを削ります。

更に、これら協会登録チームとは別枠で、男女 40 歳以上のシニアリーグを平行して行っております。

コート内では、１チーム６名のうち２名以上の女性を含み男女混成でプレイし、『生涯スポーツ』として男女の幅広い年齢層で盛んに行われています。そのため、危険なプレイはルールで規制されています。

2　２０年間の歩み

平成３年に「１人１スポーツ」の基、「静岡市ユニホック協会」として設立。

平成 18 年には 15 周年記念大会を行いました。

その後、オリンピック正式種目を目指し「ユニホック」「フロアボール」「ネオホッケー」の３競技が、統合され平成 24 年「日本フロアボール連盟」が設立され、当協会も傘下組織として、現「静岡市フロアボール協会」へと変更しました。協会、ルールの統合等の難題もありましたが、若手の選手達を中心に熱心な話し合いを何度も行い、現在に至っております。

また、翌年度の平成 25 年には「全国シニアネオホッケー大会」が静岡中央体育館で開催され、東は栃木、福島、西は奈良から、シニアの部 24 チーム、グランドシニアの部７チームが参加し、シニアの部では当協会の「新通シニア」が優勝しました。

3　現状の課題と今後の展望

選手として、小学生からプレイはしているものの、中学校、高校、大学へと進学してしまうと部活動等で、プレイする機会が減少してしまう競技離れが後を絶ちません。その結果、選手層が年々高齢化しております。

新しい選手を招き入れると共に、将来のオリンピックに向けて静岡市出身の選手育成が我々の課題かもしれません。



25 周年記念大会　集合写真



全国シニア大会　優勝



小学生チーム



小学生チーム

静岡市ライフル射撃協会

1　はじめに（団体の紹介）

静岡市ライフル射撃協会は平成２年に当時の清水市在住のライフル射撃愛好家を中心として、清水ライフル射撃協会として設立されました。ライフル射撃はエアライフル（空気銃）と装薬式ライフルに大別されますが、始めはエアライフルしか許可にならず、装薬ライフル競技を行う場合は、県のライフル射撃協会（以下：県ラ）に入会して試合に出場、指定段級の取得による日本体育協会の推薦を受けなければなりません。そのような状況のため、装薬ライフルは考えておらず、県ラに登録の無いエアライフルのみを所持して射撃を楽しむ方は練習のみで、試合が無く（当時、試合は全て県ラ主催のみ）飽きて止めてしまう方もいる事から、クラブとしてエアライフルの試合を主催する親睦団体として立ち上げました。

2　20 年間の歩み

設立の年に役員選出、会則等を整え清水市体育協会のライフル射撃公認団体となりました。当時は会員数も 20 名以上おり、年４回程度エアライフルの試合ローカルルールで主催していました。その後、平成 15 年の静岡国体に向けたライフル射撃場の清水市への誘致のためのロビー活動や、競技の認知度向上のために、県ラより銃刀法に縛られずに誰でも射撃競技が行えるビームライフル（光線銃）を借りて、講習会を毎年公民館で行いました。しかし、心無い者による許可銃を使用した犯罪、狩猟事故の多発等により年々銃刀法が厳しくなり、新規の取得による新規加盟者は無く、更新の厳格化や度々行われる検査の煩わしさに加え、会員の高齢化により銃を手放す方が増えて、会員数は年々減少し大会の開催も低迷、講習会も行われなくなっていきました。

3　現状の課題

射撃は銃を使用するために、始めるには公安委員会の許可を得て、自分の銃を入手しなければなりませんが、先の“歩み”に述べた通り年々銃刀法は厳しくなり、銃を入手するには大変な労力を要します。また、県ラ主催競技参加には銃以外にコート等の備品も多く必要で、これらは大変高価でもあります。このような状況のためにここ 10 年ほど新規加入者は無く、会員も銃を手放し止める方が続いています。銃は射場でしか撃てませんが、現在静岡市から一番近いライフル射場は、藤枝市の「スポーツパル高根の郷」で、遠い上に車しかアクセス方法が有りません。そのため、射撃から足が遠のく一因の様です。そして、残念ながらこの状態を改善する方法は無いと考えています。

4　今後の展望　他

現在、会員数は 10 名を大きく割り込み、試合の開催を含めた行事の開催に支障をきたしています。役員を中心に今後の有り方を検討している段階ですが、将来的に明るい見込みは持てない状況です。



BR 講習会：ビームライフルを使用して一般の方に対する講習会です



ライフル射撃(伏射)：装薬ライフルを使用して 60 発・距離 50mで行います。

ＮＰＯ法人　清水港ヨット協会

1　はじめに

現在のNPO法人 清水港ヨット協会

会長、顧問、参与：会長（理事長が委嘱）衆議院議員　望月義夫

役員：理事長（法人代表）稲森裕

専務理事（本部長、事務局長兼任）須川清助　他理事12名　監事２名　職員１名

会員：正会員143名　一般会員122名　合計265名

総会は正会員をもって構成する。事業年度は１月１日より始まり12月31日に終わる。

組織：①本部（管理部門）

②小型艇部会　個人正会員79名　団体正会員３名 一般会員５名　計87名78隻

③大型艇部会　個人正会員61名　一般会員117名　計178名61隻　所属艇合計　139隻

（平成29年11月18日現在）

事業活動：　①市及びその周辺地域のヨット愛好家の交流、②海事思想普及事業、③セーリング競技及びヨット講習会事業、④海難防止に関する調査研究、⑤青少年育成事業、⑥その他法人の目的を達成するために必要な事業活動。以上を小型艇部会は三保内海の周辺を、大型艇部会は清水港港外を活動基盤として内部及び外部への活動に参加している。なお、清水港内ではセールを挙げて帆走することは海上保安部の許可がない限り禁止されている。艇の保管場所として小型艇には協会が三保の浜地（清水港管理局より借用）に櫛形ラックを作成するなどして提供し、大型艇は各艇が県営係留施設（主として清水ドリームプラザ前のエスポット）を使用している。

直近の特記事項としては小型艇部会では平成29年１月21日･22日に埼玉から和歌山まで35 艇が集結した定例の三保ミッドウインターにおいてシーホッパーSR/レーザーラジアルクラスで地元三保の戸井洋選手が優勝した。

また３月18 日～20日三ケ日青年の家でのYMFSセーリング・チャレンジカップでは当部会の団体会員である清水ヨットスポーツ少年団の内田幸恋選手がOP級でダントツの成績で優勝した。なお、同少年団では小学生から中学生を対象としオプティミストディンギー（OP）を使用してジュニア育成に努めている。



レース風景

大型艇部会では通常年３回の体験乗船会以外に新しい方面からの体験乗船の依頼が増加してきた。クルージング関係では当部会員である静岡市駿河区の立尾征男（76歳）が東回り世界一周・単独・無寄港の航海をエオリア号（30フィートヨット）で成功させ生成29年８月２日小笠原諸島父島の二見港に帰港する快挙をなした（出港もこの港から）。1 年1 カ月、５万５千キロ、最年長航海でありギネスブックに申請することとなった。



体験乗船

2　平成 10 年～平成 30 年の 20 年間の歩み

平成 10 年から平成 14 年５月 26 日までは任意団体清水港ヨット協会の時代であった。

この頃から各団体は社会的信用度を高めるため組織の法人化が求められるようになりヨット協会も平成 10 年４月 NPO 法成立を受けその研究に着手。平成 12 年 3 月総会において NPO 法人格取得を議決。平成 14 年５月 26 日 NPO 法人清水港ヨット協会の創立総会が開催され、同年 8 月 29 日静岡県より認証された。

平成 14 年５月 26 日より現在までの NPO 法人としての歩み

NPO 法人 清水港ヨット協会は会長　原田昇左右　理事長　中井健次、専務理事　原千尋、その他の理事 21 名　監事２名　事務員１名により任意団体時代の業務をそのまま引き継ぎ、現在まで活動に大きな支障もなくおおむね順調に運営されてきている。

なお、この間平成 18 年４月会長は望月義夫、理事長は稲森裕となった。平成 24 年４月１日監督官庁が静岡市へ変更された。平成 27 年４月専務理事は須川清助となった。事務関係としては理事長の就任登記及び総資産の変更登記についての遅滞が１件ずつあった。

3　現状の問題

小型艇部会では三保の保管場所には柵もなく管理に手数がかかる。本年台風 21 号の高潮（水位 141cm）で 10 隻程度波にさらわれ日の出岸壁付近まで流され回収に苦労した。同所の備品庫兼詰所が古く会員の努力で都度補修を繰り返している。



レスキュー艇の船外機が更新の時期にきている。

大型艇部会では会員の漸減及び高齢化が目立つ。

本部としては会費収入が減少気味であるが会費の値上げは難しく、極力経費節減しているため協会スタッフの待遇改善が難しい。

4　今後の展望

小型艇部会はヨットを始めるのに垣根の低いクラスもあり、今後も努力次第で会員の増加は期待でき、技術的にも現在の高水準の維持も可能と思われる。

大型艇部会は会員の高齢化になかなか歯止めがかけられず若返り、会員増加に不安がある。小型艇部会から大型艇部会への乗り換え者には期待する。

静岡市ウエイトリフティング協会

1　はじめに

静岡市ウエイトリフティング協会は、平成 15 年の旧静岡市と旧清水市の合併により、平成 17 年４月より加盟をさせていただき今日に至っている。

2　加盟後の歩み

加盟後は、平岡勇輝氏の活躍が目覚ましく、静岡県立清水工業高等学校(現静岡県立科学技術高等学校)では全国高校総合体育大会・国民体育大会・全国高校選抜大会において３連覇をはじめ、世界選手権・アジア選手権などにも出場し優秀な成績を収めた。

その後、地元静岡市に帰ってからは平成 19 年～25 年まで、財団法人静岡市体育協会(現公益財団法人静岡市体育協会)に在籍し、中でも広報誌「躍動」第 64 号の表紙を飾ったことは記憶に新しい。

平岡勇輝氏は、2020 年の東京オリンピックに向けてトレーニングを続けている。

また、平岡勇輝氏の父である平岡力氏(公益財団法人静岡市体育協会・静岡市消防局)も全日本マスターズウエイトリフティング選手権大会の M55　85 kg級において、平成 26 年～29 年まで４連覇を成し遂げている。

3　現状の課題

現状の問題としては、高校の部活動が静岡県立科学技術高等学校１校のみであり、指導者が少ないことや、県内での切磋琢磨が無くなっていることである。

また、高校卒業後就職等により競技を続ける選手が少ないことも問題点の一つでもある。これからは、小中学生からウエイトリフティング競技に興味をもってもらい選手の発掘も考えていく必要があると考える。

4　今後の展望

今後の展望としては、全国高校総体・国民体育大会において、ベスト８以内の選手を一人でも多く育成していきたいと考える。

公益財団法人静岡市体育協会の選手強化事業も活用していきたいと考えている。


記録
スナッチ
C&ジャーク
トータル
160.0
196.0
353.0
148.0
186.0
327.5
152.0
190.0
341.0
160.0
192.5
347.0
大塚製薬
LAWSON
静岡


R1 R2 R3
190 KG

静岡市レクリエーション協会

1　団体紹介

昭和 26 年２月、清水レクリエーション協会として清水市体育協会に加盟し、フォークダンスを中心に活動し、成人の社会教育団体として民踊を加え、清水を中心に活動してきた。

民踊は各地の盆踊りを指導し、港まつりの総踊りに総まとめてきた。フォークダンスは、世界各国のダンスが多様化しフォークダンスの他、スクエアダンス、ラウンドダンス、レクリエーションダンスなど、幅広く、また、カントリーダンスなどが入ってきており、活動を続けている。また、普及は清水だけではなく、静岡、焼津など、静岡県中東部地区の活動団体が誕生する石枕となっている。

2　この 20 年間の歩み

(1)　フォークダンス（スクエアダンス）
(2)　カントリーダンス
(3)　民踊

3　現場の課題

高齢化により、また、若い人たちの多趣味化（ゲームなど個人的に楽しめる）などにより、新しい風が入りにくくなっているが、学校（小中高）などにも指導を広げている。

4　今後の展望

競技用ではないので、健康づくりと楽しさづくり、年齢は小学生から 90 歳まで楽しむことができ、フォークダンス（世界各地の民踊ダンス）から普及していく。



狐ヶ崎遊園におけるフォークダンス

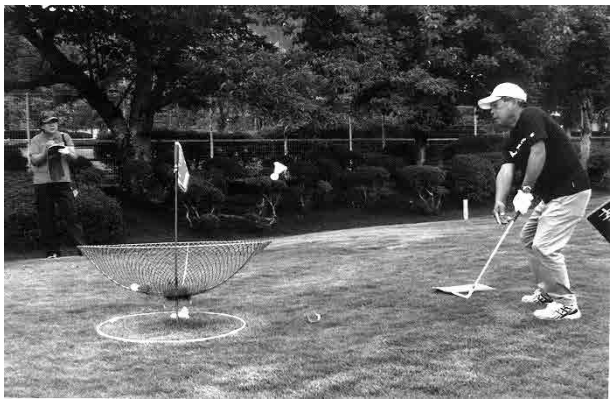


静岡市ターゲット・バードゴルフ協会

1　ターゲットバードゴルフ競技とは

ターゲットバードゴルフは、昭和 44 年に狭い場所でゴルフが楽しめるようにと考案されたスポーツです。特徴は、合成樹脂製のバドミントンの羽根に合成樹脂製のボールを取り付けて、パラソルを逆さにしたような篭の中に入れるスポーツです。





平成 15 年の協会設立以来、年間５～６回の定期大会を開催。その間には静岡市総合体育大会のお昼休みにおいてのデモンストレーションによる PR 活動、また、静岡市葵・駿河区民総合体育大会では西ケ谷ターゲットバードゴルフ上での講習会を開催しています。平成 21 年４月に静岡市体育協会に入会しました。

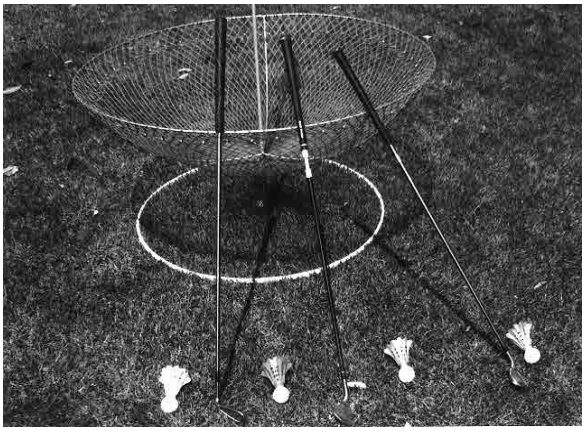
また、ねんりんピック大会への選手参加や静岡市民マラソン(2015 年～静岡マラソン)支援活動などを行っております。

会長は、柳沢春夫氏で、平成 29 年４月現在の会員は 176 名（男性 158 名・女性 18 名）です。

2　現状の課題

何といっても会員の減少と高齢化です。年齢層が高く、60 歳以上が９割を超えています。いかに若い方(40 代～50 代)を増やすかが私たち協会の大きな課題となっており、今後の会合の中で検討していく予定です。





静岡市スポーツチャンバラ協会

平成 17 年に「スポーツ拠点づくり推進事業」として、スポーツチャンバラ競技を旧由比町に誘致するにあたり、由比町スポーツチャンバラ協会を設立し、静岡市との合併を機に静岡市スポーツチャンバラ協会と統合し、現在に至っております。

「スポーツチャンバラ」は知る人ぞ知るスポーツですが、礼に始まり礼に終わる子供から大人まで楽しめる奥の深い競技です。また、由比発祥のスポーツとして、地元の方々に愛されるスポーツであります。

使用する道具としては、顔・頭部を保護する面と基本の得物（武器）である小太刀（60cm)・長剣（100cm)を使用し闘う競技です。

スポーツチャンバラで使用する得物は、安全と公平を確保するために、厳正に検査したエアーソフト剣（公認用具）以外の使用は禁止されています。

ルールについては、相手選手の体のどの部分でも早く打った方が勝ちとなりますが、相打ちは「両者負け」となります。

活動としては、各道場における日々の稽古をはじめ、各地区自治会からの要請による体験会などを実施しており、協会員一丸となって普及活動にも取り組んでおります。

また、推進事業の全国少年少女選手権大会は由比体育館に於いてこれまでに 10 年以上にわたり開催しており、この大会を目指して協会の子供たちは日々の稽古に励んでおります。

わたくしたちの協会も、平成 28 年度に公益財団法人静岡市体育協会に加盟をいたしました。これを機会に、更なる活動範囲の拡充を図るなかで、今まで以上の普及活動を行っていきたいと考えております。



小太刀の試合



道具：左から面・小太刀・長剣



静岡市中学校体育連盟

静岡市中学校体育連盟は、昭和28年４月、中学校体育の健全な発達を目的として正式に発足した。また、体育協会への加盟は昭和 46 年である。

野球、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、サッカー、柔道、剣道、陸上競技、駅伝、バドミントン、体操、新体操、水泳の種目で、市内の中学校が競い合い、それを支える組織として発展してきている。近年の全国大会では、常葉大学附属常葉中学校の新体操や、東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部の柔道などで活躍が目立っている。

中学校のスポーツは学校での部活動を中心として行われている。各部活動では、生徒の競技レベルの向上はもちろんのこと、生涯にわたってスポーツに親しむ人間づくりに努めている。また、生徒の人間形成にも大きな役割を担っていて、教師や友人、保護者などとのかかわり合いをとおして、子どもたちの人間性の向上にも努めている。

平成 29 年度、教育委員会より、生徒にとって部活動をより一層有意義な時間にするための指針として、部活動ガイドライン（案）が発表され、活動時間や、指導者などについてのポイントが示された。今後の部活動の在り方について、中体連としても検討していく。



静岡市中学校総合体育大会　バレーボールの部



静岡市中学校総合体育大会　野球の部

静岡市スポーツ少年団

1　団体紹介

スポーツ少年団は、昭和 37 年に日本体育協会が創設した我が国最大の青少年スポーツ団体です。昭和 39 年に東京オリンピックの開催が決定し、日本中が盛り上がりを見せる中、「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを!」「スポーツを通じて青少年のからだとこころを育てる組織を地域社会の中に!」との願いを受けて誕生しました。

静岡市においても、日本スポーツ少年団、静岡県スポーツ少年団の傘下団体として、昭和 40 年 10 月に設立されました。以来、50 年以上にわたり、少年団の活動を支えてくださる多くの方々と共に、本市の青少年の健全育成に貢献して参りました。

2　20 年の歩み

各自治体が平成の大合併により統合される中、静岡市スポーツ少年団も平成 17 年の清水市スポーツ少年団との合併を皮切りに、蒲原町、由比町の少年団と合併を行いました。当時の本部委員をはじめとした関係者の尽力の結果、スムーズな合併が実現し、県内の登録団数の１割強を占める規模の少年団となりました。

またこの間、日独スポーツ少年団同時交流事業におけるドイツ団の受け入れをはじめ、少年団大会や指導者ディスカッション、清掃奉仕活動など、市内の少年団の交流、見識を深めるため、各種事業を実施してまいりました。

なお、平成 20 年７月には、長年にわたり市内各所にて実施してきた清掃奉仕活動が認められ、安倍川の美化・愛護等に顕著な功績のあった団体として、国土交通省中部地方整備局から感謝状が贈呈されるなど、少年団の活動は本市において高い評価を受けています。

3　今後の課題と展望

人口減少、少子高齢化などの社会情勢の変化により、少年団も団員の減少や、指導者の高齢化に伴う、世代交代という課題に直面しており、団の運営・継続に頭を悩ませる少年団が増えつつあります。

そのような中であるからこそ、スポーツ少年団の特徴である、子供たちが活動を通じて、スポーツの歓びや楽しさを体験する共に、仲間との連帯や友情を育むことができ、更にはその過程の中で社会のルールを学び、協調性や創造性などを育み、人間性豊かな社会人として成長することができることをより大切にして活動を進めてまいりたいと考えております。

今後も引き続きスポーツ少年団活動を通じ、我が国の未来を担う青少年の健全育成を目指すとともに、静岡市体育協会と共に静岡市のスポーツの振興に尽力してまいります。

4　登録状況

平成 29 年度登録状況：126 団　指導者 622 名　団員 2683 名



日独スポーツ少年団同時交流事業（富士登山）



河川・海岸愛護月間表彰式



スポーツ少年団大会



清掃奉仕活動（三保松原）

静岡市ファミリーバドミントン協会

公益財団法人静岡市体育協会設立 70 周年おめでとうございます。

昨年度より歴史ある協会に加盟させて頂き誠にありがとうございました。

各加盟団体の皆様ともに体育協会を盛り上げていければ幸いです。

私たちも長く協会運営ができるように見習いながら頑張りたいと思っております。

今後とも宜しくお願い致します。

当協会は５年前に設立して、幅広い年齢層を対象に広めようとしています。ファミリーバドミントンは３人対３人でバドミントンのコートを使用して相手のコートに２回以内で返して得点を競います。15 点先取、３セットマッチが基本にありますが、大会によっては時間制で行う場合もあります。なぜ幅広い年齢層にとありますが、スマッシュ禁止、３人で戦いますので守備範囲が狭い、バドミントンと比べてスポンジ状のシャトルを使用するためスピードを抑えられラリーが続きやすいためです。

バドミントンを経験された方もはまってしまうかも、私もその一人です。

競技をしている中で感じたことは３人で連携をとりながらプレイしないと隙ができ、相手に潰け込まれてしまいます。逆に連携が上手くいきますとその反対になります。

愛好者の発掘、審判員育成が課題ですが、試みとして初心者大会の開催、体験教室、審判員のフォローアップ講習、協会認定審判講習を行っていきたいです。

体験したい人はお気軽に下記メールアドレスに連絡をお願いいたします。

静岡市ファミリーバドミントン協会事務局担当柳原里三（satomi@office-satomi.com）

大会風景





審判講習風景





《第３章》

資　料

―管理施設概要一覧―

静岡市中央体育館　昭和 46 年５月開館



所在地：静岡市葵区駿府町 2 番 80 号

アリーナ（61.0m×40.0m）：観客席 984 席/車いす席８席/冷暖房完備

・バスケットボール ３面　・バレーボール ４面

・バドミントン 12 面　・テニス ４面　・卓球 45 台

剣道場（18.8m×14.7m）　**柔道場**（18.8m×14.7m/126 畳）

トレーニング場（8.8m×15.3m）：エアロバイク/フリーウエイトトレーニング機器

卓球場（18.8m×15.3m）：８台　**弓道場**（近的 10 人立）

軽運動室（11.9m×7.5m）

屋内プール

・大プール（25m×18m, 水深 1.2m～1.4m）

・小プール（18m×9m, 水深 0.4m～0.6m）

大会議室（100 人収容）　**多目的室１**（40 人収容）　**多目的室２**（20 人収容）

静岡市東部体育館　平成２年６月開館



所在地：静岡市葵区東千代田二丁目３番１号

アリーナ（32.9m×38.9m）

・バスケットボール ２面　・バレーボール ３面

・バドミントン ６面　・テニス ２面　・卓球 29 台

武道場（13.08m×22.9m）

・剣道場　・柔道場（76 畳）

トレーニング場（13.55m×11.5m）：油圧式サーキット/トレーニング器具等

多目的室（60 人収容）

静岡市北部体育館　平成９年６月開館



所在地：静岡市葵区松富四丁目 14 番１号

アリーナ（46.0m×40.0m）：観客席 1,012 席/身障者席４席/冷暖房完備

・バスケットボール ２面　・バレーボール ３面

・バドミントン ８面　・テニス ３面　・卓球 30 台

剣道場（18.0m×27.0m）　**柔道場**（18.0m×27.0m/232 畳）

トレーニング場（18.3m×11.7m）：デジタル式筋力トレーニングマシーン等

ランニングコース（１周 170m）

卓球場（18.3m×12.2m）：８台

弓道場（近的 10 人立），（遠的 10 人立）

フリークライミングウォール

多目的室１（40 人収容）　**多目的室２**（20 人収容）

静岡市南部体育館　昭和 59 年６月開館



所在地：静岡市駿河区曲金三丁目１番 30 号
アリーナ（32.9m×38.9m）
・バスケットボール ２面　・バレーボール ３面
・バドミントン ６面　・テニス ２面　・卓球 26 台
剣道場（17.8m×13.2m）　**柔道場**（17.8m×13.2m/126 畳）
トレーニング場（16.6m×11.5m）：エアロバイク/油圧式サーキット/トレーニング器具等
ランニングコース（１周 133m）
卓球場（13.5m×11.5m）：８台
多目的室（30 人収容）

静岡市長田体育館　昭和 61 年２月開館



所在地：静岡市駿河区鎌田 574 番地の１
アリーナ（33.1m×38.9m）
・バスケットボール ２面　・バレーボール ３面
・バドミントン ６面　・テニス ２面　・卓球 24 台
剣道場（13.2m×13.0m）　**柔道場**（15.0m×13.3m/112 畳）
トレーニング場（13.0m×11.9m）：油圧式サーキット/トレーニング器具等
卓球場（16.8m×11.9m）：８台
多目的室（20 人収容）

清水清見潟公園スポーツセンター　平成 6 年 5 月開館



所在地：静岡市清水区横砂 408 番地の 38
体育館（34.0m×27.0m）
・バスケットボール １面　・バレーボール ２面
・バドミントン ４面　・卓球 16 台
室内プール（25m×13m，水深 1.1m～1.3m）
トレーニング場（12.7m×14.45m）：エアロバイク/トレーニング器具等
多目的室（35 人収容）

静岡市蒲原体育館　昭和 56 年３月開館



所在地：静岡市清水区蒲原新田一丁目 199 番地の 19
体育館（34.3m×27.2m）
・バスケットボール １面　・バドミントン ４面

静岡市西ケ谷総合運動場　平成３年５月開場

（屋内プールは平成元年５月開館）



所在地：静岡市葵区西ケ谷８番地の１

陸上競技場：スタンド芝生席約 2,600 人収容

（公財）日本陸上競技連盟第３種公認

・トラック（１周 400m×８コース）全天候型ウレタン舗装

・フィールド（66m×101m）天然芝

・練習コース（直線 75m×３コース）走幅跳練習場１箇所

・ジョギングコース（１周 620m）

屋内プール：西ケ谷清掃工場の余熱利用

・大プール（25m×17m，水深 0.8m～1.4m）３コース可動床付

・小プール：ウォータースライダー、チャイルドサーフ（滝付き）

・会議室（50 人収容）

テニスコート：スタンド 500 人収容

・全天候型砂入り人工芝コート６面、壁打ち練習コート 0.5 面

・クラブハウス会議室/20 人収容

ターゲットバードゴルフ場：９ホール/パー27

グラウンドゴルフ場：８ホール

野球場（両翼 94m、中堅 120m）：内野スタンド（いす席 2,508 席/車いす席６席）　外野スタンド（芝生 約 3,000 人収容）

・会議室（40 人収容）

静岡市清水総合運動場　昭和 44 年 10 月開場



所在地：静岡市清水区清開二丁目１番１号

陸上競技場：スタンド席 1,384 席、芝生席約 1,000 人収容

（公財）日本陸上競技連盟第３種公認

・トラック（１周 400m×８コース）全天候型ウレタン舗装

・フィールド（68m×105m）天然芝

体育館（45.8m×41.4m）：観客席 900 席/車いす席６席/冷暖房完備

・バスケットボール ２面　・バレーボール 男子２面，女子３面

・ハンドボール １面　・バドミントン ８面　・テニス ２面　・卓球 30 台

アーチェリー場：（20 的，射距離 30m/50m/70m/90m）

弓道場（近的６人立）

武道場（28.40m×15.75m）

・剣道場　・柔道場（84 畳）

多目的グラウンド（70m×50m）

水泳場（夏季のみ）

・50m プール（９コース，水深 1.25m～1.45m）

・25m プール（７コース，水深 0.8m～1.2m）

・円形プール（直径 20m，水深 0.4m～0.5m）

スポーツ教室一覧

●加盟団体指導者による夜間スポーツ教室

教室名	中央体育館	東部体育館	北部体育館	南部体育館	長田体育館	清見潟公園SC	蒲原体育館	西ケ谷総合運動場	清水総合運動場
ミニバスケットボール	○	○	○	○	○				
バスケットボール	○	○	○	○	○				
ミニ・バレーボール	○	○	○	○	○				
バレーボール	○		○	○	○				
男性トレーニング	○			○	○				
女性エアロビックトレーニング				○					
フィットネス夜間					○				
テニス	○	○	○	○	○				
ソフトテニス	○	○	○						
バドミントン	○	○	○	○	○				
卓球	○	○	○	○	○				
体操・新体操	○								
新体操		○	○		○				
トランポリン1部					○				
柔道	○	○	○	○	○				
剣道	○	○	○	○	○				
弓道	○		○						
居合道	○	○	○		○				
杖道	○		○		○				
空手道	○	○	○	○	○				
なぎなた	○		○	○					
サッカー	○								
男性水泳	○								
女性水泳	○								
少年少女選手コース	○								

●体育協会インストラクターによる昼間スポーツ教室

教室名	中央体育館	東部体育館	北部体育館	南部体育館	長田体育館	清見潟公園SC	蒲原体育館	西ケ谷総合運動場	清水総合運動場
親子運動あそび	○	○	○	○	○		○		
エアロビクス&ダンス	○	○	○	○	○				
やさしいエクササイズ	○	○	○	○	○				
フィットネス	○	○	○	○		○	○		
ソフトエアロビクス				○	○				
バルーンバレーボール				○					
ソフトバレーボール					○				
シニア健康体操	○	○	○	○	○	○	○		
バドミントンコース	○	○		○	○				
バレーボールコース	○								
ソフトテニスコース				○					
テニスコース	○	○		○	○				
ラケット種目	○	○	○		○	○	○		
親子水あそび	○							○	
エンジョイスイム	○							○	
やさしいアクア&スイム	○							○	
いきいきアクアビクス	○							○	
水泳４種目マスターコース	○								
幼児水泳	○							○	
夏休み子ども水泳	○								

●ベビーとママの３Ｂ体操教室

教室名	中央体育館	東部体育館	北部体育館	南部体育館	長田体育館	清見潟公園SC	蒲原体育館	西ケ谷総合運動場	清水総合運動場
３Ｂ体操ねんねコース	○	○	○	○	○	○			
３Ｂ体操はいはいコース	○	○	○	○	○	○			
３Ｂ体操あんよコース	○	○	○	○	○	○			
３Ｂ体操２歳児コース						○			

●加盟団体及び外部依頼指導者によるふれあい運動教室

教室名	中央体育館	東部体育館	北部体育館	南部体育館	長田体育館	清見潟公園SC	蒲原体育館	西ケ谷総合運動場	清水総合運動場
シニア運動									○
女性フィットネス									○
親子運動									○
バドミントン									○
シニアバドミントン									○
卓球									○
ラージボール卓球									○
ソフトテニス									○
弓道									○
初心者バレーボール						○			
女性アクアウォーキング						○			
水泳						○			
ダイビングコース									○
メダカコース									○
イルカコース									○
トビウオコース									○

歴 代 役 員 一 覧

≪歴代名誉会長・名誉顧問・特別顧問・会長・副会長・専務理事・常務理事≫

年　度	名誉会長	名誉顧問	特別顧問	会　長	副会長	専務理事	常務理事
平成 10	小嶋　善吉	荻野　準平 河合　代悟 天野　進吾		宗　知信	八木　茂 増田　正史	谷川　良巳	高木　英夫
11	小嶋　善吉	荻野　準平 河合　代悟 天野　進吾		宗　知信	八木　茂 増田　正史	谷川　良巳	高木　英夫
12	小嶋　善吉	荻野　準平 河合　代悟 天野　進吾		宗　知信	増田　正史 谷川　良巳	白井　修司	高木　英夫
13	小嶋　善吉	荻野　準平 河合　代悟 天野　進吾		宗　知信	増田　正史 谷川　良巳	白井　修司	高木　英夫
14	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾		宗　知信	増田　正史 谷川　良巳	白井　修司	高木　英夫
15	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾		宗　知信	増田　正史 谷川　良巳	白井　修司	高木　英夫
16	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾		川村　修	増田　正史 安齊　悦雄	大村　吉正	浅野　修
17	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾	宗　知信 岩崎　茂	川村　修	増田　正史 安齊　悦雄	大村　吉正	浅野　修
18	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾	宗　知信 岩崎　茂	川村　修	増田　正史 安齊　悦雄	大村　吉正	浅野　修
19	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾	宗　知信 岩崎　茂	川村　修	増田　正史 安齊　悦雄	大村　吉正	浅野　修

年　度	名誉会長	名誉顧問	特別顧問	会　長	副会長	専務理事	常務理事
20	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾	宗　知信 岩崎　茂	川村　修	増田　正史 渕本　邦知	関　宣之	浅野　修
21	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾	宗　知信	川村　修	増田　正史 渕本　邦知	関　宣之	浅野　修
22	小嶋　善吉	河合　代悟 天野　進吾	宗　知信	川村　修	増田　正史 渕本　邦知	関　宣之	浅野　修
23	田辺　信宏	河合　代悟 天野　進吾 小嶋　善吉	宗　知信	川村　修	増田　正史 渕本　邦知	池川　茂	浅野　修
24	田辺　信宏	河合　代悟 天野　進吾 小嶋　善吉	宗　知信	川村　修	増田　正史 渕本　邦知	池川　茂	浅野　修
25	田辺　信宏	河合　代悟 天野　進吾 小嶋　善吉	宗　知信	川村　修	増田　正史 渕本　邦知	池川　茂	浅野　修 田中　秀幸
26	田辺　信宏	天野　進吾 小嶋　善吉	宗　知信	川村　修	増田　正史 渕本　邦知	石川　壽將	田中　秀幸
27	田辺　信宏	天野　進吾	宗　知信 川村　修	小嶋　善吉	増田　正史 渕本　邦知	松下　茂	田中　秀幸
28	田辺　信宏	天野　進吾	宗　知信 川村　修	小嶋　善吉	増田　正史 渕本　邦知	志田　浩政	田中　秀幸
29	田辺　信宏	天野　進吾	宗　知信 川村　修	小嶋　善吉	渕本　邦知 髙鳥　明保	大橋　正行	田中　秀幸

20年間の表彰受賞者一覧

功労章

平成10年度受賞者（財・第10回）

（財）第97号	佐藤　淳	剣道
（財）第98号	金子昌彦	山岳
（財）第99号	飯作俊岩	水泳
（財）第100号	海野キソ子	スキー
（財）第101号	牧野繁夫	相撲
（財）第102号	小関忠義	ソフトテニス
（財）第103号	渡邉美江子	テニス
（財）第104号	瓦谷　仁	ラグビー
（財）第105号	石上雅宏	陸上競技
（財）第106号	増田正史	ソフトボール
（財）第107号	秋本教子	体操
（財）第108号	内藤　恵	ラジオ体操
（財）第109号	髙田松彦	スポーツ少年団

平成11年度受賞者（財・第11回）

（財）第110号	福島平八	剣道
（財）第111号	望月秋男	柔道
（財）第112号	白鳥浩二	スキー
（財）第113号	渡辺　實	相撲
（財）第114号	杉原英次	ソフトテニス
（財）第115号	宇田川喜八郎	テニス
（財）第116号	瀧　義弘	陸上競技
（財）第117号	前田博司	ソフトボール
（財）第118号	津金敬三	スケート
（財）第119号	原木錠治	ラジオ体操
（財）第120号	秋山義明	ハンドボール
（財）第121号	山崎正行	ゴルフ
（財）第122号	花村　正	スポーツ少年団

平成12年度受賞者（財・第12回）

（財）第123号	中原　明	弓道
（財）第124号	鈴木康介	剣道
（財）第125号	近藤猛之	サッカー
（財）第126号	永野哲夫	柔道
（財）第127号	落合鈴子	スキー
（財）第128号	山本　武	相撲
（財）第129号	伏見文夫	ソフトテニス
（財）第130号	柳澤　學	テニス
（財）第131号	漆畑智生	バスケット
（財）第132号	前田棋一郎	バレーボール
（財）第133号	松永昌一	野球
（財）第134号	石川欽士	ソフトボール
（財）第135号	藤原林	スケート
（財）第136号	有田行雄	ラジオ体操
（財）第137号	関根英夫	バドミントン
（財）第138号	浦田英次郎	ゲートボール
（財）第139号	鶴見正義	中体連
（財）第140号	十時　孝	スポーツ少年団

平成13年度受賞者（財・第13回）

（財）第141号	芦澤庄司	弓道
（財）第142号	降矢章成	剣道
（財）第143号	杉本宣明	山岳
（財）第144号	前田伸太郎	柔道
（財）第145号	吉永俊彦	相撲
（財）第146号	服部博行	ソフトテニス
（財）第147号	高見紀男	テニス
（財）第148号	望月　功	バレーボール
（財）第149号	長谷川好道	野球
（財）第150号	佐藤健兒	ソフトボール
（財）第151号	堀川信重	スケート
（財）第152号	柴田　武	体操
（財）第153号	平石五雄	体育ボクシング
（財）第154号	小杉光夫	ラジオ体操
（財）第155号	宗野辰志	合気道
（財）第156号	髙木勝彦	中体連

平成14年度受賞者（財・第14回）

（財）第157号	杉山武男	剣道
（財）第158号	原　公司	クレー射撃
（財）第159号	近藤光男	スキー
（財）第160号	宮城　智	相撲
（財）第161号	伊藤捷一	ソフトテニス
（財）第162号	片井弘一郎	バスケット
（財）第163号	青木倫任	バレーボール
（財）第164号	瀧川進吾	野球
（財）第165号	山田知廣	ソフトボール
（財）第166号	川村泰男	体操

平成15年度受賞者（財・第15回）

（財）第167号	土屋志津	弓道
（財）第168号	越田浩子	剣道
（財）第169号	岩﨑安次	相撲
（財）第170号	増田宜夫	ソフトテニス
（財）第171号	松林　誠	テニス

（財）第172号　服部勝彦　野球
（財）第173号　岡田辰巳　ソフトボール
（財）第174号　石川一英　アーチェリー
（財）第175号　関元三郎　武術太極拳

平成16年度受賞者（財・第16回）

（財）第176号　佐藤武彦　剣道
（財）第177号　水野伸　水泳
（財）第178号　吉永輝夫　相撲
（財）第179号　飯田勝信　ソフトテニス
（財）第180号　大地千秋　テニス
（財）第181号　村松良昭　バスケット
（財）第182号　横田益子　バレーボール
（財）第183号　鈴木陽太郎　野球
（財）第184号　高木英夫　ソフトボール
（財）第185号　平野ユリ　スケート
（財）第186号　竹原悠子　体操
（財）第187号　嶋本千秋　空手道

平成17年度受賞者（財・第17回）

（財）第188号　長谷川直樹　剣道
（財）第189号　西畑武　山岳
（財）第190号　渡邉武利　クレー射撃
（財）第191号　内田貴　水泳
（財）第192号　梅田正義　ソフトテニス
（財）第193号　山本巖　テニス
（財）第194号　倉澤憲二　バスケット
（財）第195号　土橋チエ子　バレーボール
（財）第196号　松村吉郎　陸上競技
（財）第197号　杉山生敏　ソフトボール
（財）第198号　佐藤安雄　スケート

平成18年度受賞者（財・第18回）

（財）第199号　滝川貞司　剣道
（財）第200号　海野博之　山岳
（財）第201号　三浦太郎　クレー射撃
（財）第202号　山梨公良　柔道
（財）第203号　中村正義　水泳
（財）第204号　鈴木博孝　卓球
（財）第205号　倉澤百合子　テニス
（財）第206号　村松孝次郎　バスケット
（財）第207号　杉浦美智子　バレーボール
（財）第208号　田中茂　陸上競技
（財）第209号　加藤米男　スケート
（財）第210号　青木正昭　体操
（財）第211号　矢部静夫　アーチェリー
（財）第212号　志田均　武術太極拳

平成19年度受賞者（財・第19回）

（財）第213号　小澤一彦　剣道
（財）第214号　杉田勝彦　山岳
（財）第215号　新井正司　相撲
（財）第216号　前田美佐江　バスケット
（財）第217号　中村音司　ソフトボール
（財）第218号　井上晴比古　ラジオ体操

平成20年度受賞者（財・第20回）

（財）第219号　登﨑芳子　弓道
（財）第220号　小田克夫　剣道
（財）第221号　漆畑清　クレー射撃
（財）第222号　齊藤剛　柔道
（財）第223号　落合敏男　ソフトテニス
（財）第224号　増田陸二　野球
（財）第225号　村松二六　スケート
（財）第226号　望月俊男　体操
（財）第227号　浦田志信　ラジオ体操

平成21年度受賞者（財・第21回）

（財）第228号　川西信夫　弓道
（財）第229号　千原圀一　剣道
（財）第230号　長島吉治　山岳
（財）第231号　井田勝通　サッカー
（財）第232号　上木敬一　水泳
（財）第233号　加藤忠男　相撲
（財）第234号　小田切輝夫　ソフトテニス
（財）第235号　酒井昭治　野球
（財）第236号　小林麻男　ソフトボール
（財）第237号　平井節子　スケート
（財）第238号　伊藤しな子　ラジオ体操

平成22年度受賞者（財・第22回）

（財）第239号　鹿又清士　弓道
（財）第240号　前芝忠俊　剣道
（財）第241号　川嶋敏秀　柔道
（財）第242号　増田靖夫　水泳
（財）第243号　村上信義　スキー
（財）第244号　川上明廣　相撲
（財）第245号　櫻井よし枝　ソフトテニス
（財）第246号　長嶋則夫　テニス
（財）第247号　中村幹子　ソフトボール
（財）第248号　篠塚喜夫　スケート
（財）第249号　伊東定哉　体操

(財)第250号	渡邉あき江	ラジオ体操
(財)第251号	大関士郎	合気道

平成23年度受賞者（財・第23回）

(財)第252号	松田益也	弓道
(財)第253号	平井健司	剣道
(財)第254号	鈴木正昭	山岳
(財)第255号	納谷義郎	サッカー
(財)第256号	田中秀幸	柔道
(財)第257号	大江弘文	相撲
(財)第258号	永野幸三郎	ソフトテニス
(財)第259号	秋山政行	テニス
(財)第260号	森村謙司	野球
(財)第261号	小川巴	スケート
(財)第262号	市川利隆	体操

平成24年度受賞者（財・第24回）

(財)第263号	勝見鉦雄	山岳
(財)第264号	山田義弘	サッカー
(財)第265号	安齊悦雄	柔道
(財)第266号	伊藤宏	スキー
(財)第267号	中村修二	相撲
(財)第268号	市川博	ソフトテニス
(財)第269号	瀧田佳敬	バスケット
(財)第270号	杉山修身	野球
(財)第271号	松永祐	ソフトボール
(財)第272号	杉山義司	スケート
(財)第273号	林幸男	体操
(財)第274号	内藤静江	ラジオ体操
(財)第275号	日下部敏弘	バドミントン
(財)第276号	溝口稔	ダンススポーツ
(財)第277号	勝山道子	武術太極拳

平成25年度受賞者（公財・第1回）

(公財)第1号	鷲巣彌生	弓道
(公財)第2号	中山利一	剣道
(公財)第3号	原田勉	山岳
(公財)第4号	髙橋節夫	サッカー
(公財)第5号	野田昭一	柔道
(公財)第6号	落合徹	水泳
(公財)第7号	市川雅子	ソフトテニス
(公財)第8号	陰山正敏	テニス
(公財)第9号	山本輝男	バスケット
(公財)第10号	佐藤眞雄	ソフトボール
(公財)第11号	宮田幸枝	スケート
(公財)第12号	海野美代子	ダンススポーツ

平成26年度受賞者（公財・第2回）

(公財)第13号	杉山勝榮	弓道
(公財)第14号	安永宗司	剣道
(公財)第15号	滝田博之	山岳
(公財)第16号	綾部美知枝	サッカー
(公財)第17号	赤池進司	柔道
(公財)第18号	伊藤朱	ソフトテニス
(公財)第19号	大塩正則	陸上競技
(公財)第20号	石上和彦	ソフトボール
(公財)第21号	稲村好則	スケート
(公財)第22号	岩本光平	ラジオ体操
(公財)第23号	伏見允夫	アーチェリー
(公財)第24号	平山正昭	合気道

平成27年度受賞者（公財・第3回）

(公財)第25号	岩本千鶴子	弓道
(公財)第26号	勝瀬善光	剣道
(公財)第27号	松永義夫	山岳
(公財)第28号	前嶋孝志	サッカー
(公財)第29号	熊谷幸洋	柔道
(公財)第30号	鳥居裕史	水泳
(公財)第31号	小林兼吉	相撲
(公財)第32号	鈴木敏幸	ソフトテニス
(公財)第33号	柴田豊	バスケット
(公財)第34号	浅野孝	野球
(公財)第35号	内田光英	陸上競技
(公財)第36号	築地次満	ソフトボール
(公財)第37号	杉山守由	スケート
(公財)第38号	水鳥見香	体操
(公財)第39号	横井弘吉	ラジオ体操
(公財)第40号	岩瀬信一郎	ダンススポーツ
(公財)第41号	上山和江	武術太極拳
(公財)第42号	良知國保	スポーツ少年団

平成28年度受賞者（公財・第4回）

(公財)第43号	和田佐登子	弓道
(公財)第44号	山本拓二	剣道
(公財)第45号	望月喜久治	山岳
(公財)第46号	長田恒省	サッカー
(公財)第47号	和久田守男	柔道
(公財)第48号	小池善一郎	相撲
(公財)第49号	前島正義	ソフトテニス
(公財)第50号	戸塚英男	バスケット
(公財)第51号	岩田富夫	バレーボール
(公財)第52号	山本満	野球
(公財)第53号	大原一夫	陸上競技

(公財)第 54 号	由利栄三	ソフトボール
(公財)第 55 号	川﨑清	スケート
(公財)第 56 号	浅井みよ子	体操
(公財)第 57 号	青島文恵	ラジオ体操
(公財)第 58 号	久保田貢司	空手道
(公財)第 59 号	山本みさ江	武術太極拳
(公財)第 60 号	稲毛隆	スポーツ少年団

平成 29 年度受賞者（公財・第 5 回）

(公財)第 61 号	中島久之	弓道
(公財)第 62 号	阿部誠	剣道
(公財)第 63 号	大石一博	山岳
(公財)第 64 号	望月保次	サッカー
(公財)第 65 号	渡辺和秀	柔道
(公財)第 66 号	大石高司	水泳
(公財)第 67 号	長島可並	ソフトテニス
(公財)第 68 号	久保田陽一	テニス
(公財)第 69 号	芹澤達也	野球
(公財)第 70 号	石野吟策	陸上競技
(公財)第 71 号	杉本弘	ソフトボール
(公財)第 72 号	寺尾昭子	スケート
(公財)第 73 号	水鳥一夫	体操
(公財)第 74 号	清野勁	ラジオ体操
(公財)第 75 号	望月博	空手道
(公財)第 76 号	加藤昇	合気道
(公財)第 77 号	杉山一夫	武術太極拳
(公財)第 78 号	塚本哲男	スポーツ少年団

優秀指導者章

平成 10 年度受賞者（財・第 10 回）

(財)第 126 号	芦澤庄司	弓道
(財)第 127 号	平井健司	剣道
(財)第 128 号	渋谷武	山岳
(財)第 129 号	松永芳実	柔道
(財)第 130 号	赤石啓	水泳
(財)第 131 号	明峰達夫	スキー
(財)第 132 号	大江弘文	相撲
(財)第 133 号	市川博	ソフトテニス
(財)第 134 号	平田啓二	テニス
(財)第 135 号	海野幹夫	バスケット
(財)第 136 号	杉山金六	バレーボール
(財)第 137 号	中本孝彦	野球
(財)第 138 号	孕石英男	陸上競技
(財)第 139 号	村田晴重	ソフトボール
(財)第 140 号	増田香織里	体操
(財)第 141 号	平石五雄	体育ボクシング
(財)第 142 号	伊藤しな子	ラジオ体操
(財)第 143 号	滝下昌弘	空手道
(財)第 144 号	松田要助	合気道
(財)第 145 号	安池信男	少林寺拳法

平成 11 年度受賞者（財・第 11 回）

(財)第 146 号	土屋志津	弓道
(財)第 147 号	松下勝夫	剣道
(財)第 148 号	名倉健兒	山岳
(財)第 149 号	海野脩爾	クレー射撃
(財)第 150 号	小柳津敬博	柔道
(財)第 151 号	寺田政義	水泳
(財)第 152 号	村上信義	スキー
(財)第 153 号	神田孝次	相撲
(財)第 154 号	村上泰夫	ソフトテニス
(財)第 155 号	片山博章	テニス
(財)第 156 号	中川純充	バスケット
(財)第 157 号	福達美	バレーボール
(財)第 158 号	山本満	野球
(財)第 159 号	海野和雄	ラグビー
(財)第 160 号	小沢誠	陸上競技
(財)第 161 号	杉原逞永	ソフトボール
(財)第 162 号	大橋玲子	フォークダンス
(財)第 163 号	大橋勝	自転車
(財)第 164 号	浅井眞理子	体操
(財)第 165 号	松永昌己	体育ボクシング
(財)第 166 号	竹内万夫	ラジオ体操
(財)第 167 号	横山寛	空手道
(財)第 168 号	木原政春	合気道
(財)第 169 号	市川光雄	少林寺拳法
(財)第 170 号	松下勝也	ハンドボール
(財)第 171 号	海野弘美	トランポリン

平成 12 年度受賞者（財・第 12 回）

(財)第 172 号	杉山勝榮	弓道
(財)第 173 号	青木文男	剣道
(財)第 174 号	望月喜久治	山岳
(財)第 175 号	田畑博央	クレー射撃
(財)第 176 号	井田勝通	サッカー

(財)第177号	熊谷幸洋	柔道
(財)第178号	中森基明	水泳
(財)第179号	松下正美	スキー
(財)第180号	細倉涼太	相撲
(財)第181号	鈴木強	ソフトテニス
(財)第182号	長嶋則夫	テニス
(財)第183号	市川雅彦	バスケット
(財)第184号	町田訓孝	バレーボール
(財)第185号	杉田但	野球
(財)第186号	飯田正之	陸上競技
(財)第187号	中村音司	ソフトボール
(財)第188号	望月千奈美	スケート
(財)第189号	稲葉新吾	体操
(財)第190号	小野田清作	ラジオ体操
(財)第191号	懸勝弘	バドミントン
(財)第192号	関元三郎	武術太極拳

平成13年度受賞者（財・第13回）

(財)第193号	川西信夫	弓道
(財)第194号	前芝忠俊	剣道
(財)第195号	片山充孝	山岳
(財)第196号	漆畑清	クレー射撃
(財)第197号	河村勝利	サッカー
(財)第198号	齊藤剛	柔道
(財)第199号	杉山勉	水泳
(財)第200号	伊藤宏	スキー
(財)第201号	新井祥三	ソフトテニス
(財)第202号	安本正俊	テニス
(財)第203号	佐藤晋也	バスケット
(財)第204号	岩田富夫	バレーボール
(財)第205号	酒井昭治	野球
(財)第206号	多々良修一	ラグビー
(財)第207号	八木本雅之	陸上競技
(財)第208号	杉山生敏	ソフトボール
(財)第209号	井上晴比古	ラジオ体操
(財)第210号	松田幸三	合気道
(財)第211号	松本昌代	武術太極拳
(財)第212号	伊藤喜弘	スポーツ少年団

平成14年度受賞者（財・第14回）

(財)第213号	鷲巣弥生	弓道
(財)第214号	長谷川直樹	剣道
(財)第215号	杉村恵之助	山岳
(財)第216号	渡邉武利	クレー射撃
(財)第217号	納谷義郎	サッカー
(財)第218号	黒柳忠義	柔道
(財)第219号	河口雅規	水泳
(財)第220号	折山展子	スキー
(財)第221号	市川雅子	ソフトテニス
(財)第222号	松林誠	テニス
(財)第223号	倉澤百合子	テニス
(財)第224号	三浦昭彦	バスケット
(財)第225号	成澤幹博	バレーボール
(財)第226号	渡辺博	野球
(財)第227号	亀山正敏	ラグビー
(財)第228号	鈴木康弘	陸上競技
(財)第229号	由利栄三	ソフトボール
(財)第230号	篠塚喜夫	スケート
(財)第231号	髙野智樹	体操
(財)第232号	桑原道子	ラジオ体操
(財)第233号	吉野利朗	空手道
(財)第234号	大石修司	バドミントン
(財)第235号	庄野紀子	なぎなた

平成15年度受賞者（財・第15回）

(財)第236号	登﨑芳子	弓道
(財)第237号	牧田佶久	剣道
(財)第238号	田村雅義	山岳
(財)第239号	伊石晋司	水泳
(財)第240号	岩野義郎	スキー
(財)第241号	小林猛久	相撲
(財)第242号	仲野早苗	ソフトテニス
(財)第243号	大地千秋	テニス
(財)第244号	山本玲司	バスケット
(財)第245号	増田陸二	野球
(財)第246号	圓福悟	ラグビー
(財)第247号	内野悦子	陸上競技
(財)第248号	松永祐	ソフトボール
(財)第249号	出島雅明	スケート
(財)第250号	森下清	自転車
(財)第251号	渡辺あき江	ラジオ体操
(財)第252号	谷川昌弘	空手道
(財)第253号	杉山靖夫	合気道
(財)第254号	有田龍一	武術太極拳

平成16年度受賞者（財・第16回）

(財)第255号	新昇	剣道
(財)第256号	勝見鉦雄	山岳
(財)第257号	三浦太郎	クレー射撃
(財)第258号	横山敏夫	サッカー
(財)第259号	森順次	柔道
(財)第260号	森金治男	水泳

（財）第261号	山﨑敬久	相撲
（財）第262号	鈴木健一	ソフトテニス
（財）第263号	山本巖	テニス
（財）第264号	夏目義人	バスケット
（財）第265号	嵐口康男	バレーボール
（財）第266号	望月昭男	陸上競技
（財）第267号	佐藤眞雄	ソフトボール
（財）第268号	岡田博己	スケート
（財）第269号	葛本憲司	体育ボクシング
（財）第270号	内藤静江	ラジオ体操
（財）第271号	松田貞之	空手道
（財）第272号	野田陽子	トランポリン
（財）第273号	鷲巣裕司	アマチュアダンス
（財）第274号	志田均	武術太極拳

平成17年度受賞者（財・第17回）

（財）第275号	小澤一彦	剣道
（財）第276号	森竹利久	山岳
（財）第277号	多々良岩男	クレー射撃
（財）第278号	山梨公良	柔道
（財）第279号	千葉公	水泳
（財）第280号	森嵜崇光	スキー
（財）第281号	宮嶋大寿	相撲
（財）第282号	伊藤公祐	ソフトテニス
（財）第283号	波多野謙次	テニス
（財）第284号	小林義則	バスケット
（財）第285号	芦澤達也	野球
（財）第286号	平島正道	ラグビー
（財）第287号	佐藤晴久	陸上競技
（財）第288号	大塚浩志	ソフトボール
（財）第289号	長束保江	フォークダンス
（財）第290号	平井節子	スケート
（財）第291号	堀池康孝	体育ボクシング
（財）第292号	浦田志信	ラジオ体操
（財）第293号	和田暁	空手道
（財）第294号	大澤美樹	バドミントン
（財）第295号	矢部静夫	アーチェリー
（財）第296号	久木野和郎	合気道
（財）第297号	宇佐美智	少林寺拳法

平成18年度受賞者（財・第18回）

（財）第298号	松田益也	弓道
（財）第299号	小田克夫	剣道
（財）第300号	滝田博之	山岳
（財）第301号	青木實	クレー射撃
（財）第302号	長田恒省	サッカー
（財）第303号	和久田守男	柔道
（財）第304号	杉原正洋	水泳
（財）第305号	中村祥和	スキー
（財）第306号	薮崎昇	卓球
（財）第307号	永野幸三郎	ソフトテニス
（財）第308号	秋山政行	テニス
（財）第309号	佐野和好	バスケット
（財）第310号	山下日出男	陸上競技
（財）第311号	小川巴	スケート
（財）第312号	山本文明	体操
（財）第313号	伊藤光昭	体育ボクシング
（財）第314号	佐藤栄司	ラジオ体操
（財）第315号	田形勝	空手道
（財）第316号	天野利彦	アーチェリー
（財）第317号	洞口均	少林寺拳法
（財）第318号	鈴木史人	武術太極拳

平成19年度受賞者（財・第19回）

（財）第319号	久野道雄	剣道
（財）第320号	石橋勲	山岳
（財）第321号	川嶋敏秀	柔道
（財）第322号	石田鉄弥	相撲
（財）第323号	漆畑勝之	ソフトテニス
（財）第324号	伊東末廣	テニス
（財）第325号	柴田豊	バスケット
（財）第326号	望月富男	野球
（財）第327号	本多茂	ラグビー
（財）第328号	林和代	陸上競技
（財）第329号	山田巧	ソフトボール
（財）第330号	志田幸三	フォークダンス
（財）第331号	宮田幸枝	スケート
（財）第332号	林幸男	体操
（財）第333号	中村栄	体育ボクシング
（財）第334号	竹井テル子	ラジオ体操
（財）第335号	市川正明	空手道
（財）第336号	川島充子	バドミントン
（財）第337号	高橋俊博	ボウリング
（財）第338号	岩瀬信一郎	ダンススポーツ
（財）第339号	佐野好美	武術太極拳

平成20年度受賞者（財・第20回）

（財）第340号	岩本千鶴子	弓道
（財）第341号	勝瀬善光	剣道
（財）第342号	長島吉治	山岳
（財）第343号	前嶋孝志	サッカー
（財）第344号	海野良信	柔道

（財）第345号	秋山和廣	水泳
（財）第346号	小林伸治	相撲
（財）第347号	伊藤朱	ソフトテニス
（財）第348号	望月博之	テニス
（財）第349号	寺崎俊恵	バスケット
（財）第350号	漆畑稔	ラグビー
（財）第351号	髙山登	陸上競技
（財）第352号	田村甲子彦	ソフトボール
（財）第353号	内田晴子	スケート
（財）第354号	伊東定哉	体操
（財）第355号	杉山左加江	ラジオ体操
（財）第356号	平田幸雄	空手道
（財）第357号	粂田綾子	バドミントン
（財）第358号	溝口稔	ダンススポーツ
（財）第359号	勝山道子	武術太極拳

平成21年度受賞者（財・第21回）

（財）第360号	和田佐登子	弓道
（財）第361号	安永宗司	剣道
（財）第362号	戸壽清	山岳
（財）第363号	服部眞治	クレー射撃
（財）第364号	原満	サッカー
（財）第365号	渡辺和秀	柔道
（財）第366号	田中道雄	水泳
（財）第367号	小池善一郎	相撲
（財）第368号	長島可並	ソフトテニス
（財）第369号	柏木茂	テニス
（財）第370号	吉田明史	バスケット
（財）第371号	山本忠博	バレーボール
（財）第372号	橋本渡	ラグビー
（財）第373号	堀義明	陸上競技
（財）第374号	佐塚禮次	ソフトボール
（財）第375号	杉山義司	スケート
（財）第376号	齋藤壽	ラジオ体操
（財）第377号	井口登	空手道
（財）第378号	天野富雄	バドミントン
（財）第379号	岡村喜美	なぎなた
（財）第380号	海野美代子	ダンススポーツ
（財）第381号	山本みさ江	武術太極拳

平成22年度受賞者（財・第22回）

（財）第382号	太田雄一	弓道
（財）第383号	中山利一	剣道
（財）第384号	今村一郎	山岳
（財）第385号	大瀧雅良	サッカー
（財）第386号	渡部直樹	柔道
（財）第387号	高井俊祐	水泳
（財）第388号	鈴木康宏	スキー
（財）第389号	戸田訓生	相撲
（財）第390号	望月英明	ソフトテニス
（財）第391号	佐塚千尋	テニス
（財）第392号	山下博史	バスケット
（財）第393号	原田信義	バレーボール
（財）第394号	細田幸雄	野球
（財）第395号	亀山寿夫	ラグビー
（財）第396号	小川富男	陸上競技
（財）第397号	築地次満	ソフトボール
（財）第398号	稲村好則	スケート
（財）第399号	市川利隆	体操
（財）第400号	森内醇	ラジオ体操
（財）第401号	小長井真澄	空手道
（財）第402号	日下部敏弘	バドミントン
（財）第403号	伏見允夫	アーチェリー
（財）第404号	望月茂良	合気道
（財）第405号	小川汎丘	ダンススポーツ
（財）第406号	上山和江	武術太極拳

平成23年度受賞者（財・第23回）

（財）第407号	中島久之	弓道
（財）第408号	幸田昌之	弓道
（財）第409号	山本拓二	剣道
（財）第410号	山﨑美代子	山岳
（財）第411号	小林博	クレー射撃
（財）第412号	山田義弘	サッカー
（財）第413号	青木繁行	サッカー
（財）第414号	石川裕章	柔道
（財）第415号	阿部光好	柔道
（財）第416号	栗田仁	水泳
（財）第417号	秋本佳代子	水泳
（財）第418号	渡辺享	スキー
（財）第419号	桜井通雄	相撲
（財）第420号	石黒庄司	ソフトテニス
（財）第421号	近藤敦子	ソフトテニス
（財）第422号	大石修身	テニス
（財）第423号	橋本隆司	テニス
（財）第424号	山本輝男	バスケット
（財）第425号	川村修	バスケット
（財）第426号	髙山信幸	バレーボール
（財）第427号	高橋伸知	バレーボール
（財）第428号	市瀬博明	野球
（財）第429号	森田千里	野球
（財）第430号	千田良和	ラグビー

(財)第431号	鳥居俊秀	陸上競技
(財)第432号	石上和彦	スキー
(財)第433号	岩﨑良明	ソフトボール
(財)第434号	川﨑清	スケート
(財)第435号	杉山守由	スケート
(財)第436号	水鳥政弘	体操
(財)第437号	杉山仁夫	体操
(財)第438号	岩本光平	ラジオ体操
(財)第439号	青島文恵	ラジオ体操
(財)第440号	川島治雄	空手道
(財)第441号	齋藤吉弘	バドミントン
(財)第442号	大澤俊幸	バドミントン
(財)第443号	山田恵修	少林寺拳法
(財)第444号	杉山一夫	武術太極拳

平成24年度受賞者（財・第24回）

(財)第445号	辻秀信	山岳
(財)第446号	篠崎勇	山岳
(財)第447号	坂本秀一	サッカー
(財)第448号	竹沢和子	サッカー
(財)第449号	増岡秋男	柔道
(財)第450号	橋口渉	柔道
(財)第451号	築地雄司	水泳
(財)第452号	大沢稔征	水泳
(財)第453号	岡本哲典	スキー
(財)第454号	小林兼吉	相撲
(財)第455号	伊藤均	ソフトテニス
(財)第456号	安松初雄	ソフトテニス
(財)第457号	陰山正敏	テニス
(財)第458号	久保田陽一	テニス
(財)第459号	村松繁樹	バスケット
(財)第460号	徳田利彦	バスケット
(財)第461号	齋藤靖代	バレーボール
(財)第462号	長田芳雄	バレーボール
(財)第463号	小泉斉	野球
(財)第464号	三木正道	野球
(財)第465号	石垣誠	ラグビー
(財)第466号	佐々木有紀	陸上競技
(財)第467号	豊泉之規	ソフトボール
(財)第468号	杉本弘	ソフトボール
(財)第469号	寺尾昭子	スケート
(財)第470号	佐藤馨子	スケート
(財)第471号	寺尾直之	体操
(財)第472号	植松初美	体操
(財)第473号	清野勁	ラジオ体操
(財)第474号	塚本巳千江	ラジオ体操
(財)第475号	山田美夫	空手道
(財)第476号	木田成昭	バドミントン
(財)第477号	佐藤清蔵	ダンススポーツ
(財)第478号	岩本悦子	武術太極拳
(財)第479号	石月美江	武術太極拳

平成25年度受賞者（公財・第1回）

(公財)第1号	赤石裕一	弓道
(公財)第2号	伊東靖博	弓道
(公財)第3号	佐藤春光	剣道
(公財)第4号	望月茂彦	剣道
(公財)第5号	藤ヶ谷貞雄	山岳
(公財)第6号	鷲山久	山岳
(公財)第7号	吉野保	クレー射撃
(公財)第8号	西村勉	サッカー
(公財)第9号	川柳史朗	サッカー
(公財)第10号	興梠正人	柔道
(公財)第11号	茶山和巳	柔道
(公財)第12号	國行謙	水泳
(公財)第13号	村松康	水泳
(公財)第14号	漆畑寿伸	スキー
(公財)第15号	川根重人	相撲
(公財)第16号	大石幸男	ソフトテニス
(公財)第17号	篠﨑彰	ソフトテニス
(公財)第18号	大山正信	テニス
(公財)第19号	杉本寛	テニス
(公財)第20号	片瀬孝幸	バスケット
(公財)第21号	大石嘉春	バスケット
(公財)第22号	吉田幸雄	バレーボール
(公財)第23号	小西正夫	バレーボール
(公財)第24号	鈴木幸雄	野球
(公財)第25号	竹中和夫	野球
(公財)第26号	村松潮見	ラグビー
(公財)第27号	佐々木茂雄	陸上競技
(公財)第28号	安本秀樹	ソフトボール
(公財)第29号	池ヶ谷康男	ソフトボール
(公財)第30号	奥田郁夫	スケート
(公財)第31号	水鳥節子	体操
(公財)第32号	岡端隆	体操
(公財)第33号	横井弘吉	ラジオ体操
(公財)第34号	賤機三千夫	ラジオ体操
(公財)第35号	細澤保雄	空手道
(公財)第36号	佐藤美佐子	武術太極拳
(公財)第37号	田澤啓子	武術太極拳

平成26年度受賞者（公財・第2回）

(公財)第38号	松浦昭夫	弓道
(公財)第39号	阿部誠	剣道
(公財)第40号	熊谷一郎	剣道
(公財)第41号	小田直美	山岳
(公財)第42号	牧野静男	山岳
(公財)第43号	瀧公孝	サッカー
(公財)第44号	半田悦子	サッカー
(公財)第45号	渡邉達也	柔道
(公財)第46号	岡本寧	水泳
(公財)第47号	森博章	水泳
(公財)第48号	森本浩史	相撲
(公財)第49号	梅本早苗	ソフトテニス
(公財)第50号	川島貞雄	ソフトテニス
(公財)第51号	杉山柏子	テニス
(公財)第52号	疋野良	テニス
(公財)第53号	齊藤隆英	バスケット
(公財)第54号	櫻井千夏子	バスケット
(公財)第55号	小野田昇	バレーボール
(公財)第56号	山﨑清治	バレーボール
(公財)第57号	水越達夫	野球
(公財)第58号	大石喜義	野球
(公財)第59号	山野通也	ラグビー
(公財)第60号	望月勇志	陸上競技
(公財)第61号	齊藤史門	陸上競技
(公財)第62号	岩崎恵美子	ソフトボール
(公財)第63号	内野吉博	ソフトボール
(公財)第64号	久米洋子	体操
(公財)第65号	寺尾八重子	体操
(公財)第66号	鈴木広次郎	ラジオ体操
(公財)第67号	石村とし枝	ラジオ体操
(公財)第68号	前田邦男	空手道
(公財)第69号	細倉洋子	合気道
(公財)第70号	渡部孝満	ダンススポーツ
(公財)第71号	佐藤美智子	ダンススポーツ
(公財)第72号	松枝五郎	武術太極拳
(公財)第73号	髙橋裕美	武術太極拳
(公財)第74号	良知國保	スポーツ少年団
(公財)第75号	稲毛隆	スポーツ少年団

平成27年度受賞者（公財・第3回）

(公財)第76号	向井由美子	弓道
(公財)第77号	杉山彰	剣道
(公財)第78号	高橋文也	剣道
(公財)第79号	田中行男	山岳
(公財)第80号	増田浩二	山岳
(公財)第81号	工藤輝人	サッカー
(公財)第82号	斎藤誠	サッカー
(公財)第83号	加賀谷保	柔道
(公財)第84号	金原伸尚	柔道
(公財)第85号	秋山幸弘	水泳
(公財)第86号	保﨑高宏	水泳
(公財)第87号	河野晋作	相撲
(公財)第88号	飯田誠	ソフトテニス
(公財)第89号	志村保明	ソフトテニス
(公財)第90号	青木良浩	バスケット
(公財)第91号	佐々木靖之	バスケット
(公財)第92号	渡辺勝	野球
(公財)第93号	鍋田賢一郎	野球
(公財)第94号	和田一人	ラグビー
(公財)第95号	吉川紳	陸上競技
(公財)第96号	赤堀順一	陸上競技
(公財)第97号	吉田裕行	ソフトボール
(公財)第98号	前田正太郎	ソフトボール
(公財)第99号	川島孝司	体操
(公財)第100号	新海亘広	体操
(公財)第101号	佐藤照夫	ラジオ体操
(公財)第102号	桑山澄子	ラジオ体操
(公財)第103号	帆足幹夫	空手道
(公財)第104号	望月顕枝	武術太極拳
(公財)第105号	亀山瑛子	武術太極拳
(公財)第106号	緑川武	スポーツ少年団

平成28年度受賞者（公財・第4回）

(公財)第107号	今村祝	弓道
(公財)第108号	神谷典子	弓道
(公財)第109号	森啓晃	剣道
(公財)第110号	長澤渡	剣道
(公財)第111号	入谷一重	山岳
(公財)第112号	池ヶ谷和彦	山岳
(公財)第113号	小長井正男	サッカー
(公財)第114号	海野和正	サッカー
(公財)第115号	西川孝治	柔道
(公財)第116号	大橋久夫	柔道
(公財)第117号	丹羽俊幸	水泳
(公財)第118号	長島武士	水泳
(公財)第119号	久保田勝丈	スキー
(公財)第120号	田中一也	相撲
(公財)第121号	望月正美	ソフトテニス
(公財)第122号	永倉和彦	ソフトテニス
(公財)第123号	鈴木洋子	テニス
(公財)第124号	清水正弘	テニス

(公財)第125号	櫻井博之	バスケット
(公財)第126号	大澤芳弘	バスケット
(公財)第127号	加藤静雄	バレーボール
(公財)第128号	深澤均	バレーボール
(公財)第129号	鈴木誠	野球
(公財)第130号	望月勝利	野球
(公財)第131号	堀吉孝	ラグビー
(公財)第132号	松澤茂	陸上競技
(公財)第133号	柴正美	ソフトボール
(公財)第134号	望月康司	ソフトボール
(公財)第135号	小野田綾子	体操
(公財)第136号	岡本さおり	体操
(公財)第137号	松永清	ラジオ体操
(公財)第138号	根本昌浩	ラジオ体操
(公財)第139号	堀川博明	空手道
(公財)第140号	村上久子	武術太極拳
(公財)第141号	井上薫	武術太極拳

平成29年度受賞者（公財・第5回）

(公財)第142号	柚木久了	弓道
(公財)第143号	大橋清子	弓道
(公財)第144号	石川廣美	剣道
(公財)第145号	齋藤公英	剣道
(公財)第146号	赤堀正	山岳
(公財)第147号	渡辺恒明	クレー射撃
(公財)第148号	森健治	サッカー
(公財)第149号	岩下潤	サッカー
(公財)第150号	岡本雅之	柔道
(公財)第151号	古川隆士	柔道
(公財)第152号	八木哲宏	水泳
(公財)第153号	河合有三	水泳
(公財)第154号	中村武	相撲
(公財)第155号	川島俊昭	ソフトテニス
(公財)第156号	大江晋	ソフトテニス
(公財)第157号	小林敬子	テニス
(公財)第158号	津田俊明	テニス
(公財)第159号	田原雅弘	バスケット
(公財)第160号	高山光正	バスケット
(公財)第161号	岩ヶ谷博利	バレーボール
(公財)第162号	八木弘枝	バレーボール
(公財)第163号	松浦孝	野球
(公財)第164号	高橋清美	野球
(公財)第165号	吉田愼二	ラグビー
(公財)第166号	豊田博幸	陸上競技
(公財)第167号	大澤浩子	陸上競技
(公財)第168号	山﨑美都次	ソフトボール
(公財)第169号	佐野勝美	ソフトボール
(公財)第170号	長島祐三子	体操
(公財)第171号	伊藤由佳	体操
(公財)第172号	久保田新平	ラジオ体操
(公財)第173号	木南千代子	ラジオ体操
(公財)第174号	川﨑功	空手道
(公財)第175号	長谷川ひろみ	空手道
(公財)第176号	松永和義	合気道
(公財)第177号	海野大輔	トランポリン
(公財)第178号	沼野敏	武術太極拳
(公財)第179号	横山和子	武術太極拳

優秀選手章

平成10年度受賞者（財・第10回）

(財)第65号	飯田勝信	ソフトテニス
(財)第66号	岩本義久	ソフトテニス
(財)第67号	片井文乃	ボウリング

平成11年度受賞者（財・第11回）

(財)第68号	伊東千佐世	テニス
(財)第69号	河村優太郎	陸上競技
(財)第70号	石橋慎太郎	自転車
(財)第71号	鈴木英介	自転車
(財)第72号	岡村潤	自転車
(財)第73号	片井文乃	ボウリング

平成12年度受賞者（財・第12回）

(財)第74号	宮城島美緒	水泳
(財)第75号	藤波佳子	テニス
(財)第76号	海野健太	テニス
(財)第77号	酒井正利	テニス
(財)第78号	石橋慎太郎	自転車
(財)第79号	黒田常生	自転車
(財)第80号	水鳥豪敏	体操
(財)第81号	高橋俊博	ボウリング
(財)第82号	片井文乃	ボウリング

平成 13 年度受賞者（財・第 13 回）

（財）第 83 号	遠藤孝弘	サッカー
（財）第 84 号	持山宜丈	サッカー
（財）第 85 号	佐々木心	サッカー
（財）第 86 号	浅山郷史	サッカー
（財）第 87 号	永田充	サッカー
（財）第 88 号	深澤良輔	サッカー
（財）第 89 号	海野剛	サッカー
（財）第 90 号	伏見文夫	ソフトテニス
（財）第 91 号	中根勝	ソフトテニス
（財）第 92 号	藤波佳子	テニス
（財）第 93 号	石橋慎太郎	自転車
（財）第 94 号	沼田明子	体操
（財）第 95 号	水鳥舞夏	体操
（財）第 96 号	高橋俊博	ボウリング
（財）第 97 号	片井文乃	ボウリング
（財）第 98 号	赤石千春	ボウリング

平成 14 年度受賞者（財・第 14 回）

（財）第 99 号	海野広規	テニス
（財）第 100 号	川村美夏	テニス
（財）第 101 号	櫻田佳恵	バスケット
（財）第 102 号	山田未来	バスケット
（財）第 103 号	三浦歩惟	バスケット
（財）第 104 号	安本亜沙美	バスケット
（財）第 105 号	青木弘子	バスケット
（財）第 106 号	松永南	バスケット
（財）第 107 号	窪田千尋	バスケット
（財）第 108 号	中西美帆	バスケット
（財）第 109 号	鈴木歩実	バスケット
（財）第 110 号	岸山佳奈枝	バスケット
（財）第 111 号	櫻井丈	自転車
（財）第 112 号	永田雅也	アーチェリー

平成 15 年度受賞者（財・第 15 回）

（財）第 113 号	坂本崇	剣道
（財）第 114 号	美濃部貴衣	陸上競技
（財）第 115 号	小澤洋子	陸上競技
（財）第 116 号	水鳥寿思	体操
（財）第 117 号	沼田昌子	体操
（財）第 118 号	斉藤華保理	体操
（財）第 119 号	小川真瑠実	体操
（財）第 120 号	西村春香	体操

平成 16 年度受賞者（財・第 16 回）

（財）第 121 号	望月英希	ボウリング

平成 17 年度受賞者（財・第 17 回）

（財）第 122 号	大塚未来	アーチェリー

平成 18 年度受賞者（財・第 18 回）

（財）第 123 号	杉山沙侑南	水泳
（財）第 124 号	松原奨	陸上競技
（財）第 125 号	望月駿一	ウエイトリフティング

平成 19 年度受賞者（財・第 19 回）

（財）第 126 号	小林柊也	陸上競技
（財）第 127 号	杉林りな	アーチェリー
（財）第 128 号	中野大祐	アーチェリー
（財）第 129 号	星野正浩	ボウリング
（財）第 130 号	池田康弘	ボウリング

平成 20 年度受賞者（財・第 20 回）

（財）第 131 号	市川雅子	ソフトテニス
（財）第 132 号	木村友香	陸上競技
（財）第 133 号	日下部敏弘	バドミントン
（財）第 134 号	穴田昌崇	アーチェリー

平成 21 年度受賞者（財・第 21 回）

（財）第 135 号	板垣幸吉	ボウリング

平成 22 年度受賞者（財・第 22 回）

（財）第 136 号	内田篤人	サッカー
（財）第 137 号	岡崎慎司	サッカー
（財）第 138 号	金澤真美	サッカー
（財）第 139 号	高木ひかり	サッカー
（財）第 140 号	後藤亜弥	サッカー
（財）第 141 号	山中未久	相撲
（財）第 142 号	大谷広樹	陸上競技
（財）第 143 号	松本奈菜子	陸上競技
（財）第 144 号	池ヶ谷晴香	体操

平成 23 年度受賞者（財・第 23 回）

（財）第 145 号	山中未久	相撲
（財）第 146 号	杉林りな	アーチェリー
（財）第 147 号	戸塚沙椰	アーチェリー
（財）第 148 号	原崎仁平	トランポリン
（財）第 149 号	市川隆太	トランポリン

平成 24 年度受賞者（財・第 24 回）

（財）第 150 号	村松大輔	サッカー
（財）第 151 号	小野田吏紗	陸上競技
（財）第 152 号	鈴木涼功	体操

（財）第153号　浅川信正　馬術
（財）第154号　市川隆太　トランポリン
（財）第155号　平岡勇輝　ウエイトリフティング

平成25年度受賞者（公財・第1回）

（公財）第1号　佐藤和哉　柔道
（公財）第2号　遠田真子　柔道
（公財）第3号　村上泰夫　ソフトテニス
（公財）第4号　中澤航介　陸上競技

平成26年度受賞者（公財・第2回）

（公財）第5号　森川顕範　体操
（公財）第6号　鈴木大葉　体操
（公財）第7号　浅野優菜　水泳
（公財）第8号　小川万諒　アーチェリー
（公財）第9号　小川智美　ボウリング

平成27年度受賞者（公財・第3回）

（公財）第10号　杉山華彩　水泳
（公財）第11号　鈴木大葉　体操

（公財）第12号　村上瞳　体操
（公財）第13号　芦川うらら　体操

平成28年度受賞者（公財・第4回）

（公財）第14号　大島僚太　サッカー
（公財）第15号　橋口晴　体操
（公財）第16号　芦川うらら　体操
（公財）第17号　竹澤薫子　体操
（公財）第18号　海野大透　トランポリン

平成29年度受賞者（公財・第5回）

（公財）第19号　是永肇　水泳
（公財）第20号　芦川うらら　体操
（公財）第21号　杉山諒将　体操
（公財）第22号　岩本将輝　体操
（公財）第23号　竹澤薫子　体操
（公財）第24号　佐藤俊雄　グラウンド・ゴルフ

優秀団体章

平成10年度受賞者（財・第10回）

（財）第24号　東海大学第一中学校サッカー部　サッカー
（財）第25号　㈱シャンソン化粧品バスケットボール部　バスケット
（財）第26号　静岡北高等学校自転車競技部イタリアン・パシュート・レースチーム　自転車
（財）第27号　エンリッチライフ　ボウリング

平成11年度受賞者（財・第11回）

（財）第28号　㈱シャンソン化粧品シャンソンVマジック　バスケット

平成12年度受賞者（財・第12回）

（財）第29号　中森シンクロクラブ（宮城島・鈴木組）　水泳
（財）第30号　静岡市ソフトテニス協会（飯田・岩本組）　ソフトテニス
（財）第31号　竜南テニスクラブ（大畑・渡辺組）　テニス
（財）第32号　㈱シャンソン化粧品シャンソンVマジック　バスケット
（財）第33号　静岡ダンススポーツクラブ（久保田豊・幸組）　アマチュアダンス

平成13年度受賞者（財・第13回）

（財）第34号　静岡ガス㈱野球部　野球
（財）第35号　静岡クラブOB　ソフトボール

平成14年度受賞者（財・第14回）

（財）第36号　竜南テニスクラブ　テニス
（財）第37号　常葉学園高等学校バスケットボール部　バスケット

平成15年度受賞者（財・第15回）

（財）第38号　静岡市テニスチーム　テニス

平成17年度受賞者（財・第17回）

（財）第39号　静岡信用金庫テニス部　テニス
（財）第40号　㈱シャンソン化粧品シャンソンVマジック　バスケット

平成19年度受賞者（財・第19回）

（財）第41号　清水ミズノSC　陸上競技

平成20年度受賞者（財・第20回）

（財）第42号　静岡学園中学校サッカー部　サッカー

平成 21 年度受賞者（財・第 21 回）

（財）第 43 号	静岡学園中学校サッカー部	サッカー

平成 22 年度受賞者（財・第 22 回）

（財）第 44 号	清水エスパルスジュニアユース	サッカー
（財）第 45 号	常葉学園中学校サッカー部	サッカー
（財）第 46 号	常葉学園橘中学校野球部	野球
（財）第 47 号	静岡クラブシニア	ソフトボール

平成 23 年度受賞者（財・第 23 回）

（財）第 48 号	2010 静岡ヤカワカン南壁登山隊	山岳
（財）第 49 号	清水エスパルスジュニアユース	サッカー

平成 26 年度受賞者（公財・第 2 回）

（公財）第 1 号	チーム静岡	野球
（公財）第 2 号	清水九十九クラブゴールド	ソフトボール

平成 27 年度受賞者（公財・第 3 回）

（公財）第 3 号	静岡県立静岡中央高等学校	サッカー

平成 28 年度受賞者（公財・第 4 回）

（公財）第 4 号	清水エスパルスジュニアユース	サッカー
（公財）第 5 号	常葉学園中学校・高等学校新体操部	体操

平成 29 年度受賞者（公財・第 5 回）

（公財）第 6 号	清水エスパルスジュニアユース	サッカー
（公財）第 7 号	静岡クラブシニア	ソフトボール

賞　詞

平成 14 年度受賞者（財・第 14 回）

（財）第 1 号	松村謙吾	水泳
（財）第 2 号	安心院千裕	水泳

平成 18 年度受賞者（財・第 18 回）

（財）第 3 号	大長俊貴	テニス

平成 23 年度受賞者（財・第 23 回）

（財）第 4 号	三輪哲平	体操

感謝状等

平成 9 年度受賞者（財・第 9 回）

感謝状	石田徳行	市教育長

平成 19 年度受賞者（財・第 19 回）

特別表彰	水鳥寿思	徳州会体操クラブ

平成 28 年度受賞者（公財・第 4 回）

特別表彰	水鳥寿思	慶応義塾大学

創立記念表彰

創立55周年記念表彰（平成19年度）

（財）第77号	川西信夫	弓道
（財）第78号	登﨑芳子	弓道
（財）第79号	中原明	弓道
（財）第80号	熊王進	弓道
（財）第81号	青木文男	剣道
（財）第82号	富田久万	剣道
（財）第83号	松永義夫	山岳
（財）第84号	赤堀勝利	柔道
（財）第85号	桑原進	柔道
（財）第86号	望月美孝	スキー
（財）第87号	八木務	ソフトテニス
（財）第88号	小関忠義	ソフトテニス
（財）第89号	伊東末廣	テニス
（財）第90号	山本巖	テニス
（財）第91号	秋山政行	テニス
（財）第92号	大石嘉春	バスケット
（財）第93号	服部勝彦	野球
（財）第94号	大倉文雄	陸上競技
（財）第95号	菅沼哲夫	陸上競技
（財）第96号	石上雅宏	陸上競技
（財）第97号	天野一	陸上競技
（財）第98号	築地次満	ソフトボール
（財）第99号	中津川博	ソフトボール
（財）第100号	増田義雄	体育ボクシング
（財）第101号	小野田きく江	ラジオ体操
（財）第102号	井原猛	合気道
（財）第103号	平山正昭	合気道
（財）第104号	海野力致	スポーツ少年団
（財）第105号	谷川良巳	事務局
（財）第106号	横山保	事務局
（財）第107号	原川正昭	事務局
（財）第108号	村田信一	事務局
（財）第109号	大石利明	事務局
（財）第110号	大野哲裕	事務局
（財）第111号	山田顕男	事務局

創立65周年記念表彰（平成24年度）

（財）第112号	鷲山久	山岳
（財）第113号	藤ヶ谷貞雄	山岳
（財）第114号	森健次	山岳
（財）第115号	高田雅司	サッカー
（財）第116号	伊藤多門	サッカー
（財）第117号	小原晴世	サッカー
（財）第118号	杉山勝	水泳
（財）第119号	加藤崇史	ソフトテニス
（財）第120号	山島百樹	ソフトテニス
（財）第121号	長谷優	ソフトテニス
（財）第122号	鈴木康弘	バスケット
（財）第123号	鈴木成治	バスケット
（財）第124号	林芳久仁	バスケット
（財）第125号	大川勇	バレーボール
（財）第126号	村田健児	バレーボール
（財）第127号	榊原敏郎	野球
（財）第128号	渡辺勝	野球
（財）第129号	杉山繁	野球
（財）第130号	堀平清	野球
（財）第131号	小泉雅弘	ラグビー
（財）第132号	西貝昭治	陸上競技
（財）第133号	山内清一	陸上競技
（財）第134号	橋本美智夫	陸上競技
（財）第135号	村上馨	陸上競技
（財）第136号	高野勇	ソフトボール
（財）第137号	佐野勝美	ソフトボール
（財）第138号	吉田裕行	ソフトボール
（財）第139号	梶山富士夫	ソフトボール
（財）第140号	青柳正	スケート
（財）第141号	若月和雄	スケート
（財）第142号	西村知子	体操
（財）第143号	大石益雄	ラジオ体操
（財）第144号	小林茂雄	ラジオ体操
（財）第145号	宗野保平	ラジオ体操
（財）第146号	遠藤好美	トランポリン
（財）第147号	稲垣由明	ダンススポーツ

創立70周年記念表彰（平成29年度）

（公財）第1号	鹿又清士	弓道
（公財）第2号	長倉康博	山岳
（公財）第3号	勝澤要	サッカー
（公財）第4号	納谷義郎	サッカー
（公財）第5号	白井久仁彦	スキー
（公財）第6号	小田切輝夫	ソフトテニス

(公財)第 7号	市 川 博	ソフトテニス
(公財)第 8号	濱 村 和 幸	バスケット
(公財)第 9号	平 出 政 夫	バスケット
(公財)第 10号	森 谷 敏 幸	野 球
(公財)第 11号	高 橋 修 三	野 球
(公財)第 12号	原 野 雄 二	野 球
(公財)第 13号	大 村 一 雄	ラグビー
(公財)第 14号	小 池 浩	ラグビー
(公財)第 15号	田中二三男	ソフトボール
(公財)第 16号	大 庭 宏 之	ソフトボール
(公財)第 17号	相 澤 英 夫	ソフトボール
(公財)第 18号	榎 本 修 三	グラウンド・ゴルフ

静岡・清水両体育協会
合併5周年記念表彰(H22 年度)

今 村 祝	弓 道
遠 藤 盛 宏	弓 道
川 村 正 男	弓 道
中 島 久 之	弓 道
朝倉十四和	クレー射撃
伊 藤 昭 彦	柔 道
望 月 敏 男	柔 道
杉 本 昌 司	柔 道
宮城島安宏	水 泳
山 崎 君 子	水 泳
児 平 隆 一	スキー
福 正 男	相 撲
久保田陽一	テニス
山 本 輝 男	バスケット
鈴 木 幸 雄	野 球
大 石 喜 義	野 球
望 月 正 男	陸上競技
村 松 義 明	陸上競技
片 平 正 廣	陸上競技
田 中 善 親	陸上競技
川 端 景 規	陸上競技
風 間 正 克	陸上競技
澤 井 和 子	ソフトボール
納 本 愛 子	ソフトボール
伏見美佐枝	ソフトボール
吉 田 芳 美	ソフトボール
前 田 亜 子	ソフトボール
杉 山 仁 夫	体 操
花 村 侑 子	ラジオ体操
西 井 き よ	ラジオ体操
平 野 正 夫	ラジオ体操
渡 邉 眞 一	バドミントン
大 槻 民 夫	バドミントン
斎 藤 吉 弘	バドミントン
木 田 成 昭	バドミントン
国 松 達 雄	バドミントン
松 永 和 義	合 気 道

公益財団法人静岡市体育協会

定　款

目　次

第　1 章	総則	第　1 条	(名称)
		第　2 条	(事務所)
第　2 章	目的及び事業	第　3 条	(目的)
		第　4 条	(事業)
第　3 章	資産及び会計	第　5 条	(財産の種別)
		第　6 条	(基本財産の維持及び処分)
		第　7 条	(株式(出資)に係る議決権)
		第　8 条	(財産の管理及び運用)
		第　9 条	(事業年度)
		第 10 条	(事業計画及び収支予算)
		第 11 条	(事業報告及び決算)
		第 12 条	(公益目的取得財産残額の算定)
第　4 章	評議員	第 13 条	(評議員の定数)
		第 14 条	(評議員の資格)
		第 15 条	(評議員の選任及び解任)
		第 16 条	(評議員の任期)
		第 17 条	(評議員の報酬等)
第　5 章	評議員会	第 18 条	(構成)
		第 19 条	(権限)
		第 20 条	(開催)
		第 21 条	(招集)
		第 22 条	(議長)
		第 23 条	(決議)
		第 24 条	(議事録)
		第 25 条	(評議員会運営規則)
第　6 章	役員	第 26 条	(役員の設置)
		第 27 条	(役員の資格)

		第 28 条	（役員の選任）
		第 29 条	（理事の職務及び権限）
		第 30 条	（監事の職務及び権限）
		第 31 条	（役員の任期）
		第 32 条	（役員の解任）
		第 33 条	（役員の報酬等）
		第 34 条	（責任の免除又は限定）
第　7 章	理事会	第 35 条	（構成）
		第 36 条	（権限）
		第 37 条	（招集）
		第 38 条	（議長）
		第 39 条	（決議）
		第 40 条	（決議の省略）
		第 41 条	（報告の省略）
		第 42 条	（議事録）
		第 43 条	（理事会運営規則）
第　8 章	名誉役員	第 44 条	（名誉役員）
第　9 章	加盟団体及び賛助会員	第 45 条	（加盟団体）
		第 45 条の 2	（賛助会員）
第 10 章	加盟団体連絡協議会	第 46 条	（加盟団体連絡協議会）
第 11 章	専門委員会	第 47 条	（専門委員会）
第 12 章	事務局	第 48 条	（事務局）
第 13 章	定款の変更及び解散	第 49 条	（定款の変更）
		第 50 条	（解散）
		第 51 条	（公益認定の取消し等に伴う贈与）
		第 52 条	（残余財産の帰属）
第 14 章	公告の方法	第 53 条	（公告の方法）
附則			

第１章　総則

（名称）

第１条　この法人は、公益財団法人静岡市体育協会と称する。

（事務所）

第２条　この法人は、主たる事務所を静岡県静岡市に置く。

２　この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。これを変更又は廃止する場合も同様とする。

第２章　目的及び事業

（目的）

第３条　この法人は、静岡市におけるスポーツの普及・振興を図り、スポーツ精神を培い、市民の健康・体力づくりの推進に関する事業を行い、もって健康で豊かな市民生活の育成に寄与することを目的とする。

（事業）

第４条　この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1)　スポーツの振興に関する基本方針を確立すること。

(2)　体育団体の育成強化及び連絡調整に関すること。

(3)　体育指導者の資質向上に関すること。

(4)　スポーツの競技力向上に関すること。

(5)　スポーツ少年団の育成強化に関すること。

(6)　市民の健康及び体力づくりに関すること。

(7)　各種競技大会及びスポーツ教室の開催に関すること。

(8)　市民総合体育大会に関すること。

(9)　スポーツの調査研究及び広報活動に関すること。

(10) 体育功労者、優秀指導者、優秀選手及び優秀団体の表彰に関すること。

(11) 市から受託したスポーツ施設の管理運営に関すること。

(12) 旅行業法に基づく旅行業

(13) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

第３章　資産及び会計

（財産の種別）

第５条　この法人の財産は、基本財産及びその他の財産の２種類とする。

２　基本財産は、この法人の目的である事業を行うために不可欠なものとして評議員会で

定めた財産とする。

3　その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

（基本財産の維持及び処分）

第6条　基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

2　基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を受けなければならない。

（株式(出資)に係る議決権）

第7条　この法人は、保有する株式(出資)に係る議決権を行使してはならない。

（財産の管理及び運用）

第8条　この法人の財産の管理及び運用は、会長が行うものとし、その方法は、理事会の決議により別に定めるものとする。

（事業年度）

第9条　この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

（事業計画及び収支予算）

第10条　この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2　前項の書類については、主たる事務所に当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第11条　この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書(正味財産増減計算書)

(5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書

(6) 財産目録

2　前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3　第１項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に５年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

（公益目的取得財産残額の算定）

第 12 条　会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第 48 条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第３項第４号の書類に記載するものとする。

第４章　評議員

（評議員の定数）

第 13 条　この法人に、評議員 10 名以上 13 名以内を置く。

（評議員の資格）

第 14 条　次に掲げる者は、評議員になることができない。

(1) 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）第 173 条第１項において準用する同法第 65 条第１項各号に掲げられた者

(2) 一般社団・財団法人法第 173 条第１項において準用する同法第 65 条第１項第３号又は同項第４号に該当する刑に処せられる可能性のある罪で起訴されている者

(3) 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「公益法人認定法」という。）第６条第１号に該当する者

(4) 公益法人認定法第６条第１号ロ又はハに該当する刑に処せられる可能性のある罪で起訴されている者

２　評議員は、前項各号のいずれかに該当するに至ったときは、自動的に評議員としての資格及び地位を喪失する。

（評議員の選任及び解任）

第 15 条　評議員の選任及び解任は、一般社団・財団法人法第 179 条から第 195 条までの規定に従い、評議員会において行う。

２　評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。

(1)　各評議員について、次のイからへまでに該当する評議員の合計数が評議員の総数の３

分の１を超えないものであること。

イ　当該評議員及びその配偶者又は３親等内の親族

ロ　当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者

ハ　当該評議員の使用人

ニ　ロ又はハに掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持している者

ホ　ハ又はニに掲げる者の配偶者

ヘ　ロからニまでに掲げる者の３親等内の親族であって、これらの者と生計を一にする者

(2)　他の同一の団体（公益法人を除く。）の次のイからニまでに該当する評議員の合計数が評議員の総数の３分の１を超えないものであること。

イ　理事

ロ　使用人

ハ　当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあっては、その代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者

ニ　次に掲げる団体においてその職員(国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。)である者

① 国の機関

② 地方公共団体

③ 独立行政法人通則法第２条第１項に規定する独立行政法人

④ 国立大学法人法第２条第１項に規定する国立大学法人又は同条第３項に規定する大学共同利用機関法人

⑤ 地方独立行政法人法第２条第１項に規定する地方独立行政法人

⑥ 特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人であって、総務省設置法第４条第 15 号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。）

３　評議員は、この法人の理事、監事または使用人を兼ねることができない。

（評議員の任期）

第 16 条　評議員の任期は、選任後４年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

２　任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3　評議員は、第 13 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する

（評議員の報酬等）

第 17 条　評議員に対して、1 人あたりの各年度の総額が 3 万円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

2　評議員には、その職務を行うために要する費用の弁償をすることができる。この場合の支給基準については、評議員会において別に定める。

第 5 章　評議員会

（構成）

第 18 条　評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

（権限）

第 19 条　評議員会は、次の事項について決議する。

(1) 理事及び監事の選任又は解任

(2) 理事及び監事の報酬等の額

(3) 評議員に対する報酬等の支給の基準

(4) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認

(5) 定款の変更

(6) 残余財産の処分

(7) 基本財産の処分又は除外の承認

(8) 理事会で評議員会に付議することを決議した事項

(9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開催）

第 20 条　評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後 3 箇月以内に 1 回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第 21 条　評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2　評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

３　評議員会を招集する場合には、会長は、評議員会の日の１週間前までに、評議員に対して、会議の日時、場所、目的である事項等を記載した書面によりその通知を発しなければならない。ただし、評議員の全員の同意がある場合には、招集の手続を経ることなく評議員会を開催することができる。

（議長）

第 22 条　評議員会の議長は、その評議員会において、出席した評議員のうちから選定する。

（決議）

第 23 条　評議員会の決議は､決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

２　前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の３分の２以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 監事の解任

(2) 評議員に対する報酬等の支給の基準

(3) 定款の変更

(4) 基本財産の処分又は除外の承認

(5) その他法令で定められた事項

（議事録）

第 24 条　評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

２　議長及び評議員会に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人２名以上は、前項の議事録に記名押印する。

（評議員会運営規則）

第 25 条　評議員会の運営に関して必要な事項は、法令又はこの定款に定めるもののほか、評議員会において別に定める評議員会運営規則によるものとする。

第６章　役員

（役員の設置）

第 26 条　この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事　７名以上 10 名以内

(2) 監事　３名以内

２　理事のうち１名を会長、２名を副会長、１名を専務理事、１名を常務理事とする。

3　前項の会長をもって一般社団・財団法人法上の代表理事とし、副会長及び専務理事をもって同法第 91 条第１項第２号の業務執行理事とする。

（役員の資格）

第 27 条　次に掲げる者は、理事又は監事となることができない。

(1) 一般社団･財団法人法第 177 条において準用する同法第 65 条第１項各号に掲げられた者

(2) 一般社団･財団法人法第 177 条において準用する同法第 65 条第１項第３号又は同項第４号に該当する刑に処せられる可能性のある罪で起訴されている者

(3) 公益法人認定法第６条第１号に該当する者

(4) 公益法人認定法第６条第１号ロ又はハに該当する刑に処せられる可能性のある罪で起訴されている者

2　理事又は監事は、前項各号のいずれかに該当するに至ったときは、自動的に理事又は監事としての資格及び地位を喪失する。

（役員の選任）

第 28 条　理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2　会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議により理事の中から選定する。

3　この法人の理事のうちには、理事のいずれか１人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の３分の１を超えて含まれることになってはならない。

4　この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係がある者を含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。

（理事の職務及び権限）

第 29 条　理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2　会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、副会長及び専務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3　会長、副会長及び専務理事は、毎事業年度に４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

4　常務理事は、第 46 条に定める加盟団体連絡協議会の会長として、当該協議会を統括する。

（監事の職務及び権限）

第 30 条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2　監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第 31 条　理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2　監事の任期は、選任後 4 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3　任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4　増員された理事の任期は、他の現任者の任期の満了する時までとする。

5　理事又は監事は、第 26 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）

第 32 条　理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議により解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（役員の報酬等）

第 33 条　理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

2　理事及び監事には、その職務を行うために要する費用の弁償をすることができる。この場合の支給基準については、評議員会において別に定める。

（責任の免除又は限定）

第 34 条　この法人は、理事及び監事の一般社団・財団法人法第 198 条において準用される第 111 条第 1 項の損害賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、損害賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

2　この法人は、非業務執行理事等との間で、前項の損害賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には損害賠償責任を限定する契約を、理事会の決議により締結することができる。ただし、その契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額とする。

第7章　理事会

（構成）

第35条　理事会は、すべての理事をもって構成する。

（権限）

第36条　理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定及び解職

（招集）

第37条　理事会は、会長が招集する。

2　会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

3　前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく理事会を開催することができる。

（議長）

第38条　理事会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、会長に事故があるときは、あらかじめ理事会で定めた順序により、他の理事がこれに当たる。

（決議）

第39条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

（決議の省略）

第40条　理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、その提案につき議決に加わることができる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき(監事がその提案について異議を述べたときを除く。)は、その提案を可決する旨の決議があったものとみなす。

（報告の省略）

第41条　理事又は監事が理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、その事項を理事会へ報告することを要しない。ただし、会長及び業務執行理事における、各自の職務の執行の状況の報告はこの限りでない。

（議事録）

第 42 条　理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2　出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

（理事会運営規則）

第 43 条　理事会の運営に関して必要な事項は、法令又はこの定款に定めるもののほか、理事会において別に定める理事会運営規則によるものとする。

第 8 章　名誉役員

（名誉役員）

第 44 条　この法人に、名誉役員として名誉会長、名誉顧問、特別顧問及び顧問を合わせて 25 名以内を置くことができる。

2　名誉役員は、会長の諮問に応じて評議員会及び理事会に出席して意見を述べることができる。

3　名誉役員の選任及び解任は、理事会において決議する。

4　名誉役員は、無報酬とする。

5　名誉役員の詳細については、会長が別に定める。

第 9 章　加盟団体及び賛助会員

（加盟団体）

第 45 条 この法人の趣旨に賛同する静岡市内の各種目別スポーツを統轄する団体、静岡市内の学校体育を統轄する団体及び静岡市スポーツ少年団で、この法人に加盟したものをもって加盟団体とする。

2　加盟団体に関する事項は、理事会の決議により別に定める。

（賛助会員）

第 45 条の 2　この法人の目的に賛同し､その事業に協力しようとする個人又は団体を賛助会員とすることができる。

2　賛助会員に関する事項は、理事会の決議により別に定める。

第 10 章　加盟団体連絡協議会

（加盟団体連絡協議会）

第 46 条　この法人の事業を推進するために、加盟団体連絡協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2　協議会は、各加盟団体から選出された担当者をもって構成する。

3　協議会は、この法人の運営に対し、意見を述べるとともに、この法人の運営を支援、協力する。

4　協議会の会長以外の役員は、理事会において選任及び解任する。

5　協議会に関する事項は、理事会の決議により別に定める。

第 11 章　専門委員会

（専門委員会）

第 47 条　この法人に、第 4 条に定める事業を円滑に遂行するために、理事会の決議を経て、理事会のもとに必要な専門委員会を置くことができる。

2　各専門委員会の名称、目的その他の各専門委員会の構成及び運営に関する事項は理事会の決議により別に定める。

3　委員長・副委員長は、会長が理事会の承認を得て任免する。

4　前項以外の委員は、会長が任免する。

第 12 章　事務局

（事務局）

第 48 条　この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

2　事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

3　事務局長は、会長が理事会の承認を得て任免する。

4　前項以外の職員は、会長が任免する。

第 13 章　定款の変更及び解散

（定款の変更）

第 49 条　この定款は、評議員会の決議により変更することができる。

2　前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 15 条についても適用する。

（解散）

第 50 条　この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

（公益認定の取消し等に伴う贈与）

第 51 条　この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から 1 箇月以内に、公益法人認定法第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

第 52 条　この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益法人認定法第５条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第 14 章　公告の方法

（公告の方法）

第 53 条　この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

附　則

１　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 106 条第１項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

２　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 106 条第１項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第６条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

３　この法人の最初の会長は川村修、副会長は増田正史、渕本邦知、専務理事は池川茂とする。

４　この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

千原圏一　渡邉武利　納谷義郎　青島好秀　市川 博　松村吉郎　藤原 林　嶋本千秋　浅野 孝　松永義夫　亀山正敏　浅川やゑ美　岡村喜美

附　則（平成 27 年３月 17 日）

この定款の改正は、平成 27 年４月１日から施行する。

前項の規定にかかわらず、第 34 条第２項の施行の日は、会社法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成 26 年６月 27 日法律第 91 号）の施行の日とする。

附　則（平成 30 年３月 30 日）

この定款の改正は、平成 30 年４月１日から施行する。

編 集 後 記

昭和23年の協会設立から70年という記念すべき節目を迎え、この70周年記念誌を発刊し皆様方にお届けできますことを大変うれしく思います。

今回記念誌の作成に当たり、今後も継続性を持たせることを考えながら『創立50周年記念誌』を参考に、創立50年から70年までの20年間の出来事を掲載しました。

この20年間は協会にとって本当に大きな出来事がございました。諸先輩方の大変な努力と加盟団体の皆様をはじめとして大変多くの人に支えられ、今日の協会があることを改めて知らされた次第でございます。

最後に、大変お忙しい中、原稿をお寄せいただきました市長、前副会長そして各加盟団体の皆様方、また記念誌の作成に最後までご尽力いただきました委員の皆様方に心より感謝申し上げ、編集後記とさせていただきます。

調査広報委員会

委 員 長　鈴木　榮
副委員長　海野弘美
委　　員　浅野　孝
委　　員　市川　博
委　　員　千原圏一
委　　員　横山孝志
委　　員　福井秀明

創立70周年記念誌

平成 30 年 3 月

編集・発行　公益財団法人　静岡市体育協会
〒422-8006　静岡市駿河区曲金三丁目 1 番 10 号
ツインメッセ静岡　西館 2 階
TEL : 054-654-5151　FAX : 054-283-6777

